

350

367又

事故本

切り取りあり.

目次・P1 間の図

P98・99 間の図

H11.7.14



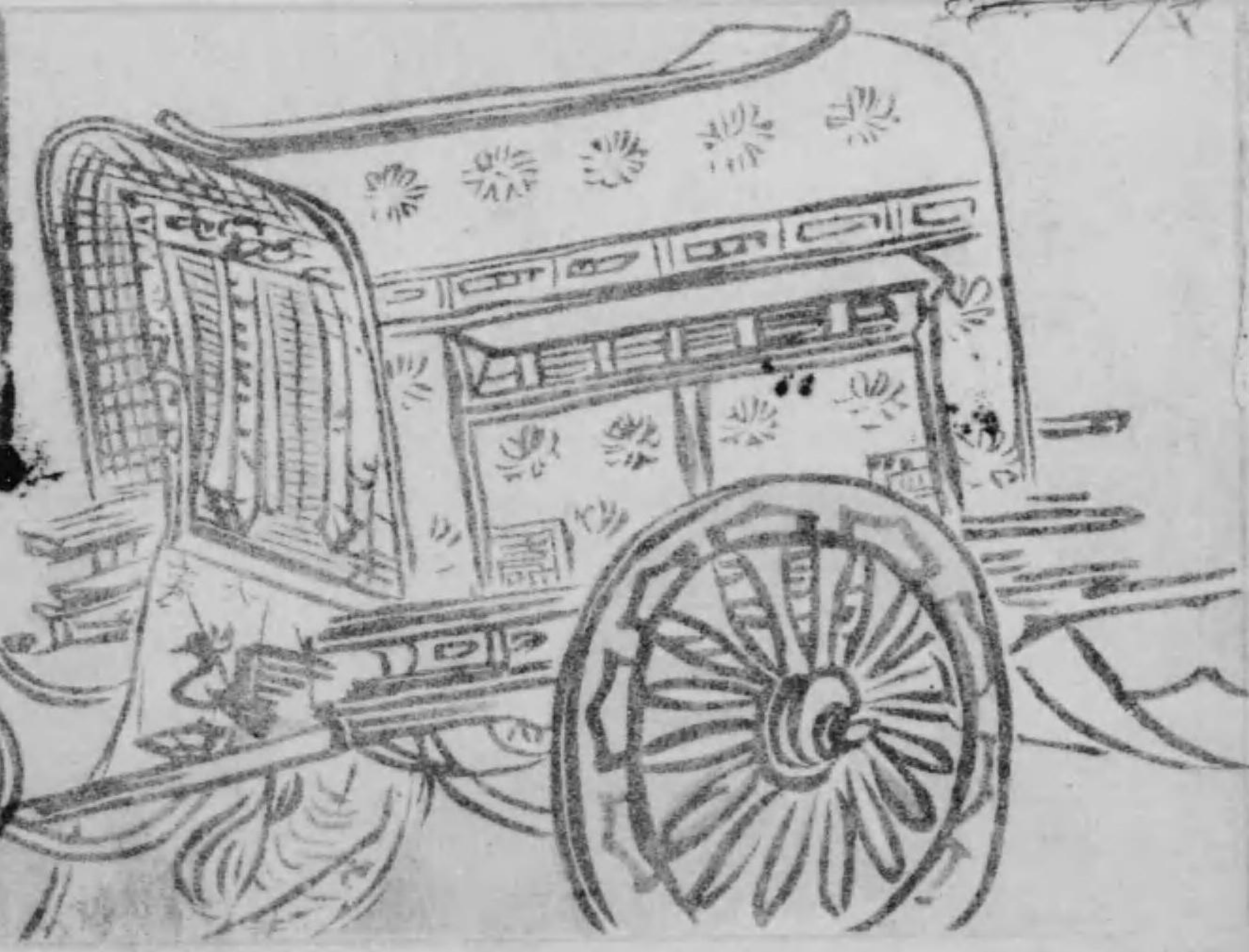
始



210-267

鐵道
旅行案内

大正
10.10.21
寄贈



11 省

350
367
又

例言

一本書は鐵道によつて旅行せらるゝ人々の參考に供せんが爲に、沿線主要の地に就て、遊覽地や遊覽旅行經路等を概説したものである。一汽車の窓から見ゆる景觀圖は、新なる試みとして、本年始めて挿入したものであるが、全線を僅に二百餘頁に縮めた爲め、描いて其微を盡さざるの恨あるは、誠に止むを得ぬ次第である。

一上記の如く記事と圖繪とをこの小冊子に併せ收めた結果は、双方とも勢簡略なものとなり、沿線主要地の案内に止まることとなつたが、夫でも大方の旅行者には多少の參考となるべきことを信するのである。

一私設鐵道、輕便鐵道、軌道の分岐點、接續點等は本文に記載漏れのものも多い、これらは凡て「鐵道連絡表」を参照せられんことを希望する。一道廳府縣廳所在地驛には別に其道府縣產業の概要を附記し、各種の統計を附して參考に供することにした。

一記事【】印は驛名、▼印は遊覽地其他の符號である。又旅館は其地の記の下に記入した。

一本書は匆忙の際に編纂したもので、行文に
材に誤謬杜撰の點も多からうと思ふ。編纂
方の御垂教を俟つのである。
一鐵道の施設經營に就ては、社會の進運に伴ひ
時代の要求に應ずる目的を以て、當務者は一
意専心諸般の改善發展に腐心しつゝ、あれど
尙其力の及ばざらんことを恐るゝ次第であ
る。この點に就ては特に大方の垂教に俟たね
ばならぬ。識者幸に之を諒とし、當務者を指導
啓發せられんことを希望するのである。

大正十年十月

圖繪中地形の關係上左方より見る様に
書いたところも多い。夫れから八七、八
八頁の間に挿入せる福山、糸崎、河内間の
繪は、七九、八〇頁の間にある岡山、福山に
續くべきを誤つて脱落したので山陽線
の終に挿入して置いた。

鐵道旅行案内目次

- 一 鐵道營業案内 一
- 一 東京及其附近 二二
- 東京及其附近遊覽層 二九
- 一 東海道線 三三
- 東海道本線 三六
- 横濱 三七
- 横須賀線 三八
- 鎌倉 三九
- 箱根 四一
- 富士 四三
- 静岡 四九
- 濱名湖畔 五一
- 武豊線 五三
- 名古屋 五三
- 岐阜 五五
- 大津 五八
- 京都 六〇
- 京都及附近遊覽層 六二
- 大阪 六五
- 福知山線 六九
- 神戸 七〇
- 一 山陽線 七三
- 山陽本線 七四
- 須磨明石 七五
- 播但線 七六
- 岡山 七七
- 宇野線 七七
- 吳線 七九

廣島	八〇
山口線	八二
下關	八三

一 中央線

中央本線	八四
富士	八四
甲府	八四
篠ノ井線	八四

一 北陸線

北陸本線	一〇五
小浜線	一〇五
福井	一〇六
三國線	一〇七
山代山中温泉	一〇七
金澤	一〇九
七尾線	一一一
富山	一一一

一 關西線

關西本線	一一六
參宮線	一一七
津	一一七
伊勢大廟	一一八
草津線	一二一
奈良線	一二四
片町線	一二五
奈良	一二六
櫻井線	一二一
和歌山線	一三五
吉野	一三六
和歌山	一四〇

一 山陰線

山陰本線	一四二
舞鶴線	一四三
天の橋立	一四三
鳥取	一四七
境線	一四九
松江	一五〇
大社線	一五一

一 讃岐線

高松	一五四
金刀比羅宮	一五六
	一五七

一東北線

東北本線	一九七
山手線	一九七
兩毛線	一九九
上越南線	一九九
前橋	二〇〇
足尾線	二〇一
水戸線	二〇三
真岡輕便線	二〇三
宇都宮	二〇四
日光線	二〇五

一總武線

日光	二〇五
鹽原	二〇九
福島	二一一
仙臺	二一三
松島	二一六
平泉	二一八
盛岡	二二〇
青森	二二二
常磐線	二二四
水戸	二二七

一信越線

總武本線	二二七
千葉	二二八
成田線	二三〇
房總線	二三六
北條線	二三八

一磐越線

高崎線	二四〇
信越本線	二四二
長野	二四七
新潟	二五一
村上線	二五五

一磐越西線

磐越西線	二五九
磐越東線	二六〇

一奥羽線

奥羽本線	二六一
米澤	二六二
山形	二六四
秋田	二六五



凡例
Explanation.

——	省線 Government Railways.
——	國有特種 Freight Lines, Government Railways.
——	私營 Private Companies' Railways.
——	國軌道線 Private Companies' Tramway Lines.
——	省船航路 Government Railway Steamer Lines.
——	私船航路 Private Companies' Steamer Lines.
——	國縣界 Boundary Lines of Provinces & Prefectures.
○ ○	停車場及港 Stations & Ports.
—	臨時停車場 Stations Open only for Certain Seasons.
■	都市 Cities.
○	府、縣、支廳所在地 Seats of Local Governments.
☉	著名溫泉 Noted Hot Springs.
▲	名所、田蹟、勝地、公園、海濱浴場 Pleasure Resorts & Places of Interest.
□	要地帶 Strategic Zones.

一 電話番號表 二九七
一 鐵道連絡表 二九六
一 國有鐵道線路名稱 二九四
一 網走線 二九二
網走本線 二九二
網走 二九三
湧別輕便線 二九三
一 根室線 二九二
根室本線 二九〇
根室 二九二
釧路 二九二
一 室蘭線 二八七
室蘭本線 二八七
夕張線 二八七
室蘭 二八八
一 函館線 二八〇
函館本線 二八〇
函館 二八〇
小樽 二八二
札幌 二八二
旭川 二八六
宗谷線 二八七
一 陸羽線 二七二
石卷輕便線 二七二
陸羽東線 二七二
陸羽西線 二七四
一 船川輕便線 二六七

鐵道旅行案内

鐵道營業案内

乗車運賃

一當省所定の三等乗車運賃は遞次累加法に據り、左の賃率を以て算出し、二等運賃は其二倍、一等運賃は同三倍と定めてありますから、各等共距離の區間を通じて御旅行せらるる程

一哩當り運賃の割合は次第に廉くなります	五十哩以下の哩程	每一哩	二錢五厘
五十哩を越ゆる哩程	同	同	二錢一厘
百哩を越ゆる哩程	同	同	一錢七厘
二百哩を越ゆる哩程	同	同	一錢四厘
三百哩を越ゆる哩程	同	同	一錢二厘
四百哩を越ゆる哩程	同	同	一錢一厘
五百哩を越ゆる哩程	同	同	一錢

定期及回数乗車券

一定期乗車券 本券は通勤等の爲毎日一定の區間を往復せらるる方々の御便利を圖り設けたもので、其使用期間を一箇月、三箇月、六箇月、十二箇月の四種に分ち、使用期間と乗車區間の哩程とに應じ、二等及三等に限り普通運賃の約五割三分乃至八割四分引にて發賣致します、又通學の爲一定の區間を往復せらるる學生方に對しては、三等に限り尙一層低廉な運賃を以て一箇月、三箇月、六箇月、十二箇月通用の學生定期乗車券を發賣致します

一回數乗車券 本券は家庭用、商用等にて同一の區間を屢々往復せらるる方々の爲設けたもので、片道廿五回分を一冊に綴り

其使用期間を三箇月とし、二等及三等に限り乗車區間の哩程に應じ、普通運賃の約二割乃至三割引で發賣致します。本券は記名人及同行者四名以内に限り使用し得るもので、尙大人用回数券の一片を以て小兒の方二名、小兒用回数券二片を以て大人一人御乗車せられても差支御座いません。

朝鮮滿洲支那連絡

一日鮮滿巡遊券 本券は内地、朝鮮、滿洲間を周遊される方の御便利を圖り、當省線、朝鮮及滿洲線主要驛に於て發賣して居るもので、當省線内の發賣驛及其周遊徑路は左の通でありませぬ。

(發賣驛) 東京、新橋、横濱、名古屋、京都、大阪、神戸、廣島、下關、門司、博多、長崎、熊本、鹿児島及東京、横濱、名古屋、京都、大阪市内發賣所

(周遊徑路) 發驛 門司 迄 直行 大阪商船會社汽船に接續—大連—奉天—安東—南大門—釜山—下關—始發驛に歸着、又は此反對徑路

本券は發行の日共六十日間有効で、途中下車の制限もなく運賃は普通運賃の約三割引であります。又本券所持の御方は添付の割引證に依り永登浦仁川間、奉天長春間往復普通運賃の三割引を受くる特典もあります。

一日支那往復乘車券 日支聯絡驛相互間を往復旅行される各位は、本券を御利用なさるゝのが御徳用であります。本券は普通運賃の二割引で通用期間は發行日共二箇月であります。

一日支周遊券 本券は日本及支那を周遊旅行される各位の御便宜を圖り、當省線、朝鮮線、滿洲線、支那國有鐵道線主要驛及日本郵船並に日清汽船會社取扱店で發賣してあるもので、當省線内の發賣驛所及其周遊徑路は左の通であります。

(發賣驛) 東京、新橋、横濱、名古屋、京都、大阪、三ノ宮、神戸、下關、門司、長崎及東京、横濱、名古屋、京都、大阪市内發賣所、釜山發賣所

(周遊徑路) 發驛—釜山—京城—安東—奉天—北京—漢口—揚子江航路—上海—(日本郵船)神戸(三ノ宮、天津)—(津浦線及滬寧線)

神戸、下關、門司、長崎は各發地に「上陸」—始發驛、又は此反對徑路

本券の運賃は鐵道(關釜連絡船を含む)二割引、汽船一割引で通用期間は發行の日共四箇月であります。又本券によつて御旅行なさるゝ方々は本券附屬の割引證を提出して永登浦仁川間、奉天大連間、瀋陽子牛莊間、北京張家口間、上海北驛杭州間に對し普通運賃の二割引で往復乘車券を購求出来る特典があります。

一日鮮滿往復連絡引乘車券 當省線と朝鮮及滿洲間を往復旅行をなさる各位の爲に、東海道線、山陽線、北陸線、九州線、瀨岐線、東北線、奥羽線及信越線、各主要驛と朝鮮及滿洲線主要驛相互間普通運賃の二割引で、有效六十日間の往復乘車券を發賣致します。

團體割引

一普通團體 五十人以上一團となり三等で御旅行の場合には季節と人員とに應じ左表の通運賃の割引を致します。但四月中は割引致しません。

輸送期間	人員	五十人以上	二百人以上	五百人以上
第一期	一	割	一割五分	二割
第二期	二	割	二割五分	三割

第一期 自一月一日 至一月十日
自三月一日 至三月末日
自五月一日 至五月末日
自七月一日 至十二月末日

第二期 自一月十一日 至二月末日
自六月一日 至六月末日

一特別團體 官、公、私立學校の學生生徒及工場法若は礦業法の適用を受くる工場の労働者、礦夫又は當省で特に認むる勞

働者等五十人以上一團となり三等にて御旅行の場合は、季節と人員とに應じ左表の通運賃の割引を致します、但四月中は割引致しません

乗券期間	人員	
	五十人以上	二百人以上
第一期	二割五分	三割
第二期	四割	五割

第一期、第二期の区分は普通團體の場合と同様で御座います

普通、特別團體共團體の人員が百人未満の時は内一人を、百人以上の團體には百人毎に内一人を監督として無賃で御取扱致します

一日鮮滿聯絡團體 朝鮮、南滿洲を視察せらるる、二十人以上の二等又は三等の團體に對しては、往復日數六十日以内の場合に限り普通運賃を半減し、且其世話人(團員五十人迄は一人、五十一人以上は五十人を増す毎に一人を加へ五人を以て限度とする)を無賃で御取扱致します

一日支聯絡團體 日本と支那間の往復又は周遊團體に對しては往復日數二箇月以内の場合に限り左記の通割引を爲し、且其世話人は團員廿一人以上の場合日鮮滿聯絡團體同様無賃で御取扱致します

十人以上 日支各鐵道共二割五分引
二十人以上 鐵道省及鮮滿鐵道線三割又は五割引、支那鐵道線三割引

急行列車及汽船券

一急行列車券 東京と下關、神戸間、門司と鹿兒島、長崎間、上野と青森間、函館と流川間に於ける指定の急行列車に乗車される方は、乗車券以外別に「急行列車券」を御求め願ひます、其料金は左の通で御座います、但小兒四年未満は無料、

四年以上十二年未満は半額で御座います

特別急行料金 (東京、下關間第一、二列車)

等級	哩程	二百五	五百哩迄	五百以上
一等	等	二圓五十錢	四圓	五圓
二等	等	四圓	六圓	七圓五十錢

普通急行料金 (前記以外の急行列車全部)

等級	哩程	二百五	五百哩迄	五百以上
三等	等	六十五錢	一圓	一圓二十五錢
二等	等	一圓三十錢	二圓	二圓五十錢
一等	等	二圓	三圓	三圓七十五錢

一急行汽船券 青森函館間第一、二便に御乗船の方は乗船券の外別に「急行汽船券」を御求め願ひます、其料金は左の通で御座います、但小兒四年未満は無料、四年以上十二年未満は半額で御座います

一等 一圓五十錢、二等 一圓、三等 五十錢

特別急行列車券は御乗車の日の四日前より座席番號を指定して發賣致します、普通急行列車券は發賣の日共二日以内に、急行汽船券は發賣當日に御使用にならば無効となります

乗車券の通用期間

一乗車券の通用期間は左の通で總て發行當日より起算致します

片道乗車券 百哩迄 二日

以上百哩迄を増す毎に 一日

往復乗車券は片道乗車券通用期間の二倍

回遊乗車券 延長百哩迄 三日

以上延長百哩を増す毎に 一日

通 行 税

一 通行税は左の通り御座います

等 級	哩 程			
	半哩又は 百哩未満	百哩又は 二百哩未満	二百哩又は 三百哩未満	三百哩又は 五百哩以上
一 等	五 銭	二十 銭	四十 銭	五十 銭
二 等	三 銭	十 銭	二十 銭	二十五 銭
三 等	一 銭	二 銭	三 銭	四 銭

乗車券引換證

一本證は無手数料で發行し、運賃、料金を拂込人の指定される停車場で本證と引換に相當の乗車券、急行券、寢臺券等を御渡しする仕組のもので、引換有効期間は一箇月で御座います、賓客の招待、僕婢の遣喚、旅行者への進物等に用ゐて最便利なもので御座います

臨時列車及客車の貸切

一 臨時列車を運轉して貸切とする場合は使用客車の定員全部に對する大人運賃を申受けます、但列車貸切の場合の最低運賃は三等の大人普通運賃の二十五哩に對する二百人分で御座います

一 客車を貸切と爲す場合は使用する車室の定員全部に對する大人運賃を申受けます、但貸切を爲す區間が二十五哩未満の場合は二十五哩分の運賃を申受けます

一 列車又は客車の貸切を爲す場合に五十哩以上の區間を空車の儘送還するときは別に送還料を、又御都合により列車又は客車を同一驛に六時間以上滞留せしむるときは留置料を申受けます

特別車、展望車、特別室貸切

一 特別車は其構造優美で且寢室、展望室、化粧室又は料理室、食堂等の設備あり、賓客の招待又は御家族御同伴の御旅行等

には至極適當したもので御座います、貸切として御使用の場合は一等運賃の四十人分を申受けて御座います

一 展望車は展望室、談話室及寢室の設備ある客車で、之を貸切として御使用の場合は一等運賃四十人分を申受けます

一 東京下關に於ける特別急行列車及普通一、二等急行列車には御家族御同伴の御旅行に適當な特別室の設けられています、特別急行は一等運賃八人分、普通急行は同五人分を以て貸切の御座に應じます

寢 臺 車

一 東海道線、山陽線、山陰線、北陸線、中央線、東北線、信越線、磐越線、奥羽線、北海道線及九州線の主なる夜行列車及下關釜山間、青森函館間連絡船には寢臺を設備し、普通乗車賃の外別に左の寢臺料金を申受け御使用に供します、但連絡船の一等寢臺は一等旅客に對し無料で御使用に供します

列車の二等寢臺 並形 一夜に付一箇 上段 三 圓
下段 四圓五十錢

同 大形 同 下段 六圓五十錢

列車の一等寢臺 並形 同 上段 五 圓
下段 七 圓

汽船の二等寢臺 一箇 甲 (別室) 一 圓
乙 (普通室) 五十 錢

寢臺券は御使用の日の四日前から發賣致します

食 堂 車

一 各線の急行及直行列車には食堂車を連結し、輕便で新鮮な西洋料理又は日本料理(飲料、菓子、果物等も販賣する)を調達して居ります、右は當省直接監督の下に營業してゐるものですから其取扱方に關し不都合の處がありました節は、御座なく最寄鐵道局運輸課又は當省運輸局旅客課に御申告を願ひます

客扱専務車掌

一各線の急行及直行列車には「客扱専務車掌」を乗込ましめ座席の整理、優等車への乗換又は寢臺の使用方等に關する事項を取扱はしめると共に、列車の發着時刻又は船車の連絡時刻其他鐵道旅行に關する萬般の御質問に應答する等努めて旅客各位の御便利を圖つて居ります

列車給仕

一各線の急行及直行列車の寢臺車等には一定の服裝をした列車給仕を乗込ませ御乗車中の御使用に充て、置きます

途中下車

一旅客は左の割合に依り任意の驛に途中で下車の上再び他の列車に御乗繼が出来ます

片道	五十哩未滿	一回
同	五十哩以上三百哩未滿	二回
同	三百哩以上七百哩未滿	三回
同	七百哩以上千二百哩未滿	四回
同	千二百哩以上	五回

前項の制限を超えて途中下車をせらるゝ時は其乗車券は前途無効となります

救急函

一旅客が病氣に罹り又は怪我を受けた場合の應急處置として全線の主要驛及急、直行列車等に各種の藥品繻帶材料等を收めた救急函を備付けてありますから、必要の場合は客扱車掌又は驛員に御申出下さい

告知板

一御同行の約束ある方より先發又は先着せらるゝ等の爲、其事實を右の御方に御通知を要せらるゝ場合等の御便利を圖り、重なる停車場に「告知板」(黒板に白墨を添ゆ)を備付けてありますから御使用下さい

携帶品一時預り

一御遊覽や御用途等の爲に御荷物を一々御持ち歩きになりますと御邪魔にもなり、又待合所に置くときは盜難に罹る虞がありますから、保管に不適當なものを除いた携帶品を御預り致します、但水道橋、代々木の兩驛は取扱ひません、料金は預入れ當日から十日迄は一日に付左の通で、十一日目からは其二倍を申受けます

自轉車、小兒車	每一輛	三十錢
易損品、嵩高品、遺骨	每一箇	二十錢
右以外のもの	每一箇	十錢

直營ホテル

一當省直營のホテルは奈良及下關の二箇所に有りまして設備、食事は孰れも洋式を採り、歐式、米式の二種を設け、歐式には室料と食事を各別に定め、食事は御食事された時に限り之を室料に加算し、米式では室料と食事をまとめて計算する仕組で、孰れも格別の低廉で御座います

山陽ホテル(下關)は内地朝鮮間、本土九州間船車連絡の要衝に位せる下關停車場前に在り、館内各室共清潔を旨とし、飲食の調理に注意し、酒場、玉突場、閱覽室、浴室等の諸設備がありますから、御宿泊は勿論汽車汽船の御待合せ、御入浴御食事等にも甚だ御便利で御座います、尙車中で列車給仕に御申付け下されば電報無料にて其旨を通知し寢臺其他の用意を致させていただきます

奈良ホテル(奈良)は奈良停車場より自動車にて約五分、人力車にて約十五分、春日野公園の一隅に位し、土地高燥で近く小池を控へ遙かに奈良全市、大和平野を下瞰する形勝の城を占め、建築は幽邃の四邊に適應させる爲に古風宮殿の式に則り、各室の設備、料理等は山陽ホテルと同様に努め、玉突場婦人室、閱覽室、喫煙室、浴室、日本風庭園等を設け、尙一週間以

上の滞在に對しては料金割引の便法も有りますから、南都附近探勝又は保養の爲め御來遊の節は御投宿を希望致します
鐵道案内所
一 主要な停車場には「鐵道案内所」を設け列車の發着、接續、船車の連絡、手小荷物の託送方其他鐵道旅行に關し御案内を致して居ります

市内營業所及小荷物取扱所

一 左記の箇所に市内營業所を設け、市内の停車場と同一賃金を以て普通、割引、定期、回数等の各種乗車券、急行列車券、寢臺券及乗車券引換等の發賣並に手、小荷物發送の取扱を爲し、且團體乗車及客車貸切の御申込に應じ其他汽車發着時刻を始め營業上に係る各種の御案内等も致します、尙京都市内營業所に於ては前記の外小日扱貨物の發送をも取扱ひ、博多、長崎の兩市には小荷物取扱所を設け東京、京都、大阪を始め重なる停車場所在地市内には委託小荷物取扱所を設け、小荷物の受付を致して居ります

- 東京 神田區西今川町八番地(電話神田九六、九七番)
- 神戶 神戶市住吉町一丁目一番地(電話神戶一八二四番)
- 名古屋 名古屋市中區玉屋町四丁目二十二番地(電話二五二二番)
- 京都 京都市下京區四條通り室町西へ入ル七十二、七十四番地(電話中五七〇番)
- 大阪 大阪市東區北久太郎町三丁目三十五番地(電話東五三三番)

手荷物及小荷物

一手荷物 旅客の携帶乗車される手荷物は、網棚の上若くは腰掛の下に容れ得べき大きさのものに限られ、其以上のものを持たせられるときは座席を塞ぎ又は通路を妨げ、同乗者の迷惑となりますから御預け下さい、荷物は一等旅客一人に付百斤(十六貫)まで、二等同七十斤(十一貫二百目)まで、三等同五十斤(八貫目)までは無賃で運送致します、又牛運賃で乗車される小児方の手荷物に對する無賃制限は夫々前記の半斤量であります、右の斤量を超過した場合は其超過斤量に對し、

下記尋常小荷物運賃と同率の運賃を申受けます
御乗降の際における御携帶品運搬の爲主要駅には手荷物運搬の營業を許可し、右運搬人には總て赤帽をかぶらせ、尙其運搬料金は旅客一人に付金五錢であります

一手荷物はなるべく列車出發時刻より五分前迄に御預け下さい、若し發車時刻に迫つて申込まれるときは、止むなく不便の列車で運送するので、遲着を免れぬ場合もあります
一小荷物 一般貨物中重量容積の多大ならざるものは小荷物扱として最迅速に運送致しますから、速達を要する商品、贈答品及腐敗し易き鮮魚、野菜等の御託送には至極便利で御座います

哩程	斤量				
	二斤迄	四斤迄	七斤迄	十斤迄	十五斤迄
五十哩迄	一五	二〇	二五	三〇	三五
百五十哩迄	一五	二〇	二五	三〇	三五
三百哩迄	一五	二〇	二五	三〇	三五
五百哩迄	一五	二〇	二五	三〇	三五
以上三百哩迄、増入毎	五	一〇	一五	二〇	二五

嵩高品(輕量で嵩張つた物品)、易損品(脆弱で破損し易き物品)の運賃は前掲通常小荷物運賃の二倍、又金銀貨、貴金屬、寶玉石其他高價な物品等は其品質に應じ前掲運賃の二倍若くは三倍の運賃を申受けます、尙二箇以上の荷物に對しては一箇宛各別に運賃を計算致します

一 特別扱小荷物 都市に於ける日用品需給の便を圖り小荷物扱に依る牛乳、魚介類、鮮肉、野菜、果物及卵は左記各項に依り特別低廉な運賃を以て最御便利に取扱致します

- 一運賃
- 五十哩迄 三十斤迄 金三十錢
- 以上十斤を増す毎に 金五錢

一本扱による小荷物は驛留扱(配達は一切取扱はず)のもので到着後直に引取ることゝ承諾されたものに限り、
一本扱に依る小荷物は指定列車に限り取扱ひます
一本扱に依り發送される荷物の空器は無償で返送致します
一配達 手荷物及小荷物(車輛類其他僅少の品種を除く)は其到着停車場所在地市内及其停車場より凡そ一里半以内の地に限り左記の區別に依り配達致します

一普通配達 手荷物は大小に拘らず一箇に付金十錢、小荷物は無料

一特別配達 手荷物及小荷物とも到着の都度特使を以て最も急速に配達致しますから鮮魚、野菜等腐敗し易きもの及其他至急配達を要する荷物には最も便利であります

配達驛は東京、新橋、品川、飯田町、上野、兩國橋、横濱名古屋、京都、大阪、湊町、三ノ宮、神戸、宇都宮、福島仙臺、青森、水戸、山形、秋田、前橋、高崎、静岡、濱松豊橋、岐阜、福井、金澤、富山、横須賀、甲府、長野、新潟、姫路、岡山、廣島、下關、吳、門司、小倉、博多、久留米、熊本、鹿兒島、佐賀、長崎、別府、函館、中央小樽小樽、札幌、旭川の各驛で、其料金は左の通であります

東京、大阪市内に 手荷物 每一箇 三十錢
配達すべきもの 小荷物 同 十五錢

其他のもの 手荷物 同 二十錢
小荷物 同 十錢

小荷物にして長、幅及厚三尺(幅及厚一尺以内のもの)は長六尺(容積十立方尺を超ゆるものは特別配達の取扱をいたしません)

一保管料 旅客の託送された手荷物は到着後、又驛留置の小荷物は到着通知後二日以内に御引取ない時は、一日毎に品種に應じ金十錢乃至三十錢の保管料を申受けます

貨物

一形態重量の大なる爲小荷物運送に適しないもの又は數量の寡つたものは貨物として託送なされるのが御便利で且運賃も小荷物運送に比較して低廉であります

一小口扱 此扱は比較的少量な貨物の運送に利用するもので運賃は貨物の等級に應じて計算致します、此扱の運賃は重量五十斤未満の場合に五十斤とし、五十斤を超ゆる斤數に就ては十斤毎に計算し、尙貨物一立方尺の重量十斤未満のものは之を十斤に換算する事にして居ります。即ち一、二俵の米、木炭等を産地から取寄せ又は四季折々に仕入れる數箇の商品等の運送は此扱方に依られるのが便利であります

一貨切扱 此扱は貨物の等級に應じ積載する貨車の標記噸數によつて運賃を計算するもので纏つた大量貨物の託送に御便利です、例へば穀物、石炭、木材、薪炭、石材、礦石等を運送する場合に此扱に依りますれば運賃は著しく低廉で、且積換等の煩累が有りませんから積換による荷傷の生ずる虞もありません
一特種扱 此扱は級外品即ち火藥、家畜、鐵道車輛、死體等を運送するもので、重量、箇數に従つて運賃を計算する事となつて居ります

前記各扱には急行便普通便の設けが有りますから、急送を要するものは急行便に依られるのが御便利で、急行便は速達し得る列車及汽船便を以て運送し、運賃は普通便の五割増しとなつて居ります、尙急行便小口扱は停車場から凡そ一里半以内の區域に限つて取扱ひ、五十斤迄十五錢(東京、京都、大阪、神戸市内は二十錢)五十斤以上は五十斤又は其未満毎に十錢の料金を配達致します

貨物等級

一等級とは運賃を異にする貨物の分類で、例へば砂利、石炭の如き粗雜品から絹布、美術品の如き高價品に至る各種の貨物

を最低五級から最高一級に分ち、尙此外に級外品の區別も致しました、主なる貨物の等級は左の通りであります

- 一級品 銅貨、白銅貨、銅物、水晶、珊瑚、琥珀、活魚介類、書畫骨董美術品
- 二級品 植木類、毛織物、絹織物、電信電話機、鮮魚類、咖啡、自動自働車
- 三級品 書籍、和酒、消防用具、綿古衣、樂器、硬木帽子、扇、舟砂箱、水
- 四級品 家庭取携材、大型風呂桶、果物類、石油類、穀物、花菱、蠟燭、荷車
- 五級品 穀類、石炭、薪炭、セメント、土砂類、水及氷、紙屑、粗材、灰類、礦物、鐵、鉛

- 級外品第一種 火藥類
- 第二種 壓縮瓦斯、マッチ、油布油紙類、劇藥
- 第三種 牛、馬ノ類
- 第四種 鐵道車輛
- 第五種 死體
- 第六種 金銀貨、紙幣、貴金屬、寶石、有價證券

上記の品種を異にする貨物二以上を一口として託送される場合は、貨物が各同等級に属する場合に其等級の運賃を、又異等級に属する場合は其貨物中の最高級品の等級に對する運賃を申受けます、但異品種の級外品二種又は級外品と其他の貨物とを混じた場合は一口として受託致しません

運賃

一運賃の算出は以上の扱種別運送便の種類と發着驛間の哩程とを知られるならば容易であります、尤も貸切扱に於ては米、薪炭、礦石等に對して全線一般に普通運賃より一割乃至二割引の特定運賃を定め尙其他の貨物にあつても區間により規定の運賃から割引をした特定運賃を定めたのもありますから詳細は最寄停車場に御問合せになるのも御便利です、運送の區域は當省線内各驛に申すに及ばず内地は各私設鐵道線、遠くは滿洲鐵道株式會社線、浦鹽、臺灣迄連絡の取扱を致して居ります、尙當省に於ては商業上金融の御便宜を圖つて貨物引換證、船荷證券を發行し又省線内に於ては代金引換小口扱貨物の運賃料金の著拂の取扱も致して居ります

一 小口扱、貸切扱に依る重なる區間の現行運賃は左の通りであります

東京(沙留)より

行先	小口扱 (百斤ニ付)				
	一級品	二級品	三級品	四級品	五級品
靜岡	四、七〇〇	四、三〇〇	三、九〇〇	三、五〇〇	三、一〇〇
名古屋	四、三〇〇	三、九〇〇	三、五〇〇	三、一〇〇	二、七〇〇
大阪	三、九〇〇	三、五〇〇	三、一〇〇	二、七〇〇	二、三〇〇
廣島	三、五〇〇	三、一〇〇	二、七〇〇	二、三〇〇	一、九〇〇
下關	三、一〇〇	二、七〇〇	二、三〇〇	一、九〇〇	一、五〇〇
長崎	二、七〇〇	二、三〇〇	一、九〇〇	一、五〇〇	一、一〇〇
鹿兒島	二、三〇〇	一、九〇〇	一、五〇〇	一、一〇〇	〇、七〇〇

行先	貸切扱 (一噸ニ付)				
	一級品	二級品	三級品	四級品	五級品
靜岡	六、六〇〇	六、二〇〇	五、八〇〇	五、四〇〇	五、〇〇〇
名古屋	六、二〇〇	五、八〇〇	五、四〇〇	五、〇〇〇	四、六〇〇
大阪	五、八〇〇	五、四〇〇	五、〇〇〇	四、六〇〇	四、二〇〇
廣島	五、四〇〇	五、〇〇〇	四、六〇〇	四、二〇〇	三、八〇〇
下關	五、〇〇〇	四、六〇〇	四、二〇〇	三、八〇〇	三、四〇〇
長崎	四、六〇〇	四、二〇〇	三、八〇〇	三、四〇〇	三、〇〇〇
鹿兒島	四、二〇〇	三、八〇〇	三、四〇〇	三、〇〇〇	二、六〇〇

東京(秋葉原)より

行先	小口扱 (百斤ニ付)				
	一級品	二級品	三級品	四級品	五級品
宇都宮	四、五〇〇	四、一〇〇	三、七〇〇	三、三〇〇	二、九〇〇
仙臺	四、一〇〇	三、七〇〇	三、三〇〇	二、九〇〇	二、五〇〇
青森	三、七〇〇	三、三〇〇	二、九〇〇	二、五〇〇	二、一〇〇
秋田	三、三〇〇	二、九〇〇	二、五〇〇	二、一〇〇	一、七〇〇
水戸	二、九〇〇	二、五〇〇	二、一〇〇	一、七〇〇	一、三〇〇
高崎	二、五〇〇	二、一〇〇	一、七〇〇	一、三〇〇	〇、九〇〇
直江津	二、一〇〇	一、七〇〇	一、三〇〇	〇、九〇〇	〇、五〇〇
新津	一、七〇〇	一、三〇〇	〇、九〇〇	〇、五〇〇	〇、一〇〇
金澤	一、三〇〇	〇、九〇〇	〇、五〇〇	〇、一〇〇	〇、〇〇〇
甲府	〇、九〇〇	〇、五〇〇	〇、一〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
小樽	〇、五〇〇	〇、一〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇

鄂山、二本松、福島、仙臺、小牛田、水戸、盛岡、青森、八戸、隅田川、新橋、
 鎌倉、恵比壽、大崎、土浦、水戸、助川、平、吹上、熊谷、高崎、栃木、佐野、
 足利、桐生、伊勢崎、前橋、結城、下館、麻沼、舞臺、會津若松、喜多方、
 奥羽及陸羽線、米澤、山形、新庄、湯澤、十文字、横手、大曲、秋田、土崎、大
 館、弘前、長井、能代、黒石、酒田、鶴岡、石巻、
 信越線、上田、長野、高田、直江津、柏崎、長岡、三條、新潟、
 越前線、兩河原、錦糸町、千葉、銚子、東京、
 九州線、門司、大里、小倉、八幡、吉塚、博多、博多小荷物取扱所、二日市、久
 留米、羽大塚、矢部川、大牟田、上熊本、熊本、八代、人吉、鹿兒島、鹿児島、
 佐賀、牛津、武雄、上野田、有田、大村、長崎、長崎小荷物取扱所、唐津、伊
 萬里、佐世保、中津、別府、西大分、大分、若松、直方、都城、武、川内町、
 北海道線、函館、五稜郭、森、八雲、黒松内、狩太、倶知安、余市、南小樽、小
 樽、手宮、札幌、苫小牧、江別、岩見澤、美瑛、砂川、釧路、釧路、旭川、増内、
 栗山、室蘭、留萌、室蘭、帯広、池田、釧路、厚岸、釧路、函館、名寄、野
 付、網走

居室引換

配達附小荷物及急行便小口扱に限り御希望により荷物配達の際荷主の居室で荷物と代金との引換を致します、尙此の扱は荷受人より御請求ある時も其の取扱をするもので同時に配達の場合及配達日を指定される時は可成御希望の通りに取扱申します

手数料

普通の代金引換手数料

居室引換手数料

代金二十圓迄	八 錢	十 錢
同 三十圓迄	十 錢	十三 錢
同 五十圓迄	十五 錢	二十 錢
同 百圓迄	二十 錢	二十七 錢
同 百圓を超過する 未時は百圓又は其 未時全増す毎に	五 錢	十 錢

荷物託送後引換代金額を増加又は減少するか或は代金引換を取消する時は左の變更手数料を申受ます
 荷物及關係書類が
 未だ發送されぬ時 一回に付 五 錢
 右が既に發送された時 同 十 錢

代金受取方の注意

著驛で代金を受荷主より申受けた時は、代金引換済通知書を以て其旨を發荷主に通知致しまして、發驛より別に代金支拂の日時を通知致しますから、發荷主は該日時に代金引換済通知書に代金引換證を添へ發驛に提出し、之と引換に代金を受取られるものです

海陸連絡旅客及手荷物輸送

旅客及手荷物輸送

朝鮮、臺灣、天津、青島、上海、滿洲、浦鹽斯德等に往復する旅客の御便利を圖り、左記區間に於て旅客及手荷物の連絡輸送御取扱致します

一 朝鮮線行

一、東海道線(橫濱線各驛を除く)、山陽線、山陰線、關西線、讚岐線、九州線各驛並嚴島町、北陸線、中央線、東北線、信越線、磐越線、奥羽線、陸羽線、北海道線主要驛と朝鮮線各驛相互間(下關、釜山間は當省連絡汽船に由る)

一 臺灣線行

一、東海道線、山陽線、讚岐線、及九州線主要驛と基隆、臺北、桃園、新竹、苗栗、臺中、彰化、斗六、嘉義、新營、臺南、高雄、屏東相互間(途中航路は日本郵船株式會社及大阪商船株式會社汽船に由る)

一 支那線行

一、東海道線、山陽線及九州線主要驛と北京、天津、山海關、新民、張家口、南口、漢口、鄭州、石家莊、浦口、徐州府、濟南府、上海、南京、杭州相互間(當省關釜連絡汽船、朝鮮線、滿洲線經由)
 一、東海道線、山陽線、讚岐線及九州線主要驛と天津、青島、上海、大連相互間(途中航路は日本郵船又は大阪商船會社汽船に由る)

一 滿洲線行

一、東海道線(横濱線各驛を除く)、山陽線、山陰線、關西線、讚岐線、九州線各驛並嚴島町、北陸線、中央線、東北線、信越線、磐越線、奥羽線、陸羽線、北海道線主要驛と滿洲線各驛相互間(下關、釜山間は當省連絡汽船に由る)

一、東海道線、山陽線及九州線主要驛と旅順、營口、海城、鞍山、遼陽、撫順、奉天、鐵嶺、開原、公主嶺及長春相互間(途中航路は大阪商船株式會社汽船に由る)

一 浦鹽斯德行

一、東海道線、讚岐線、山陽線及九州線主要驛と浦鹽斯德相互間(敦賀浦鹽斯德間大阪商船株式會社汽船に由る)

小荷物輸送

朝鮮、臺灣、天津、上海、北京、滿洲及浦鹽斯德行小荷物連絡輸送の便を開き、左記區間に於、御取扱致します

一 朝鮮線行

一、省線各驛(德島線及北海道線を除く)と朝鮮線各驛相互間(途中航路は當省關釜間連絡汽船に由る)

一 臺灣線行

一、東海道線、讚岐線、山陽線、中央線、總武線、東北線、九州線主要驛及市内荷扱所と基隆、臺北、桃園、新竹、苗栗、臺中、彰化、斗六、嘉義、新營、臺南、高雄、屏東、相互間(途中航路は日本郵船株式會社及大阪商船株式會社汽船に由る)

一 天津、上海、大連行

一、東海道線、讚岐線、山陽線、中央線、總武線、東北線、九州線主要驛及市内荷扱所と天津、大連相互間(途中航路は大阪商船株式會社又は日本郵船株式會社汽船に由る)

一、前掲各驛所と天津、上海、大連相互間(途中航路は日本郵船株式會社汽船に由る)

郵船株式會社汽船に由る)

一 天津、北京行

一、東京、横濱、名古屋、京都、大阪及神戸と新民、天津、北京、張家口、漢口、濟南府及南京間(朝鮮線經由)

一 滿洲線行

一、省線各驛(德島線を除く)と滿洲各驛相互間(朝鮮線經由)

一、東海道線、山陽線中央線、總武線、東北線、九州線主要驛及市内荷扱所と旅順、營口、海城、鞍山、遼陽、撫順、奉天、鐵嶺、開原、公主嶺及長春相互間(途中航路は大坂商船株式會社汽船に由る)

一 浦鹽斯德行

一、東海道線、讚岐線、山陽線、中央線、總武線、東北線、九州線主要驛及市内荷扱所と浦鹽斯德相互間(敦賀浦鹽斯德間大阪商船株式會社汽船に由る)

貨物輸送

省線と朝鮮、滿洲、臺灣其他海外都市間貨物連絡輸送の便を開かれてある區間は左記の通り有ります

一 朝鮮線行

當省各驛(德島線及北海道線を除く)と朝鮮線各驛間(途中航路は當省關釜連絡汽船に由る)

一 滿洲線行

一、省線各驛(德島線、北海道線を除く)と安東、大連、奉天、鐵嶺、公主嶺、營口、長春、旅順、撫順其他主要驛相互間(當省關釜連絡船及朝鮮線經由)

一、東海道線、山陽線、北陸線、九州線主要驛と遼陽、奉天、鐵嶺、長春、旅順、營口、其他主要驛相互間(途中大阪商船大連航路に由る)

一 大連線行

一、東海道線、山陽線、北陸線、九州線主要驛及中央線多治見驛と大連間（航路は大阪商船大連航船に由る）

一臺灣線行
一、東海道線、山陽線、北陸線、九州線主要驛及中央線多治見驛と基隆、澎湖島、高尾間（航路は大阪商船株式會社船）

連絡船

一、下關釜山間（高麗丸、新羅丸、博愛丸、豐岐丸、對馬丸）青森函館間（比羅夫丸、田村丸、弘濟丸、伏木丸、蛟龍丸、敦賀丸）宇野高松間（玉藻丸、兒島丸、水島丸）下關門司間（豐山丸、長水丸、門司丸）宮島嚴島間、舞鶴宮津間及宮津灣内の各航路には、當省所屬の汽船を定期運航して鐵道との連絡を圖り、併せて一般旅客荷物の運送を御取扱致します



東京及其附近



東京市は日本本洲の東部關東平野の中央武藏國の東南海濱に顔し、太平洋沿岸の大内海たる東京灣の北に窮る所に位置を占めて居る。江戸幕府三百年の繁華に加へて明治維新以來宮城巖として茲處に在り、翠松色濃き千代田城を包める街衢は古の武藏野の一部を占め、今や東洋第一の大都會として、世界に於ける五大國の一たる日本帝國の首都として世界に其名を輝かして居る。市街は東京灣に沿ひ、隅田川に跨り、麴町、神田、日本橋、京橋、芝、麻生、赤坂、四谷、牛込、小石川、本郷、下谷、淺草、本所、深川の十五區、一千五百餘町の多きに及び、人口二百七十七萬人を有し、接續町村たる品川、澁谷、千駄ヶ谷、淀橋、巢鴨、王子、千住、龜戶等の各町村も市と比肩するの繁榮を來して居る

市の繁華區は京橋の銀座、日本橋の大通、人形町、通、神田小川町通などで、日本橋の蠣殼町附近は、米穀取引所、株式取引所などあつて、特に活氣に富んで居る。其他淺草雷門前、本郷大通、牛込神樂坂、四谷大通、赤坂青山大通、下谷廣小路通も繁華な通で、市營の電車線各區に互りて四通八達して居る。市營の電車賃は通行税とも片道八錢、往復十五錢、外に二圓及三圓の回数券あり、自動車は幾多の會社あり、一例としてタカシ自動車會社の賃金を示せば、箱型機型五人乘四人乘三人乘とも最初の二分の一哩迄九十錢、以上五分の一哩毎に十錢、待賃四分毎に十錢、一時間一圓五十錢、右により東京驛から明治神宮までは約二圓九十錢、上野約二圓、品川約二圓八十錢、新宿へ約三圓、兩國へ約一圓九十錢見當となる、乗合自動車は一區十五錢、外に一圓五圓の回数券がある

市は帝國の首府として政治、軍事、行政の官公衙多く、又文

藝の中心として高等の學校も多い、今その主なるものを舉ぐれば、内閣、樞密院、宮内省は宮城内に、陸軍、司法、海軍、外務、内務、大藏、鐵道、文部の八省は宮城に近く麴町區内に、逓信農商務の三省は京橋區内に在り、其他貴族兩議院、大審院、東京控訴院、東京地方裁判所、行政裁判所、會計検査院、警視廳、參謀本部、海軍々令部、教育總監部、近衛師團、憲兵司令部、陸軍兵器本廠、帝室林野管理局、東京府廳、東京市役所を初め、各國の大使館公使館も多くは麴町區に在り、この區を官衙區と云ふのは尤なことである。右の外第一師團司令部は赤坂に、東京砲兵工廠は小石川に、海軍造兵廠は京橋に、陸軍被服本廠は本所に、陸軍禮本廠は深川に在る。

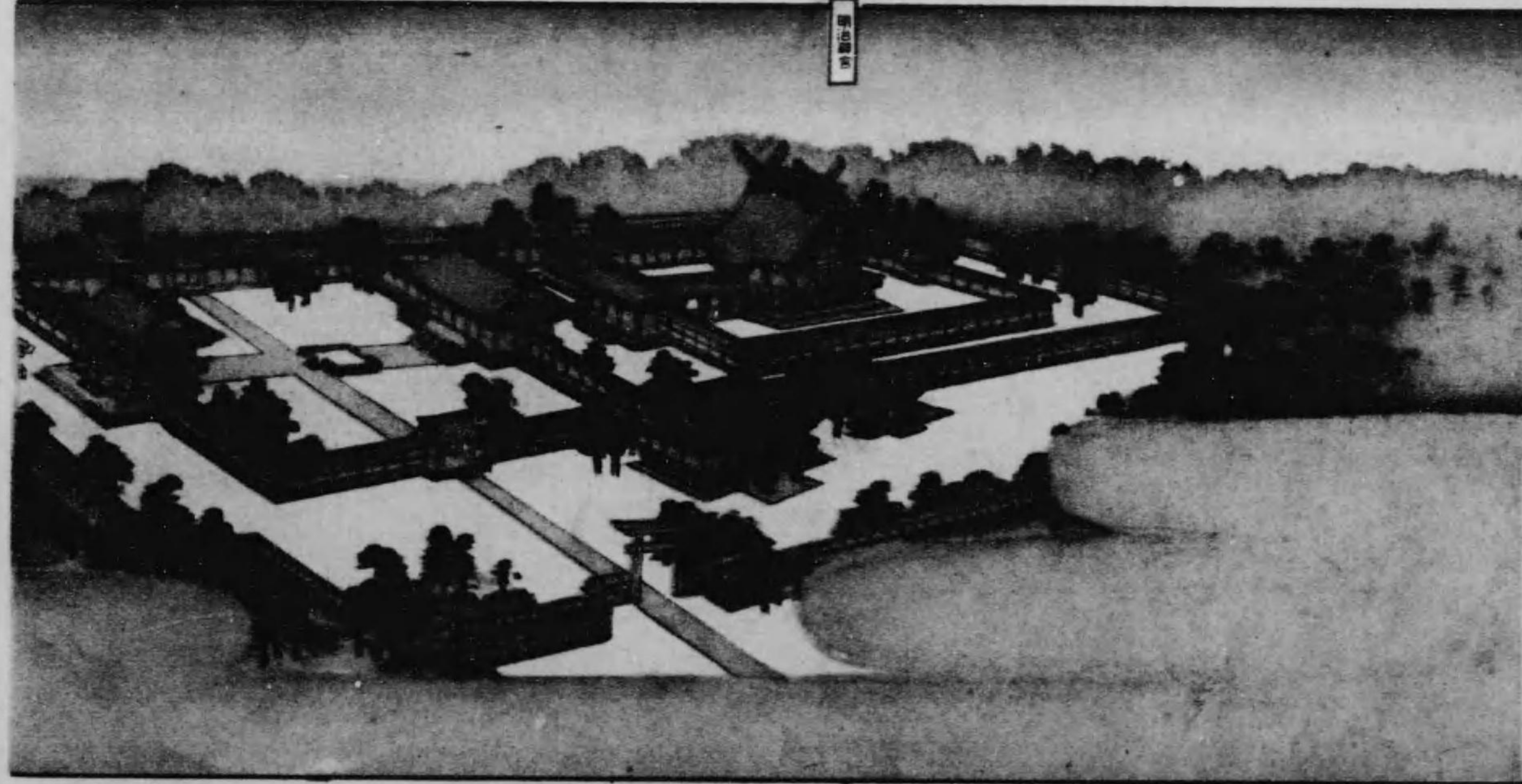
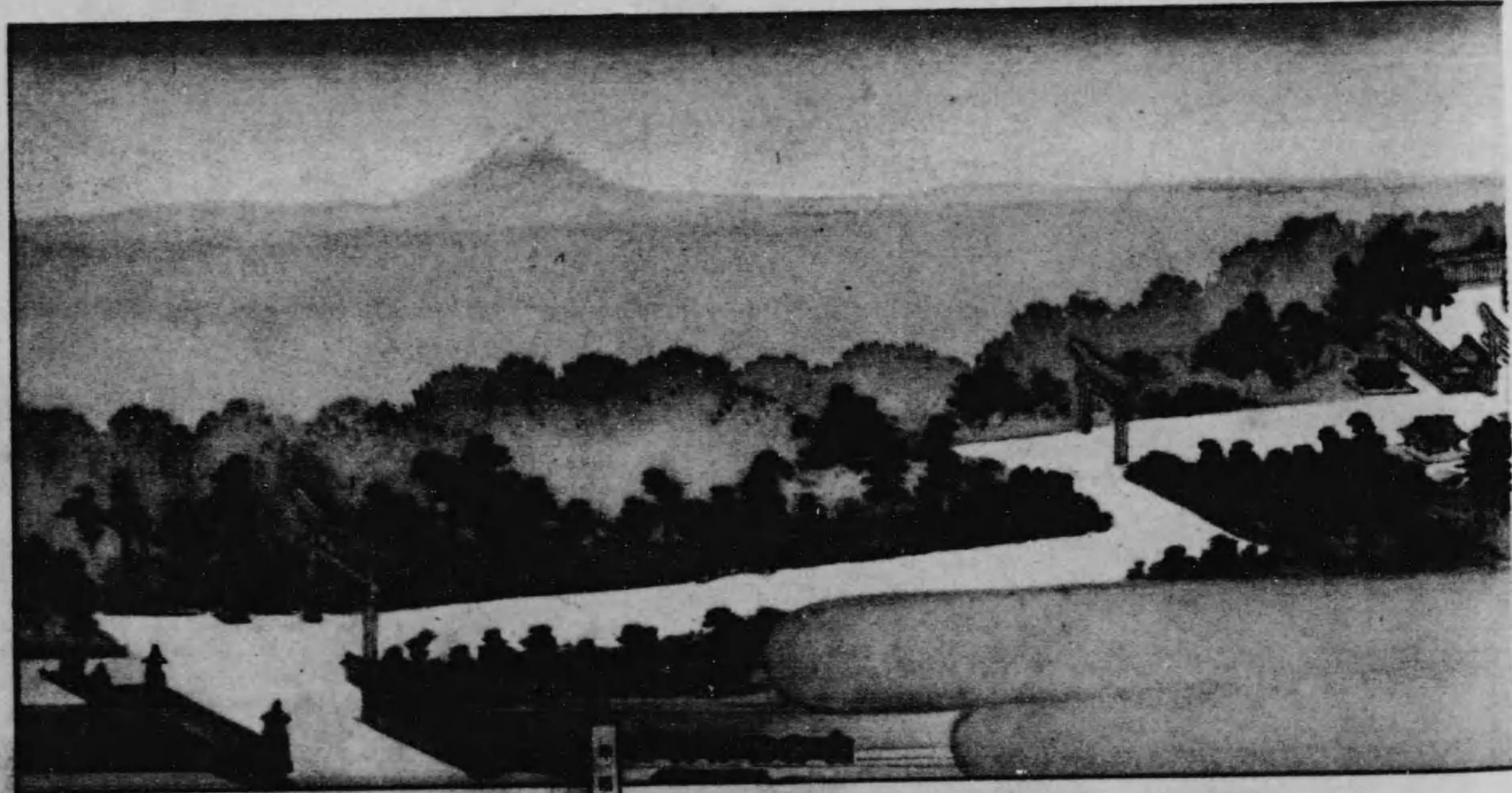
學校は東京帝國大學、第一高等學校、女子高等師範學校は本郷に、東京高等師範學校、東京盲學校、東京聾啞學校は小石川に、東京商科大學、東京外國語學校は神田に、東京美術學校、東京音樂學校は下谷に、東京高等工業學校は淺草に、商船學校水産講習所は深川に、學習院は府下目白に在り、軍事教育の機關たる陸軍大學校は赤坂に、海軍大學校、海軍軍醫學校、海軍經理學校は京橋に、陸軍士官學校、陸軍戸山學校、陸軍經理學校、陸軍砲工學校は牛込に、陸軍軍醫學校は麴町に在り、私立の學校亦多く、中に早稻田大學、慶應義塾大學、明治大學、日本大學、法政大學、國學院大學、中央大學、東洋大學、日本女子大學等最世に開えて居る。

市は又大阪と對立する我邦の二大商業都會で、銀行會社の設立多く、銀行には日本銀行、日本勸業銀行、日本興業銀行、橫濱正金銀行支店を初め、第十五、第一、三井、三菱、豐國、第一百、安田、第三、村井等の大銀行ありて全國の金融を掌り、會社には日本郵船、東洋汽船、日清汽船、三菱鐵業、三菱倉庫、三菱造船、三菱製鐵、三井物産、三井礦山、鐘淵紡績、富士瓦斯紡績、東京電燈、日本電燈、猪苗代水力電氣、九州水力電氣

東京瓦斯、北海道炭礦汽船、日本海運、東洋拓殖、田中鐵山、

王子製紙、富士製紙、東京火災保險、東京海上保險、大日本製糖、大日本麥酒、大日本人造肥料、日本石油、帝國製麻、淺野セメント、大倉鐵業、大倉商事、古川鐵業、古川商事、淺野同族、古川合名、山下合名、淺野合名、三井合名、三菱合名、渡邊商事、渡邊保全、合名會社保善社、森村組、日本製鋼所、高田鐵業、月島鐵工所、東京株式取引所、米穀取引所などがある。地勢は平坦であるが又小高低をなして居る處もある。其西北は丘陵起伏して所謂山ノ手を成し、東南は低平にして下町と稱せられて居る。即ち本郷、小石川、麴町、牛込、四谷、赤坂、麻布の七區は山ノ手に屬し、日本橋、京橋、芝、神田、下谷、淺草の六區は下町で、隅田川の東に本所、深川の二區がある。所謂山ノ手の丘陵は又數派に分れて坂路起伏し其低地に臨むところ、往々急斜して斷崖を爲し、其頭遠く八州の野を望みて、風景の美に富んで居る、愛宕山、品川神社、九段坂、目白臺、神田明神、湯島天神、上野公園、日枝神社、道灌山、飛鳥山等皆丘陵に位置を占めて、眺望の勝地として知られて居る。皆足を帝都に印するもの、先づ二重橋畔に跪きて宮城を拜せものはあるまい。宮城は古の江戸城を修築したもので、老松蒼鬱四境を圍みて、斜に影を御濠の中に醸し、幾群の水禽靜に其間に遊んで居る。其正門は即ち二重橋である。外苑の一角には楠公騎馬の銅像、宮城に面して立ち、英姿颯爽千歳の下尙皇威を護つて居るかと思はれる。

市内には公園が澤山あるが、中に上野、芝、淺草、日比谷が最も知られて居る。上野公園は古の寛永寺の境内で都下第一の勝地、深樹に富み、風景に富み、眺望に富み、古蹟に富んでゐる。春は至る處花の霞がたなびいて、中に三百年の歳月を経たる老木もある。園の西南には不忍池あり、その中に辨天祠がある。風光明媚の地を占めて居る。園内博物館あり、動物園あり



り、帝國圖書館あり、東照宮あり、小松宮彰仁親王殿下、西郷隆盛の銅像あり、彰義隊の墓碑あり、徳川氏の靈廟あり、毎年秋期に開設する帝國美術院展覽會も亦この公園の花である。芝公園は増上寺の境内で、上野と同じく徳川氏の廟所がある。境内の最高所は圓山と云ひ其北端に伊能忠敬の記念碑がある。淺草は寧ろ公園と云ふよりは金龍山淺草寺の大伽藍と活動寫眞其他を見るべき所で、寺は天台宗に屬し、丈一寸八分の觀音菩薩を本尊として居る、賽客四時絡繹、香煙絶ゆることなく、鰯口の響日夜に聞ゆ。寺畔に池あり、池を圍りて飲食店、水族館、花屋敷、曲藝、小劇場、活動寫眞館等並び建てられ、喧噪と酒香と卑俗なる風致と、具に此公園の特色を現して居る。日比谷は市第一の新公園で、丘阜あり、泉池あり、大運動場あり、音楽堂あり、圖書館あり、花園あり、芝生あり、梅林あり、脩竹茂林能く天然の景を模して居る。小石川植物園は舊白山御殿と稱し、館林侯綱吉の下屋敷であつたが、今理科大學附屬植物園である、公園ではないけれど一般の觀覽を許されて居る。内外諸種の植物を栽培し、日本式歐州式の温室あり、園の西方には庭園ありて泉石の美に富み、古樹樹も多い。

神社ではまづ明治神宮、畏くも新日本の建設者たる明治天皇の御靈を奉祀する宮居で、原宿驛からはすぐに神宮橋を渡つて内苑に入り、千駄ヶ谷、代々木からは北參道を通つて内苑に入る、市内の電車に頼ると青山六丁目に下りて表參道から神宮橋にかゝる。伊勢大廟と並んで國民の崇敬厚く賽者踵を接する有様である。

官幣大社日枝神社はいはゆる山王様で麴町區にあり、幽邃の境を占めて居る。靖國神社は別格官幣社で麴町區九段坂の上にあり、朝廷深厚の教旨に出でて、明治維新以來の戰役陣歿の將士を弔祭したまふ所、四月十月は招魂祭で賑ふ、境内には櫻多く又梅林もあり、後庭に在る泉池も雅趣に富んで居る。遊就館は社側に在つて新古の武器を蒐集してある。日比谷大神宮は日比谷公園の近くに在り、結婚式場として知られて居る。愛宕神社は芝區愛宕山公園に在り眺望がよい、明治元年官軍江戸を攻めむとして既に品川に逼るや、幕軍の將勝安房官軍の參謀西郷隆盛を訪うて、共に並に登り、眼下に見ゆる繁華なる市街をして、兵燹の災禍を蒙らしむるに忍びないことを説き、談笑の間に江戸城授受の議を決した。神田明神は萬世橋の西北數町の地に在り、神殿樓門共に宏壯である、其祭典は山王の祭禮と共に昔から名高い。湯島天神は本郷切通坂の南なる屋上に在り、境内梅樹多く且眺望に富んで居る。富岡八幡宮は深川に在り、梅櫻が多い、其他麴町の平河天神社、赤坂の水川神社、牛込の築土神社、市ヶ谷八幡宮、小石川の牛天神、白山神社、四谷の須賀神社、芝虎の門外の琴平神社、日本橋の水天宮等皆名高い社で、赤坂の乃木邸址に建てた乃木神社は青山墓地の乃木大將の墓と共に東京新名所の一つとなつた。

佛寺ではまづ築地の西本願寺別院と淺草の東本願寺別院、共に堂宇壯大である、淺草觀音、増上寺は又更めて説かず、寛永寺は江戸第一の大伽藍であつたが、明治維新の際兵燹の爲に大半烏有に歸した。傳通院は小石川區安藤坂上に在り、境内に家康の生母傳通院の靈屋がある。護國寺は同區音羽に在り、眞言密教の大精舎である、目白不動堂は同區關口に在り、地高崖に在つて眺望佳、雪景色の名所である。麻布の善福寺は眞宗の大刹で境内に逆銀杏あり、柳の井あり、寺は初め米國公使館に充てられ、ハリス以下の公使の寓所であつたから、今にも米人の訪ふものが多い。芝の高輪には東禪寺、泉岳寺あり、東禪寺は初め英國公使館に充てられ、文久元年浪士の襲撃した所で、今尙鴨居に刀痕の跡を残して居る。泉岳寺は赤穂城主淺野長矩及大石良雄以下四十七士の墓があるので名高く、瑠池梅、首洗井、天野屋利兵衛の碑、烈士村上喜胤の墓、義士木像及び遺物

展覽場等がある、香華常に絶えず、思魂義膽千歳に蕩つて居る。待乳山の聖天堂は隅田川に臨める小丘に在り、俗諺「夕ぐれ其景勝を盡して居る、山の下は即ち竹屋の波で、向島三閘神社に渡られる。回向院は本所區兩國橋の東詰に在り、國豊山無縁寺と號し、稱念上人の遺風なる捨世一派不斷念佛の道場である。明暦三年江戸大火の節、焼死者十萬八千人の屍を叢生して、其冥福を修せむが爲に建立したもので、境内は久しく大相撲興行地で、國技館の大建築は帝都の誇である。其他世に開ゆる寺には芝に青松寺、四谷に笹寺、本郷に麟祥院、吉祥寺、下谷に天王寺、廣徳寺、淺草に總泉寺、深川に靈岸寺等がある。

劇場には帝國劇場、歌舞伎座、市村座、明治座、新富座等名高く、帝國劇場は麴町區有樂町に在り、城濠を距て、遙に宮城の二重橋に對し、斜に日比谷公園に接して居る、ルネツサンス式の建築宏壯にして、屋頂には能樂「翁の舞」の金像を建て、ある、座附俳優は尾上梅幸、松本幸四郎、澤村宗十郎、守田勘彌、澤村宗之助、尾上松助を初め、女優森律子、村田嘉久子、初瀬浪子、河村菊江、藤間房子などで女優劇はこの座の特色である。歌舞伎座は京橋區木挽町に在り、市第一の大劇場で、座附俳優は中村歌右衛門、市川八百藏、市村羽左衛門、市川段四郎、片岡市藏、中村福助、片岡仁左衛門などである。市村座は下谷區二長町に在り、座附俳優は尾上菊五郎、坂東三津五郎、大谷友右衛門などで青年俳優が多い。明治座は日本橋區久松町に在り、市川左團次、市川松島、市川壽美藏等の一派は多く此座を本據として居る。國技館の大角力は一月五月兩度の興行あり、滿都の人を熱狂せしむる、蓋し帝都特有の壯觀である。主なる力士は東方にて横綱大錦、同栃木山、大關常の花、源氏山兩國、西方は大關千葉ヶ崎、清瀬川、紅葉川などであるが、來場所は源氏山が西に廻つて大關となることとなつて居る。三越白木、松坂屋などの大呉服店も亦常に種々趣味ある展覽會の催

しあり、帝都の一名所に數へらるゝこととなつた。

- 市内區區は「新町區」東京ステーションホテル精養軒、(東京驛階上) 帝國ホテル(内山下町) 植木屋、加賀(内幸町) 金生館、繁星館(平河町) 松葉館、越後屋(富士見町) 相模屋(駒町五丁目) 「神田區」今城館本店、昌平館、有恒館、映陽館、福家、美土代館(錦町) 旭樓本店、日芳館、表神保町、茂源家(關口町) 初谷支店、佐々木、今城館支店、旭樓支店(逢坂町) 岩井館(元岩井町) 豐島館會津館(豐島町) 万佐山本町、田島屋(末廣町) 常盤館(仲町) 龍名館(兩甲賀町) 森田館(三崎町) 關根屋(淡路町) 八重垣館(北神保町) 日昇館(鈴木町) 廣島屋(小島町) 經田館(小川町) 「日本橋區」魚屋(數寄屋町) 隆泰屋(通二丁目) 萬平、福屋(西河原町) 名倉屋(室町) 大友、伏見屋、越十(本石町) 永田屋(兩國) 大阪屋(小網町) 浦島館(通二丁目) 「京橋區」四木、水明館、厚生館、扶養館、調敷館(大淺町) 金水館、有明館、六方館(榮進) 林屋(尾張町) 西澤(南金六町) 紅木屋(宗十郎町) 精養軒ホテル(采女町) 春木屋(新富町) 城東館(南橋町) 和泉屋(銀座一丁目) 對山館、朝日館(兩國市町) 吾妻屋支店(兩輪町) 春日館(本村木町) 中央館、觀治橋館(五郎兵衛町) 「芝區」吾妻屋、紀伊國屋、新橋館、信濃屋(新橋區附近) 朝陽館(虎門) 清光館(龜田本郷町) 伊勢屋、信濃屋(曾佐久間町) 品川館(高輪南町) 「赤坂區」對馬館(田町) 萬年屋(青山北町) 青山館、望遠館(青山南町) 甲子館(榎池町) 「牛込區」植木屋(築土八幡町) 長島屋(神樂町) 「本郷區」安田(本郷三丁目) 大津館、上村館(本郷六丁目) 菊富士ホテル(菊坂町) 藤平館別荘(森川町) 長福館(龜岡町) 「下谷區」名倉屋、山城屋、御玉倉、上野館、東洋館、井筒屋、惠比壽屋、瑞玉屋、若葉屋、伊勢屋、福仙(上野驛前) 那須館(上車坂町) 山城屋(廣小路) 「淺草區」小松屋(駒形) 不二屋、惠比壽屋、淺草館、柳屋(東仲町) 松坂屋(材木町) 「本所區」清水屋、鶴武館、豐田館(兩國驛附近)

東京及附近遊覽層

- 初日の出、九段坂、神田明神、湯島天神、上野、愛宕山、丸山、高輪、深川湖
- 古方集、其年々の古方に當る神社 ○七福神詣(元日より三日まで)、向島の七福神は、三閘の經子大黒、弘福寺の布袋、多聞寺の毘沙門、白鬚の壽老神、百花園の福祿壽、長命寺の辨天、谷中の七福神は、上野の大黒、淺草の經子、或は神田神社の大黒、經子、不忍の辨天、谷中五重塔の毘沙門、谷中長安寺の壽老神、日暮里花見寺の布袋、田端西行庵の福祿壽、山の手七福神は、目黒不動内の大黒經子、目黒橋本寺の辨天、二本橋の毘沙門天、白金瑞雲寺の布袋、白金御霊寺の壽老神、福祿壽 ○福初詣、堀の内妙法寺、池上村木門寺 ○南無(春狂言)以下毎月 ○初詣(二日)、市中 ○初水天宮詣(五日) 日本橋觀音二丁目 ○清坊出初(六日) 不忍池畔 ○陣幕始觀式(八日) 宮城二重橋前 ○金刀根神社初祭(十日)、芝草堂 ○淺草觀音初祭(十七日)、淺草 ○川崎大師(廿一日)、攝津郡川崎千間寺 ○雲接(廿五日)、龜戸天神 ○不動初祭(廿八日)、目黒瀧泉寺、目白新長谷寺、

目赤南谷寺、兩國縣野地町、深川公園、徳州成田山
 二 月
 ○梅見、九段坂園内、小石川植物園、龜戸天神社内、臥龍梅園、向島百花園、深川公園、上野公園、芝公園九山、池上明ぼの、原村梅園、彌田梅園、羽田村梅園、大師河原梅園、杉田梅園、越ヶ谷大伏、○初午、市内外の稻荷社、○節分、道徳の神事、龜戸神社、○四十七正正日(四日)、高輪見岳寺、○祀元節(十一日)、市中、○菊池遊藝會(十五日)、各寺、○雜市(廿六日より三月二日まで)、日本橋區十軒店、三越呉服店、白木屋呉服店

三 月
 ○舞祭(三日)、市中、○金刀比羅神社大祭(十日)、虎の門奉平神社、○後津、大阿彌陀寺、講寺法會、六阿彌陀は、谷上野廣小路宮庭院、北豐島郡田端村御薬寺、同郡西ヶ原村無量寺、同郡豊島村西福寺、南足立郡沼田村延命院、本所龜戸村常光院、西方六阿彌陀は、芝西久保大善寺、麻布飯倉町善良寺、芝三田四丁目春林寺、高輪庚申、橋町正覺寺、白金正通寺、目黒祐天寺、○大師(廿一日)、川崎平間寺、西新井村延持寺、芝二本榎高野寺、向島蓮華寺其他、○桃花川崎大師河原、越ヶ谷河原曾根、市川、野田、○彼岸燈、上野公園、○鮎釣、本所押上社寺向岸、小梅引稲通

四 月
 ○花見(上旬より下旬)、上野公園、向島、芝公園、淺草公園、山王、誠國神社、日比谷公園、吾羽園寺、愛宕山、深川公園、江戸川端、飛鳥山、小金井、荒川場、小石川植物園、○沙千狩(上旬)、芝、品川草場邊、清原宮下、越中島附近、洲崎神砂村邊、○福祿壽、隅田川(向島)、大學其他、○摘草、向島、高田、早稲田、田端、三河島、鶴岡谷、○釋迦誕生蓮佛會(八日)、講寺、○木下川藤節開帳(八日)、木下川淨光寺、○三國神社祭禮(九日)、向島、○美術協會展覽會其他、上野公園、○東宮大祭(十七日)、上野公園、芝公園、○平河天神祭(廿五日)、鶴町區平河町、○五月人形市(此月末より五月四日)、日本橋區十軒店、三越呉服店、白木屋呉服店、○誠國神社大祭、九段坂上

五 月
 ○舞臺(初旬)、日比谷公園、大久保、日暮見花見寺、池井、清水谷公園、吾羽園寺、小石川植物園、○兼殿、向島、○社母(中旬)、本所四ツ目權文、三河島村嘉樂園、目黒村、○神田神社神樂舞御祭(隔年十三日より十七日)、神田、○芍薬(中旬)、本所四ツ目權文、目黒村、芝公園内吾香園、本所引船吉野園、○淺草三社祭、十七日、八日、淺草、○藤(中旬下旬)、龜戸天神社内、芝公園神天池、日比谷公園、淺草公園、目黒、清水谷公園、野田繁榮園、船塚、○若詰釣、多摩川筋、○川崎大師(廿一日)川崎平間寺、○目黒不動開帳、成田不動開帳(廿八日)、荏原郡目黒村、下總成田町新勝寺、○國技館大角力夏場所(十日期)、兩國

六 月
 ○花菖蒲(上旬)、堀切村武蔵屋、小高園、三河島村嘉樂園、本所四ツ目權文、向島百花園、曳船通吉野園、蒲田葛藤園、○日枝神社祭禮(十五日)、鶴町日枝神社、○木川神社祭禮(十五日)、赤坂木川神社、○須賀神社祭禮(十八日より廿一日)、下谷天王、○飯、日暮見藍草川、小石川區江戸川、小石川區關口、本所押上、見沼川

○大段(三十日)、各神社

七 月
 ○遊技場を開く、大川筋、築地川筋、○觀世音四萬六千日(十日)、淺草觀音、伊皿子、○秋草(中旬より九月末)、向島百花園、曳船通吉野園、南品川妙華園、目黒華壇、○萩(中旬より九月末)、本所龜戸町萩寺、百花園、小石川植物園、日比谷公園、目黒華壇、○八幡祭禮(十五日)、深川八幡、市ヶ谷八幡、○二十六夜(陰曆七月廿六日)、品川、高輪、築地海岸、九段坂上、神田明神、愛宕山、湯島天神、待乳山、○投網(下旬より九月末まで)、品川、洲崎、砂村、○鮎、玉川、利根川上流、野州思川、相州桂川、○鳥(八月、九月)、日暮見村道場山、日暮見、飛鳥山、隅田村附近、小石川關口、麻布廣尾、大宮公園

八 月
 ○雨國川開燈火、兩國、○川海線、隅田川三又邊、○王子神社祭禮(十二日)、王子、○秋草(中旬より九月末)、向島百花園、曳船通吉野園、南品川妙華園、目黒華壇、○萩(中旬より九月末)、本所龜戸町萩寺、百花園、小石川植物園、日比谷公園、目黒華壇、○八幡祭禮(十五日)、深川八幡、市ヶ谷八幡、○二十六夜(陰曆七月廿六日)、品川、高輪、築地海岸、九段坂上、神田明神、愛宕山、湯島天神、待乳山、○投網(下旬より九月末まで)、品川、洲崎、砂村、○鮎、玉川、利根川上流、野州思川、相州桂川、○鳥(八月、九月)、日暮見村道場山、日暮見、飛鳥山、隅田村附近、小石川關口、麻布廣尾、大宮公園

九 月
 ○觀月(陰曆十五夜)、高輪、芝浦、品川、羽田、大森、洲崎、愛宕山、九段、神田明神、湯島天神、淺草、隅田川、待乳山、○めぐまれ市、芝大神宮、○神田神社祭禮(十四、十五)、神田神社、○白山神社祭禮(廿一日)、小石川白山前町、○川崎大師(廿一日)、川崎、○沙魚釣(夜學頃)、大川端、中川尻、芝浦、洲崎邊、○愛宕神社祭禮(廿四日)、芝龜愛宕神社、○豊持、板橋、千住、浦和、大宮、川崎、二子、堀ヶ谷、戸塚、鎌倉、小金、佐倉、上州金山、○龜戸神社祭禮(廿五日)、本所龜戸

十 月
 ○連摩呂(五日)、神宗各寺、○十夜法要(六日より十五日)、深川靈嚴寺、目黒祐天寺、其他、○會式(八日より十三日)、池上本門寺、堀の内妙法寺、○觀月(陰曆九月十三日夜)、高輪、芝浦、品川、羽田、大森、洲崎、愛宕山、九段、神田明神、湯島天神、淺草、隅田川、待乳山、○湯島天神祭禮(十日)、本郷湯島神社、○行機(十五日)より翌年四月十五日、多摩、秩父、土浦、印旛沼、浦賀、其他、○べつたら市(十九日)、日本橋區馬場町、旗本町、○男子會(二十日)市中、○菊(二十日頃より十一月下旬)、染井、入谷、三河島嘉樂園、麻布廣尾町笑花園、淺草花見敷、目黒華壇、芝公園吾香園、兩國國技館、○紅葉(下旬)、瀧野川、品川高榮寺、上野公園、芝公園、目黒不動山内、雜司ヶ谷、廣尾、藤谷、十二社、井の頭公園、下總區區間、武州高尾山、上州妙義山、上州碓氷湖、野州日光山、甲州觸瀨、箱根山、○栗飯、目黒、○香展、上野公園、○清國神社祭禮、鶴町九段

北海道	九三、七五、六一	全	一九八、五三、二二
東 京	一三〇、〇〇、四七	和歌山	四、七九、一五
大 阪	四、二六、一七	全	二八、四九、三三
東 京	四、八八、五、一〇	愛 知	二、〇五、三、〇三
全 國	六、九二、七、六九	全 京	二、七三、八、六八
東 京	三、六七、七、三四	全 都	一、三三、九、一五
山 口	二、四九、九、六〇	全 都	一、三三、九、一五
全 國	三、二七、七、九六	全 都	一、三三、九、一五
安 芸	一、二七、八、一八	全 都	一、三三、九、一五
全 國	一、五九、九、一八	全 都	一、三三、九、一五
大 阪	一、〇二、九、四三	全 都	一、三三、九、一五
東 京	七、五三、二、五三	全 都	一、三三、九、一五
大 阪	五、五八、二、四四	全 都	一、三三、九、一五
兵 庫	三、二五、六、八〇	全 都	一、三三、九、一五
全 國	二、五五、六、八〇	全 都	一、三三、九、一五
愛 知	二、五五、六、八〇	全 都	一、三三、九、一五
全 國	二、五五、六、八〇	全 都	一、三三、九、一五
和 歌 山	五、六六、八、一五	全 都	一、三三、九、一五
大 阪	九、六六、八、一五	全 都	一、三三、九、一五
東 京	二、八、三、三、八	全 都	一、三三、九、一五
全 國	七、九三、四、二八	全 都	一、三三、九、一五
大 阪	二、五〇、五、七八	全 都	一、三三、九、一五
東 京	八、〇八、六、八八	全 都	一、三三、九、一五
全 國	一、六七、〇、九六	全 都	一、三三、九、一五
東 京	二、八、〇、三六	全 都	一、三三、九、一五
全 國	一、六七、〇、九六	全 都	一、三三、九、一五



十一月

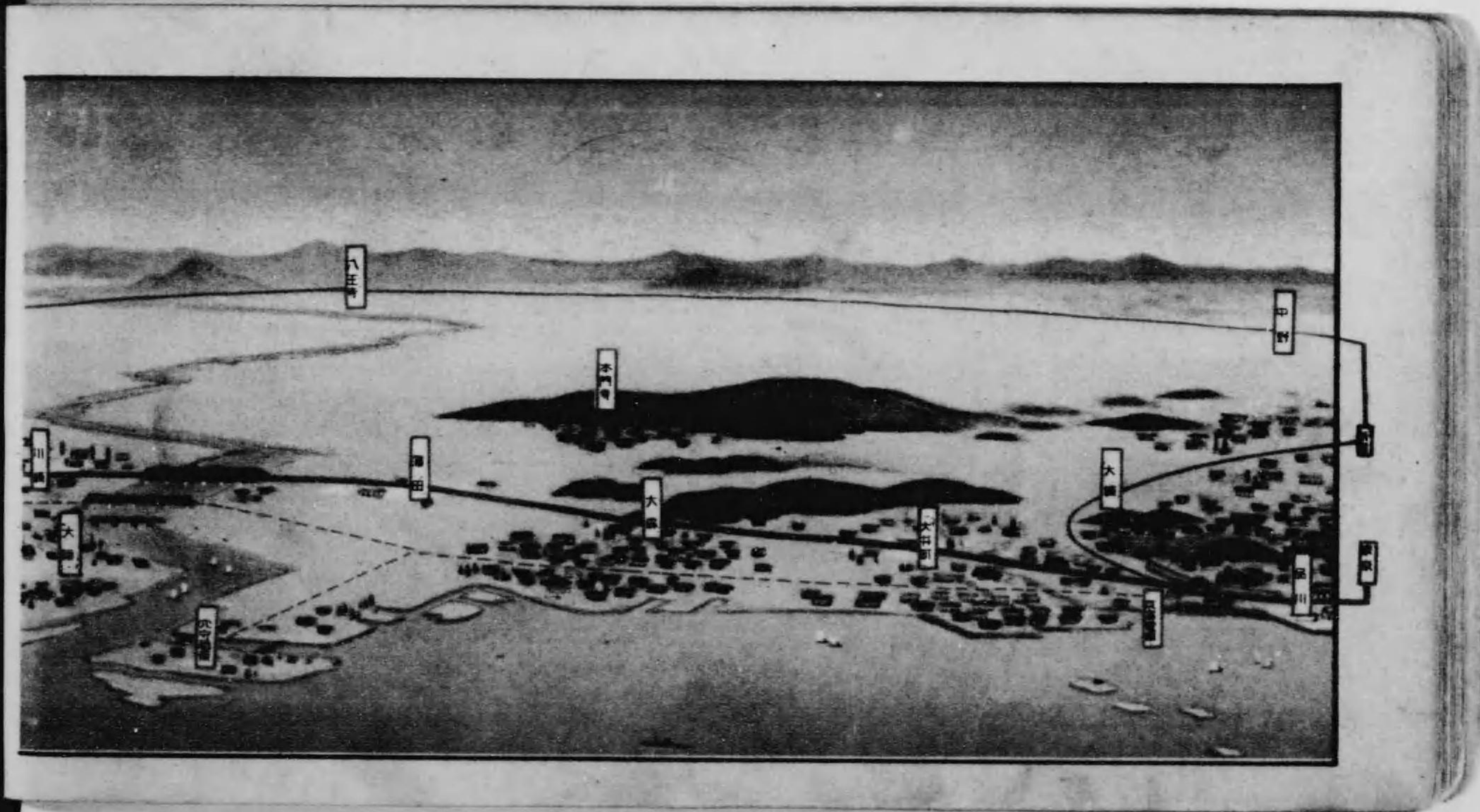
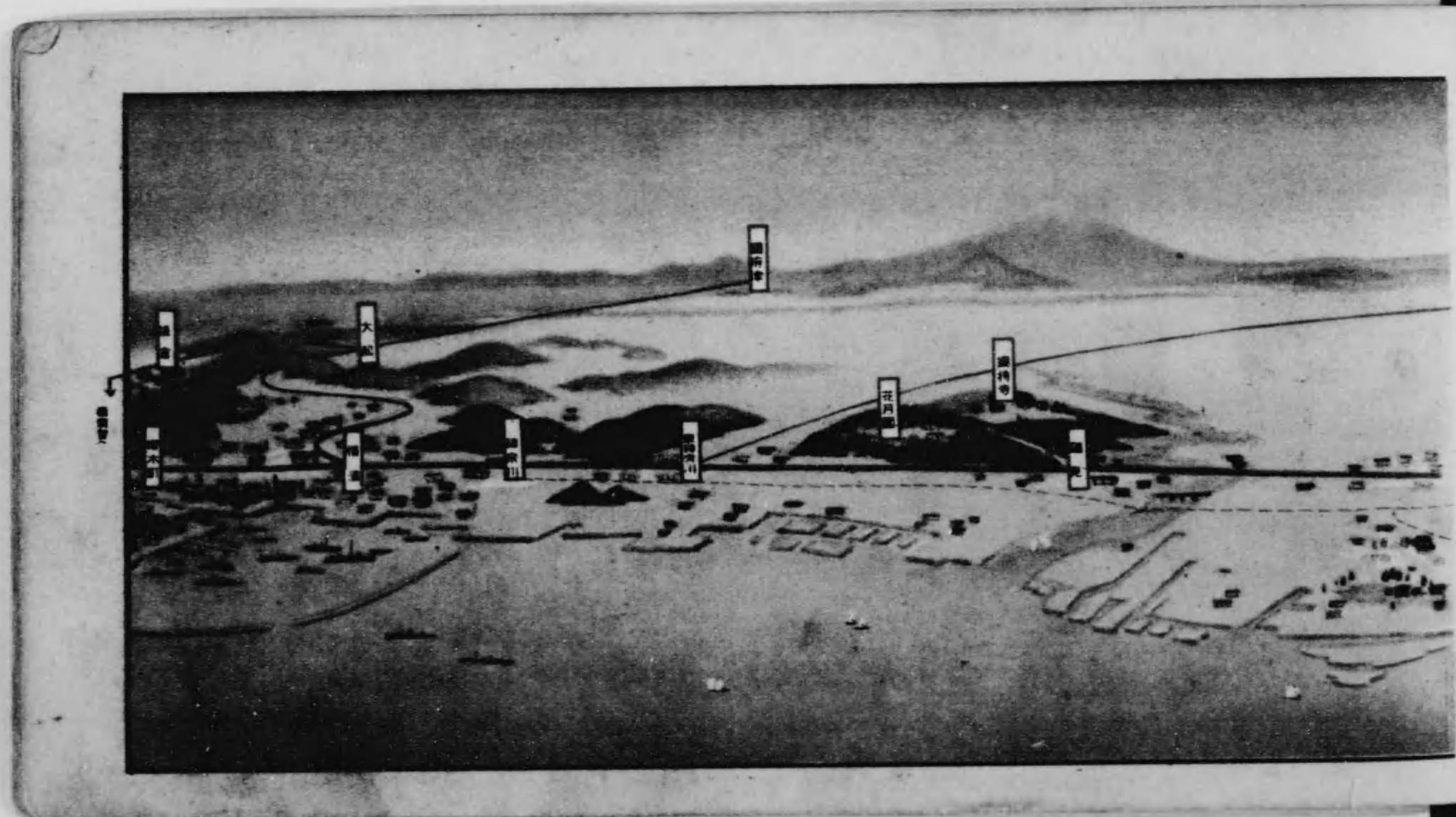
○七五三の戦(五、六、七日)、日枝、神田、赤坂、水川、富岡八幡、其他各社。○西の市(百の日)、下谷稲葉寺町大自神社、深川公園、向島秋葉神社、四谷須賀神社、新宿園神社。○東本願寺報恩講(廿二日より廿八日)、浅草東本願寺。○西本願寺報恩講(廿四日より廿八日)、樂地西本願寺。○結野(中旬より十二月初旬)、鶴司ヶ谷、目黒、廣尾、戸山

十二月

○深川八幡蔵の市(十四、十五日)、深川八幡宮前。○浅草寺蔵の市(十七、八日)、浅草寺。○神田神社蔵の市(廿、廿一日)、神田明神。○芝太神宮蔵の市(廿二、三日)、芝太神宮。○愛宕神社蔵の市(廿四日)、芝愛宕神社。○天神蔵の市(廿五日)、御町平河天神。○本郷湯島天神。○樂研堀不動堂蔵の市(廿八日)、日本橋南橋本蔵。○日本橋、銀座其他蔵の市(卅、卅一日)、日本橋より新橋、兩國廣小路、今川橋邊上野廣小路、浅草雷門前、人形町通、牛込神樂坂、四谷門外、傳馬町邊、麻布飯倉四ッ辻、赤坂表町邊。○雪見(十二月、一、二月)、向島木母寺、浅草聖天町待乳出上野不忍池、上野公園、愛宕山、御町公園、大森

東京市は東京府廳所在地で、府は武蔵國の一部と伊豆諸島及小笠原島を管轄して居る。全國の中央に位し、關東平野の南部を占め、地勢平坦にして其西境に秩父山脈の横はつて居るのみである。荒川下流の隅田川は東京市を貫流し、多摩川は關西部を通過し、又東京市に上水を送つて居る。東京市は東京府の北岸に在り、帝國の首府として政事、經濟、學藝、軍事の中心をなし、商工業亦盛に勃興、製紙、機械製造、印刷業其他の工業多く、近海には淺草海苔を出して居る。府の西部は蘆荻菜産地、八王子其中地をなし、絹織物の産地多し、伊豆七島中の大島には島産あり、八丈島よりは黄八丈を出し、小笠原島には甘蔗を始め、香蕉、鳳梨、糖蜜、甘蔗の産がある

東 京	三、四三、二、五五	千 葉	二、九七、九、八八
大 阪	四、六六、七、四四	全 國	四、五、一、三〇
全 國	一、一五、〇、九一	全 國	四、五、一、三〇
東 京	四、〇八、七、四三	全 國	四、五、一、三〇
全 國	五、三六、一、三八	全 國	四、五、一、三〇
東 京	九、九六、一、八〇	全 國	四、五、一、三〇
全 國	一、七〇、三、六〇	全 國	四、五、一、三〇
東 京	六、八八、九、七三	全 國	四、五、一、三〇
全 國	一、三三、三、〇三	全 國	四、五、一、三〇
東 京	四、四四、〇、八二	全 國	四、五、一、三〇
全 國	一、四二、五、四七	全 國	四、五、一、三〇
東 京	八、七五、八、六九	全 國	四、五、一、三〇
全 國	四、〇一、六、三三	全 國	四、五、一、三〇
東 京	九、三三、五、四四	全 國	四、五、一、三〇
全 國	一、九〇、五、八一	全 國	四、五、一、三〇
東 京	一、六〇、五、七四	全 國	四、五、一、三〇
全 國	二、〇三、三、四二	全 國	四、五、一、三〇
東 京	一、七三、九、八三	全 國	四、五、一、三〇
全 國	一、一五、二、九七	全 國	四、五、一、三〇



東海道線

東海道線とは

- 一 東海道本線 東京、神戸間三七三哩五分、鶴見、横濱港間六哩九分、横濱、櫻木町間一哩、大垣、美濃赤坂間三哩一分及貨物支線
- 一 横濱線 東神奈川、八王子間二六哩四分及貨物支線
- 一 横須賀線 大船、横須賀間一〇哩
- 一 熱海線 國府津、小田原間三哩九分
- 一 武豊線 大府、武豊間一二哩
- 一 高山線 岐阜、各務ヶ原間八哩二分
- 一 西成線 大阪、櫻島間四哩九分
- 一 福知山線 神崎、福知山間六七哩、塚口、尼ヶ崎間二哩九分
- 一 有馬輕便線 三田、有馬間七哩六分

の總稱である、其本線は東京市内の宮城に近き丸の内、東京驛を起點として西に向ひ、京都、大阪の二府、横濱、神戸の二大貿易港、中京の稱ある名古屋、いはゆる日本の五大都市を有する中樞の重要な地方を貫通する國有鐵道幹線の一つである。

從て此線路に於ける交通は最頻繁を極め、短距離列車の外神戸行列車六回、明石行一回、糸崎行一回、富山行一回、下關行五回あり、神戸行の中一回は三等急行、二回は二三等急行、一回は一二等急行で、東京神戸間約十四時間を要し、下關行の中一回は特別急行で東京下關間約二十四時間、一回は三等急行、一回は一二等急行で共に約二十七時間半を要す。京濱間は汽車の外電車あり、東京、櫻木町間約十二分毎に發し、山手線を通じて東京、品川、新宿、池袋、田端を経て上野に行く電車や、池袋から赤羽に行く電車や、中央線の東京、新宿、吉祥寺間の電車などと相俟つて市内外の交通に便し、又日本郵船、東洋汽船の

外國行汽船出帆の際は東京から鶴見を経て横濱港まで直通列車を運轉して居る

東京驛を出發すると右に近く宮城が拜せられ、愛宕の塔や増上寺の森、芝離宮から濱の離宮、東京灣内の舊砲臺、房總の山々の淡き姿、總持寺の新建築など走馬燈の如く旅客の目に映る。東神奈川からは八王子へ行く横濱線が右に岐れ、横濱を後にして品野坂隧道を潜ると相模國、大船からは左に横須賀線が岐れて行く。平塚からは三角状をなせる大山が近く仰がれ、大磯に近づくとき高麗山の鬱蒼たる樹林が目をはひく、國府津からは左に熱海線を岐ち、本線は古の海道と岐れて西北に迂迴し、箱根の外輪山を左に眺めつゝ、弓の如き線を描いて酒匂川の上流に沿うて足柄の翠巒にわけ入る、本線中第一の峻難所で、トンネルと鐵橋の連続とも云へるが、奇峯奔流風景美を現して居るところが多い

駿河驛のある處は既に駿河國に、富士瓦斯紡績の工場の爲に山中の一都會をなして居る、汽車は尙上つて御殿場に行く、海抜一千五百尺、この線に於ける最高停車場で、富士の靈峰は其正面に緩やかな傾斜を次第に高まり、遂に屹然として雲の上高く聳え立つ。こゝから三島に行く間は箱根の裏山を左に見ながら、富士の裾野を斜に切つて下り、國府津で岐れた海邊に近づいて沼津を指す、沼津からはいはゆる田子の浦曲に沿うて走り、青松白沙數十里に續く。富士川の長橋を渡りて蒲原、由比、興津、江尻あたりは、いはゆる東海の名區で三保の松原、富士の仰望度か汽車の窓から顔の出さるゝ處である。静岡のあたりは茶畑多く目をひき、大井、天龍の大河を渡ると濱松もやがて後にし、富士の靈峰に遠ざかつた旅客は、茲に新たに濱名湖の風光に接することとなる、舞坂から今切の鐵橋を渡つて鷺津に至る間、右には濱名の平湖あり、左には太平の巨洋あり、左顧右盼宛然横披の大活畫を見るが如く、海道無比の明媚な風光で

ある、豊橋を後にすると左に瀨美灣の波光が見え、御油、蒲郡あたり展望秀絶である。大府からは南に武豊線を岐ち、名古屋からは又海道に別れて北に向ひ、鶴岡を以て知られた岐阜に至つて右に高山線を岐ち、こゝから中仙道に沿つて西し、草津に行つて再び海道と合ふ。米原から西は汽車は琵琶湖の波光に近づいては距れ、距れては近づき、近江富士の三上山亦其美しい姿を見せて車窓の人を楽しませしめる。瀬田川の落口近き鐵橋を渡る時、下流にはいはゆる瀬田の唐橋あり右には太湖の明鏡あり、比叡、比良の高峰湖の彼岸に聳え立ち、矚目云ふべからざる風情がある。大津から達阪山のトンネルを潜ると京都は早近く、山科を過ぎ東山のトンネルを潜ると「蒲團著て寝たる姿や東山」の姿眼前に横はり、三十三間堂、豊公の廟所、清水寺、八坂の塔、知恩院なども指點せられて、なつかしき古き都に著く。

京都を後にして桂川を渡るとやがて右に長岡の古都址が見え山崎あたりからは右に天王山、左に男山が見ゆる、天王山は山崎合戦に秀吉と光秀が争うた處、男山は石清水八幡宮の鎮座ある處である。大阪に近づくと先づ林立せる煙突の烟に暗れたる空も暗く、誰か目にも商工場の都市たることを合點させる、其大阪では西成線、次の神崎では福知山線を岐ち、本線は右に六甲連山の聳ゆるを見、左に茅渚の白帆を眺めては進む、住吉あたりからは瓦葺相連りて殆ど神戸の接續市街だと云ふ感じがする汽車はやがて其神戸市街に入り三ノ宮を経て神戸驛に着く。

東海道本線 東京―神戸 三三三哩五分

【東京(とうきょう)】驛のある處は麴町區丸の内、御濱を隔て、斜に宮城に對して居る、ルネッサンス式の三階建、長さ百八十間幅十一間乃至二十二間、建築の大と輪奐の壯と相俟つて崇嚴雄偉なる建築美を現して居る。中央は帝室御専用室で其左は電車

乗降口、右は東京ステーションホテル入口、右方南側の八角廣室は改札所で乗車客の通路、左方北側の八角廣室は集札所で降車客の通路、北側出口の前面には鐵道界の元勳たる故子爵井上勝氏の銅像がある 【新橋(しんばし)】急行列車の内、この驛に停車するものもあり、乗降客が多い 【品川(しながは)】四哩三山手線の接續點、京濱電氣鐵道も此處から横濱に行く、江戸時代には東海道五十三次の第一驛であつた、泉岳寺は西北八丁

【大森(おほもり)】市郊外居住地として發展した、日蓮上人が殉難たる宗教的生涯を終へた池上の本門寺は此驛から二十五丁俵賃五十錢、蒲田から十六丁俵賃四十五錢、毎年十月の御會式には賽者山を埋めて萬燈の光輝く 【川崎(かはさき)】工業地として榮え會社工場が多い、平間寺の大師様にも此處から行く、電車賃九錢、俵賃五十錢、自動車賃四圓 【鶴見(つるみ)】近くに能登から移した曹洞宗の大本山總持寺がある 【東神奈川(とうしながは)】一六哩八 八王子に行つて中央線と接する横濱線の分岐點、同線では橋本からする相模川の鮎漁、相原から西南四里の石老山など遊覽の人をひく 【横濱(よこはま)】一八哩二



安政年間開港場となつてから六十餘年、當時百戸の一漁村今は日本第一の貿易港となつた、今人口四十二萬三千人、大正七年の貿易額輸出八億千七百萬圓、輸入五億千九百萬圓、輸

出は全國總額の四割二分、輸入は三割一分を占めて居る。市内電車賃片道七錢往復十三錢、市の全景を見るには伊勢山大神宮のある野毛山から井伊直弼の銅像のある掃部山に登るが好い。櫻木町の電車驛からは僅に入丁ばかりだ、三溪園は市第一の遊覽地で市内電車本牧停留場から五丁、山海の勝あり、自動車賃驛から六圓。市内旅館グランドホテル、オリエンタルホテル、マルモンドホテル、ブレザントンホテル、津久井屋、蓬萊屋、廣島屋、福井屋、小田原屋 ▼杉田、金澤を経て逗子へ、梅の名

所杉田を經、金澤八景を見て逗子に出るのは一日旅行として適當である、横濱駅から自動車杉田へ七圓、金澤へ十二圓、八幡橋から金澤へ乗合自動車賃一圓、逗子金澤間七十錢、金澤旅館千代本、東屋

神奈川縣はこの横濱市に在り、相模國と武蔵國の一部を管轄して居る、左に我國最近五年間の海外貿易額及縣の主要産物を掲記して參考に供す

最近五年間海外貿易額

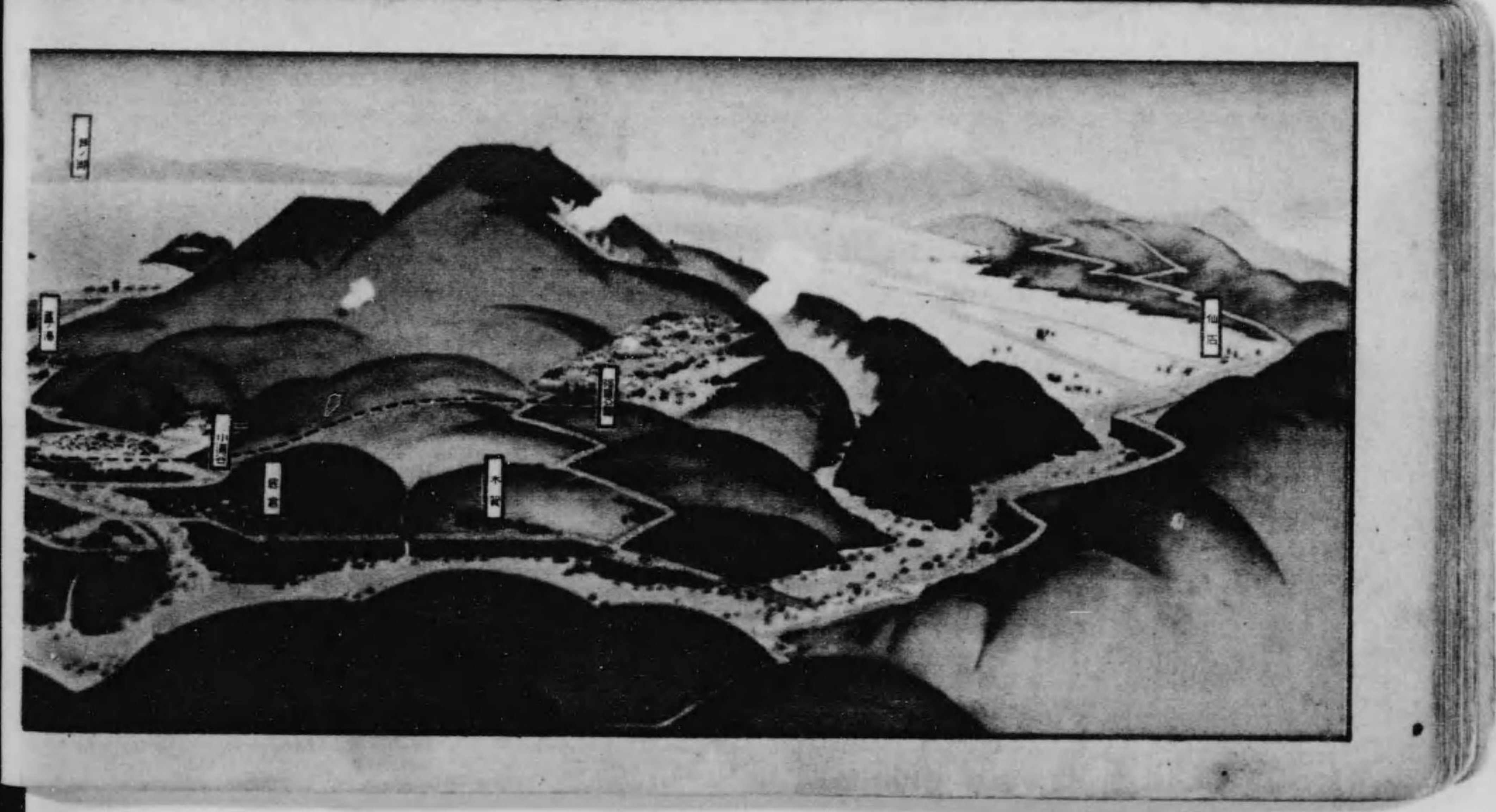
Table with columns: 年 度, 輸 出, 輸 入, 合 計, 超 過. Rows list years from 大正八年 to 大正四年 and various commodities like 大豆, 小麦, 棉花, etc.

【大船】(まほむ) 一八哩八 横須賀線の分岐點、同線は歴史の地鎌倉を経て軍港横須賀に至る、鎌倉から江ノ島方面、三浦半島の廻遊など、この地方へは旅行者が可なりに多い、列車も東京から直通運轉し、鎌倉まで約一時間半、横須賀まで約二時間で

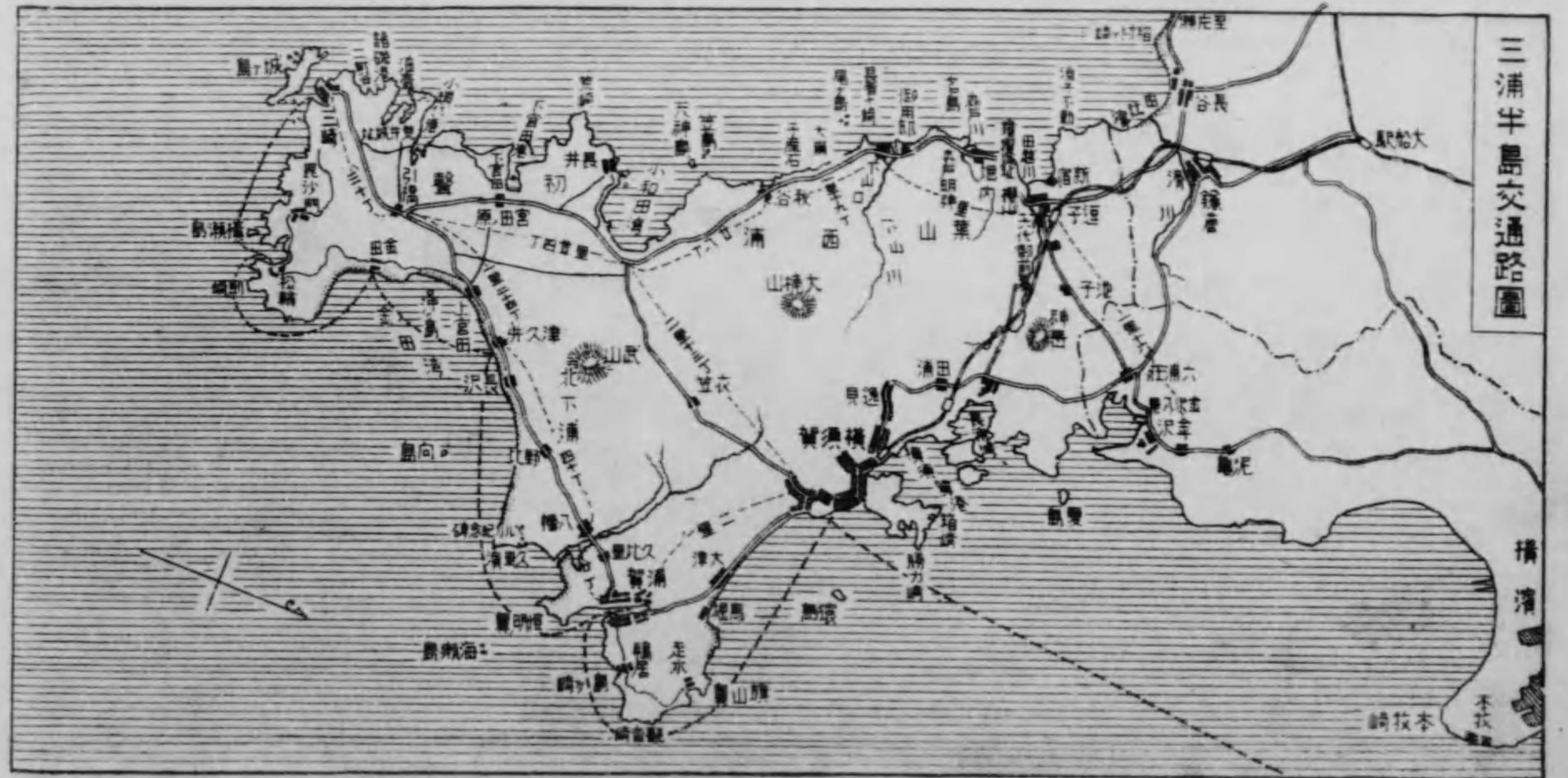
鎌倉江ノ島遊覽路 鎌倉驛：八幡宮通り空宮小路：二の鳥居前右折：小町通り左折：日蓮上人法説法の跡：北條屋敷跡：寶戒寺：舊大倉邸：常陸橋：頼朝屋敷跡：大江、無津、頼朝の墳墓：鎌倉親王を祀れる鎌倉宮、引返して鶴ヶ岡八幡宮：同境内左裏門より右巨福呂坂切通し：建長寺：明月院址：時鐘の墓：圓覺寺：時宗の墓：引返して鶴ヶ岡切通し：鶴ヶ谷：右折：鎌倉を越えて：化整坂：最清土庫：海蔵寺：弘法大師十六井：引返し英勝寺、善福寺、實朝及政子の墳墓正宗屋敷：御用邸前：由井ヶ岡通り：和田海舟通り：長谷通り：長谷觀音：觀音手前右折、長谷大佛：鎌倉五郎社：星の井戸：徳樂寺切通し：極樂寺左折、稻村ヶ崎：七里ヶ濱：行合橋：源起：片瀬：江の島：藤澤

右交通賃金鎌倉藤澤間電車賃三十一錢、自動車半日雇二十五圓一日四十圓、鎌倉江ノ島間五圓江ノ島藤澤間三圓、馬車賃切鎌倉宮、八幡宮、建長寺、圓覺寺、長谷大佛廻遊三圓五十錢、半日五圓、一日十圓、鎌倉江ノ島間三圓、名所廻り賃賃五時間一圓五十錢、十時間二圓五十錢、旅館鎌倉驛前小町圓、八幡前角正、鈴木屋、松岡、扇谷香風園、旭館、長谷海濱ホテル(外人向)三橋、海月、稻瀬屋、材木座、進藤亭、江ノ島岩木樓、惠比壽樓、金龜樓、讀岐屋、鶴沼東屋、片瀬風琴園、紀ノ國屋

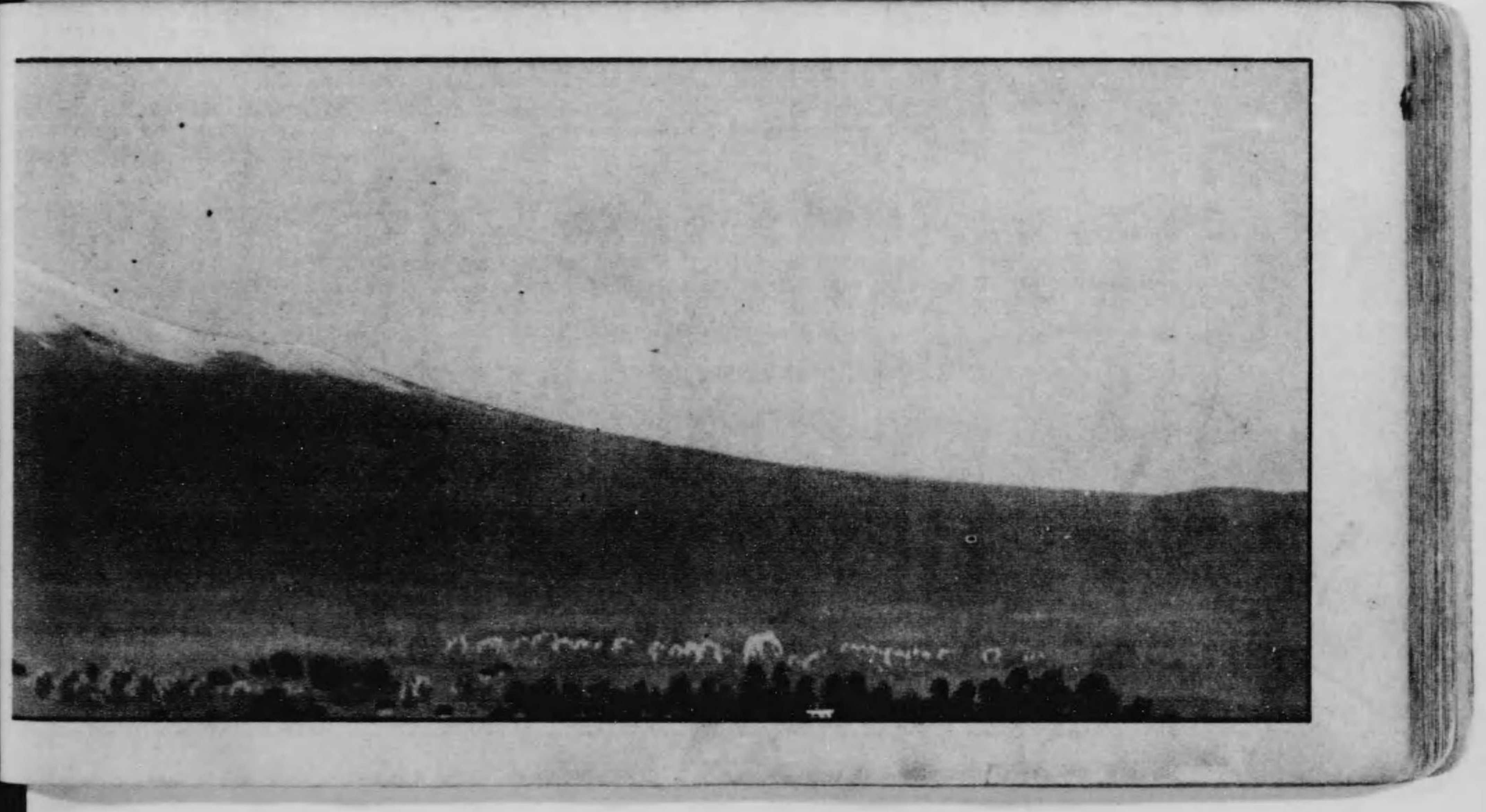
▼三浦半島巡り、逗子を起點として横須賀に出るか或は夫を逆に行く、陸路十三里、三崎一泊の旅として適當である、其順路左の通り、長井から衣笠城址を経て横須賀へは二里 逗子驛：東郷の濱海水浴：鐘指城址：森戸神社：葦山一色海岸：長者ヶ崎：大廟：秋谷：長井：宮田ノ原：引渡：三崎、城ヶ島、櫻の御所、熊の御所、櫻の御所、歌舞島：由登、帝天臨海實験所、新井城址、引返して三崎：引渡：津久井：八幡：久里濱、引返して八幡：浦賀、奉行屋敷址、千代崎大倉庫址：走水：大津横須賀：米ノ濱、十三時の安針塚 右交通機關逗子、三崎間六里餘自動車賃二圓三十錢約一時間 城ヶ島舟遊六人乗二圓、油壺舟遊同三圓、三崎、浦賀間五里餘自動車賃一圓八十錢約一時間、浦賀、横須賀間二里自動車賃一圓約三十分、旅館逗子養神亭、葉山日影茶屋、長者園、三崎御陽館、三崎館、初聲館、横須賀三宮屋 【藤澤】(よこはま) 三哩六 江ノ島鎌倉方面に遊ぶには往返何れか此驛からするが好い、驛の北八丁、時宗の繪本山遊行寺あり 【平塚】(ひらつか) 三九哩六 ▼厚木站漁場、東北三里半自



三浦半島交通路圖



動車一圓二十錢 ▼大山登山、頂上まで四里半、明神前まで約三
 里自動車一圓三十錢三十五分、馬車七十五錢二時間、俵は三ノ島
 居まで約三里半一圓三十錢二時間、明神前から頂上まで一里半
 強三時間にて登る。二の宮からは泰野まで湘南軌道賃四十三錢、
 泰野から明神前まで一里半、山は海拔三、四五〇尺頂上阿夫利
 神社あり、春季祭四月十五日から廿四日まで、夏季祭七月廿七日
 から八月十七日までには特に登山者が多い、大山町旅館駒屋、伊豆
 屋【大磯】(おほいそ) 四二哩 別荘地、海水浴地として榮えて
 居る、鳴立澤、高麗山、千疊敷遊園地、淘綾の磯など散策の地
 が多い、名所遊覽一日雇賃二圓五十錢、照ヶ崎海水浴場へ四
 丁雇賃二十五錢、旅館瀧龍館、長生館、油屋、山秀樓、大内館
 【國府津】(こふづ) 熱海線の分岐點、同線は熱海を迂回して三島
 に行つて本線に接する豫定で今小田原まで開通し、東京から小
 田原への直通列車を運轉して居る、東京小田原間五二哩一分約
 二時廿分、小田原からは箱根温泉遊覽の爲に小田原電氣鐵道が
 湯本、塔ノ澤、宮ノ下、小涌谷を経て強羅まで行つて居り、湯
 河原、伊豆山、熱海温泉遊覽の爲には大日本軌道の便がある、
 小田原の海岸も夏は海水浴客で賑ふ、旅館小伊勢屋、福屋、養
 生館、琴清樓 ▼箱根遊覽、帝都附近遊覽浴泉第一の地は箱根
 である、温泉場も湯本(旅館福住、小川、住吉) 塔ノ澤(旅館
 環翠樓、新玉、一ノ湯、福住) 宮ノ下(旅館、外人向の富士屋
 ホテル、奈良屋、紅葉) 底倉(旅館仙石屋、梅屋、葛屋) 堂ヶ
 島(旅館大和屋、近江屋) 木賀(旅館成駒、宮内) 蘆ノ湯(旅
 館紀伊屋、松坂屋) 以上は古のいはゆる箱根七湯であるが、
 明治の世に新に小涌谷(旅館三河屋と外人向の小涌谷ホテル)
 強羅(旅館強羅館、末廣、一福) 姥子(旅館秀明館) 仙石(旅
 館後石閣、仙郷樓) の四温泉開かれ、強羅は電鐵で經營した遊
 園が名高く、其周圍は別荘地となり貸別荘の設もある。小涌谷
 は箱根山中眺望第一の地で、其風景美をなす蓬萊山から蛇骨川



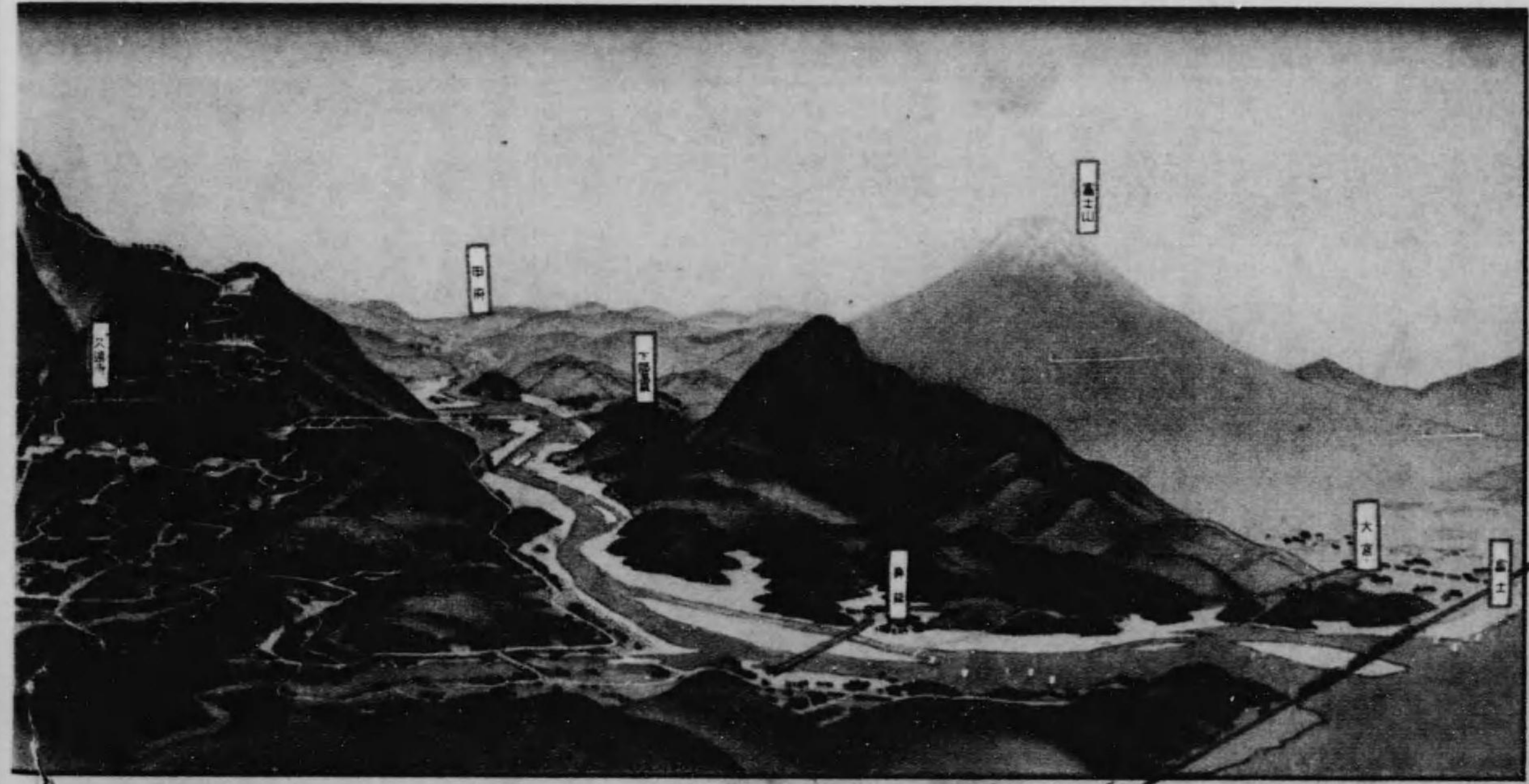
時に至る傾斜面へかけては、數萬株の櫻樹と躑躅花があり、四月の中旬から六月下旬までは、花の白雲彌引き、山も躑躅花の紅に燃えて、紅葉の名所としての箱根の外に新しく花の名所が出来た。山中の交通機關は湯本から強羅までの登山電車を初め、小田原からでも湯本から上の各電車驛からでも、自動車の便が自由自在である、日本に名高い山水郷は多いが、自動車で山中を駆け廻ることの出来るのは、只この箱根ばかりである、馬車もあり俚も無論あるが却て割が高くつて、右を偲ぶには駕籠があり外人向にはチエアがある。電車賃は小田原から湯本特五十錢並廿五錢、塔ノ澤特六十一錢並三十二錢、宮ノ下特一圓六錢並六十二錢、小涌谷特一圓十九錢並七十一錢、強羅特一圓三十二錢並八十一錢。貸初自動車賃金は左表の通り

目的地	小田原	湯本	塔ノ澤	宮ノ下	小涌谷	強羅
小田原	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
湯本	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
塔ノ澤	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
宮ノ下	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
小涌谷	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
強羅	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

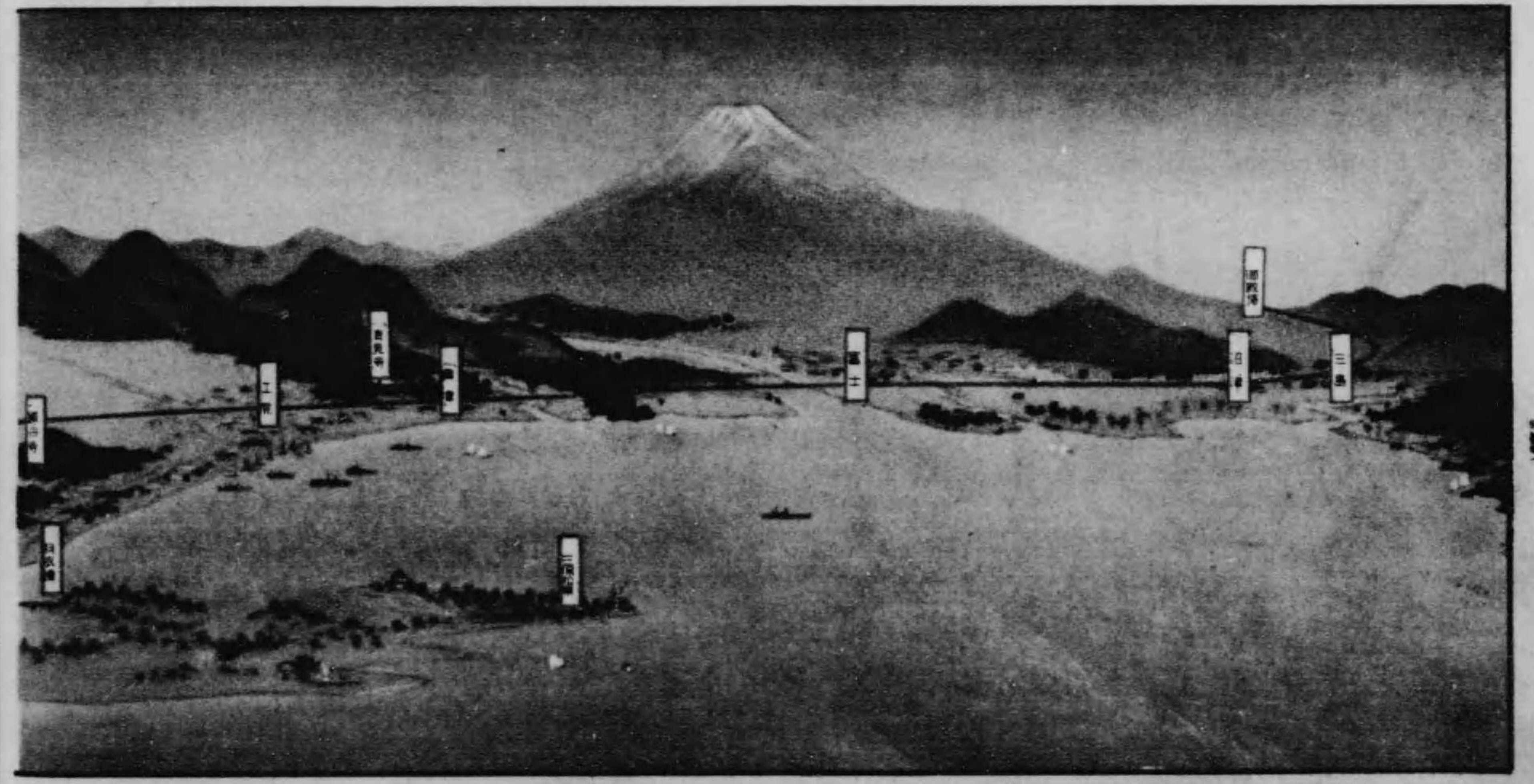
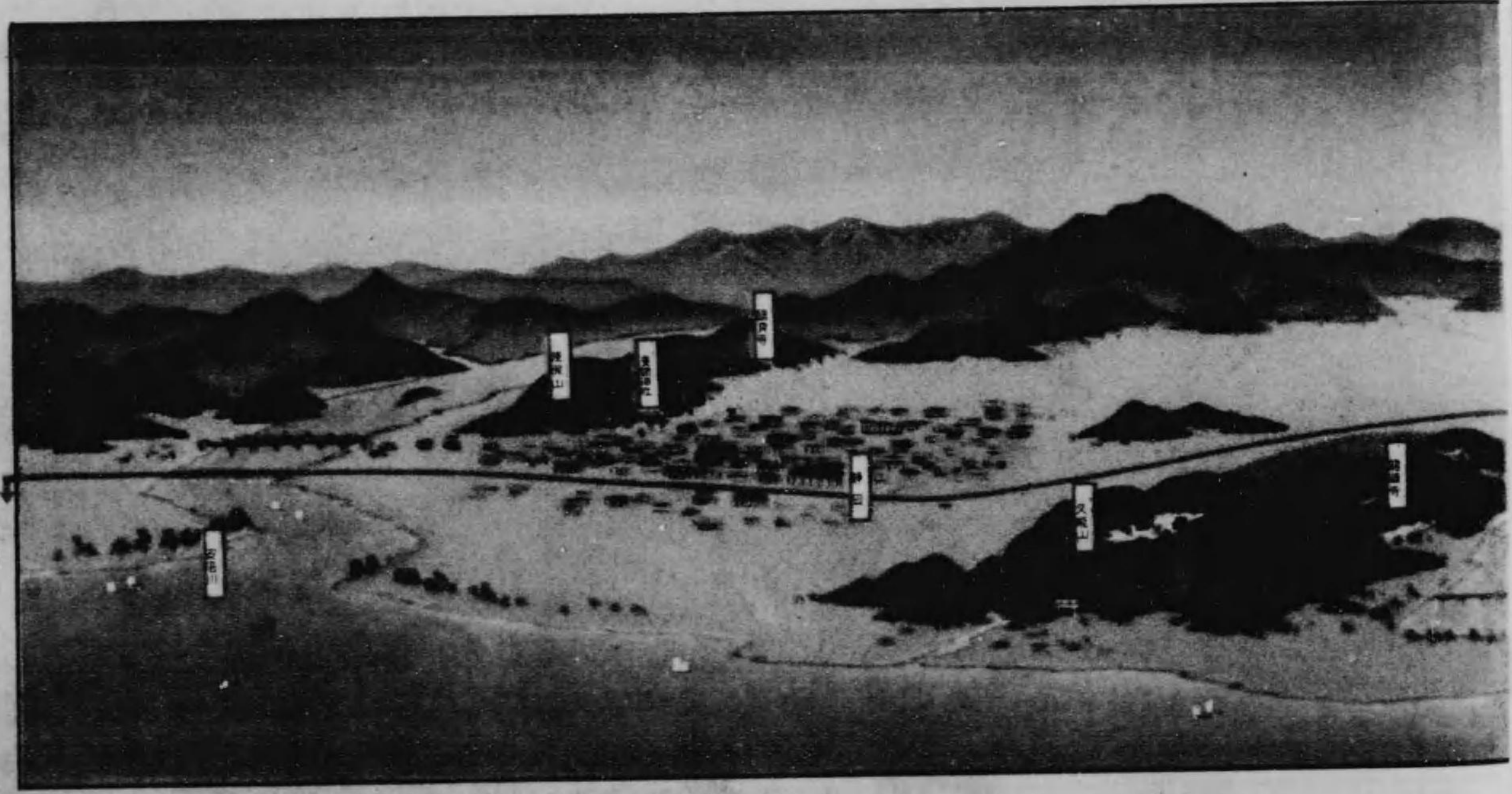
乗合自動車賃金は小田原一六十錢、湯本一十五錢、塔ノ澤一六十錢、宮ノ下一四十錢、小涌谷停留場一三十錢、小涌谷一九十錢、芦ノ湯一八十錢、元箱根一二十錢、箱根
箱根山はいはゆる覆成火山で、金時山、明神山、明星嶽、浅間山、鷹巣山、要害山、鞍掛山、箱根峠、山伏峠、三國山、湖尻峠、乙女峠などを外輪山として、其中に神山、駒ヶ嶽、双子山が聳立して居る、山上に在る蘆ノ湖は即ち火口原湖、早川須雲川の二流は即ち火口湖で、當年噴口火の餘勢は尙大涌谷に見ることが出来る。普通箱根の遊覧は春秋の花紅葉を別として、其蘆ノ湖から大涌谷への見物で満足する人が多いが、神山や駒ヶ嶽や双子山に登り更に其外輪山を突破せれば箱根の山水を鑑ること出来る、前記の山には蘆ノ湯か小涌谷から登るがよく、又外輪山の突破は仙石から乙女峠を越えて御殿場に出るか、宮城野から明神山を越えて道了權現に詣つて松田に出るか、湖尻峠を越えて湖野に出るか、蘆ノ湖畔の鞍掛峠を越えて日金山十國峠に出て湯河原か熱海に下るも面白い。夫からこれは突破と云ふ程ではないが、小涌谷から鷹巣山、城山、湯坂山道を経て湯本へ出る道道道路は、早川須雲の兩溪谷の風光を下瞰し、富士を仰ぎ海光を眺めつゝ行く一里半の道で、婦人子供にも行ける遊覽路である。蘆ノ湖舟遊賃金 箱根町一湖尻間二人船夫片道二圓十錢往復二圓八十錢、箱根町一元箱根間二人船夫片道一圓廿錢往復一圓六十錢、一時間雇一圓四十錢、一日三圓五十錢、水門週三十錢増、箱根權現週廿五錢増、以上船賃値上の計畫あり約三割増となる筈。モーターボートは 箱根町一湖尻間片道三圓五十錢往復四圓五十錢、箱根町一元箱根間片道一圓往復一圓五十錢、權現週水門週は各金五十錢増、時間雇半時間二圓五十錢、一時間四圓、半日十五圓、一日十八圓

【松田】(まつだ) ▼道了詣で、驛から關本まで一里乗合自動車五十錢馬車三十五錢俚七十錢、關本から麓まで半里、麓から大雄山最乗寺まで二十八丁、線日は毎月二十七八の兩日、一、五、九月は賽者特に多し、小田原からは塚原、狩野、飯澤を経て山麓まで三里俚賃二圓、寺から明神山を越えて箱根の宮城野へ三里、これは道が悪い、【御殿場】(ごてんば) 七〇哩三、▲富士登山、

「天雲もいゆきはかり飛ぶ鳥もとびも上らず」富士の高嶺はげにわが日本の鎮である。衝天直立一萬二千三百七十尺、本州の中部に座位を占め、前に蒼海を控へ、左右に大川を帯び、八湖其麓に湛へ、八嶽其頂に聳え、六十州の峻嶽大嶺皆袖を列れて朝して居る。其容端麗其神崇高、國家の鎮と仰がれ民衆の儀表と尊まる。伴蒿蹊に歌あり、天つ日の照せる四方の國中にたぐ



第一圖 富士山



附近に於てのみ仰がるのである。この各面各様の富士を見よ
うと思ふなら岳麓を一周せねばならぬ。寶永山は人も知る如く
寶永年間の爆裂の跡で、前記の小富士などの外にも、裾野には
小さな小山が澤山あつて皆塚の名に呼ばれて居るが、悉く側火
山なのである。

裾野めぐりは、東海道本線からする人は御殿場驛に下車、龍
坂峠を越えて甲斐に入り、山中、河口、西、精進、本栖の五湖
及青木ヶ原三里の樹海の風色を愛で、割石峠を越えて駿河に入
り、上井田附近に於て建久四年富士蘆野の牧狩の址を尋ね、曾
我兄弟仇討の古を偲び、大宮より富士に出て、歸途につくのが
順路である。此間陸路二十六里餘、馬車渡船及鐵道の便を藉る
と歩かねばならぬところは僅に十里に充たない。御殿場から須
走を経て龍坂峠まで爪先上りの坂路である。峠を登り盡せば銀
盤の如き山中湖が見える。湖は海拔三千二百七十尺、水準の高
さ八湖に冠たるのみならず、最富士に近い、正に女神の腰盤と
も見るべきものであらう。

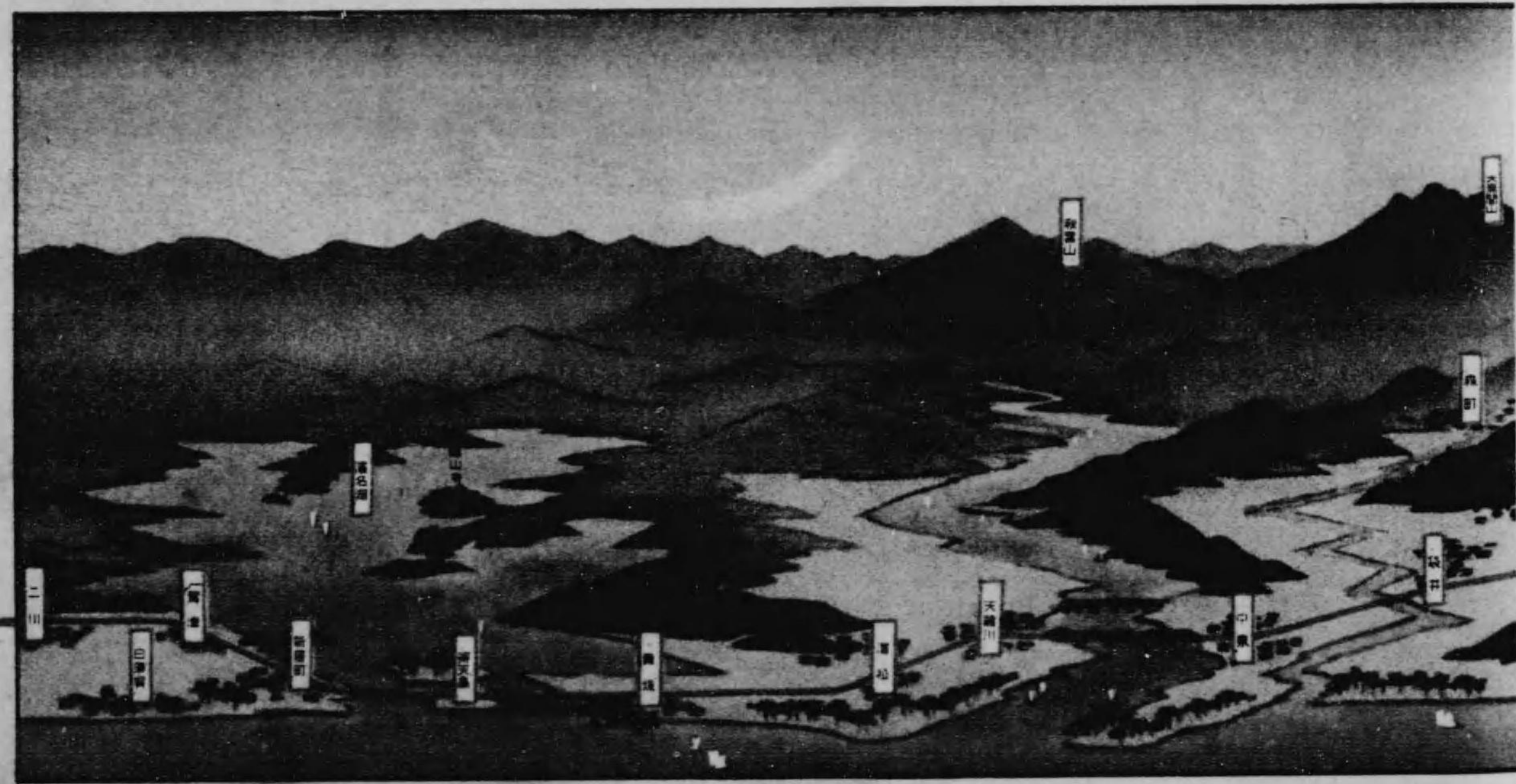
山中は湖を背にしたる一小村で、左右の平原直に嶽腰に接し
て赤裸々の高風を仰がれる。吉田橋を渡ると老杉蒼鬱たる富士
浅間神社がある。吉田は富士登山の北口で、芙蓉閣内には、そ
のかみ富士蘆野牧狩の際、高山庄司重忠の假屋に用ゐた遺材を
以て建築した、建久館と云ふ古亭がある、斧痕鑿跡歴々として
古を偲ばれる。

船津は河口湖畔の小繁華地である。富北軌道は今吉田口から
其船津を経て河口湖及西湖を俯瞰しながら鳴澤まで行つて居る
賃銀五十錢、河口湖は沓形に水を湛へ、周廻四里にあまりて八
湖中最大、御坂峠は其北に聳え、三つ峠其東に連り、十二ヶ嶽西
に戈を列れて、三面より湖を壓し、南ひとり開けて、八朶の大芙
蓉巖地に青蓮に涵して居る、西湖は藥研の状をなし、紺碧の潭
色濃く瀲みて幽凄なる風致である。鳴澤から精進へは一里あま

り、精進湖は水最淺しと云ふ、湖は壱形を爲し、後は女坂峠を
貫ひ、青木ヶ原の樹海を見越して、八朶の玉芙蓉を仰ぎ、風光
雄大にして幽邃を兼ねて居る。霜寒うして結氷すれば、宛然た
る大水晶盤、好箇の水滑場となるのである。斷崖湖心に突出せ
る處、歸化人星野氏のホテルがある。原を出づると甲州街道、
やがて本栖湖畔に至る、熊鷹形の湖で、瓊瑤の如く輝ける水を
湛へて景致幽然、東の方榕岩磊珂、雜樹叢生して樹海に續き、
富士の靈其上に屹立して居る。

本栖から甲州街道を上り、牧野ヶ原を過ぐると甲駿の境なる
割石峠を越ゆる、途は次第に爪先下りとなるのである。それか
ら根原を経て富士の人穴を見、上井田村に白絲の瀧、音止の瀧、
祐經の墓、頼朝の假屋の跡、駒止の櫓等を巡覽するがよい。上
井田から大宮まで馬車鐵道の便があり、大宮から富士驛までは
富士身延鐵道の便がある、賃金三十六錢

【三島】(みしま) 八二哩七 駿豆鐵道の分岐點、同線は三島大仁
間一〇哩八分賃金三十八錢、沿線には長岡、修善寺温泉、北條
氏後北條氏江川氏等の遺蹟多く、東京から一夜二夜泊りの旅行
地として恰好な處である。三島町驛から三島神社へ東三丁、伊
豆長岡驛から長岡温泉へ西十五丁自動車乗合四十錢賃切二圓、
館井五錢旅館大和館、サカナヤ、山田屋、共榮館、大仁驛から
修善寺温泉へ南一里八丁自動車乗合五十錢賃切三圓、旅館菊屋、
新井、淺羽樓 ▼内浦海岸廻り、長岡温泉から三津の海岸に出
て江ノ浦、靜浦を経て沼津へ出る三里餘の海岸路は、富士を前
面に仰ぎながら長江曲浦に沿ふ景勝道路で、一日の散策に適當
である ▼奥伊豆の温泉めぐり、伊豆の語原は湯出づて天城山
を中心にして四邊に温泉が湧いてある、西から北にかけては湯
ヶ島、吉奈、嵯峨澤、中島、船原、土肥、修善寺などがあり、
東から南にかけては伊東、熱川、谷津、湯ヶ野、河内、蓮臺寺
横川、下加茂の諸温泉がある、夫に日本開國史に因み深い下田

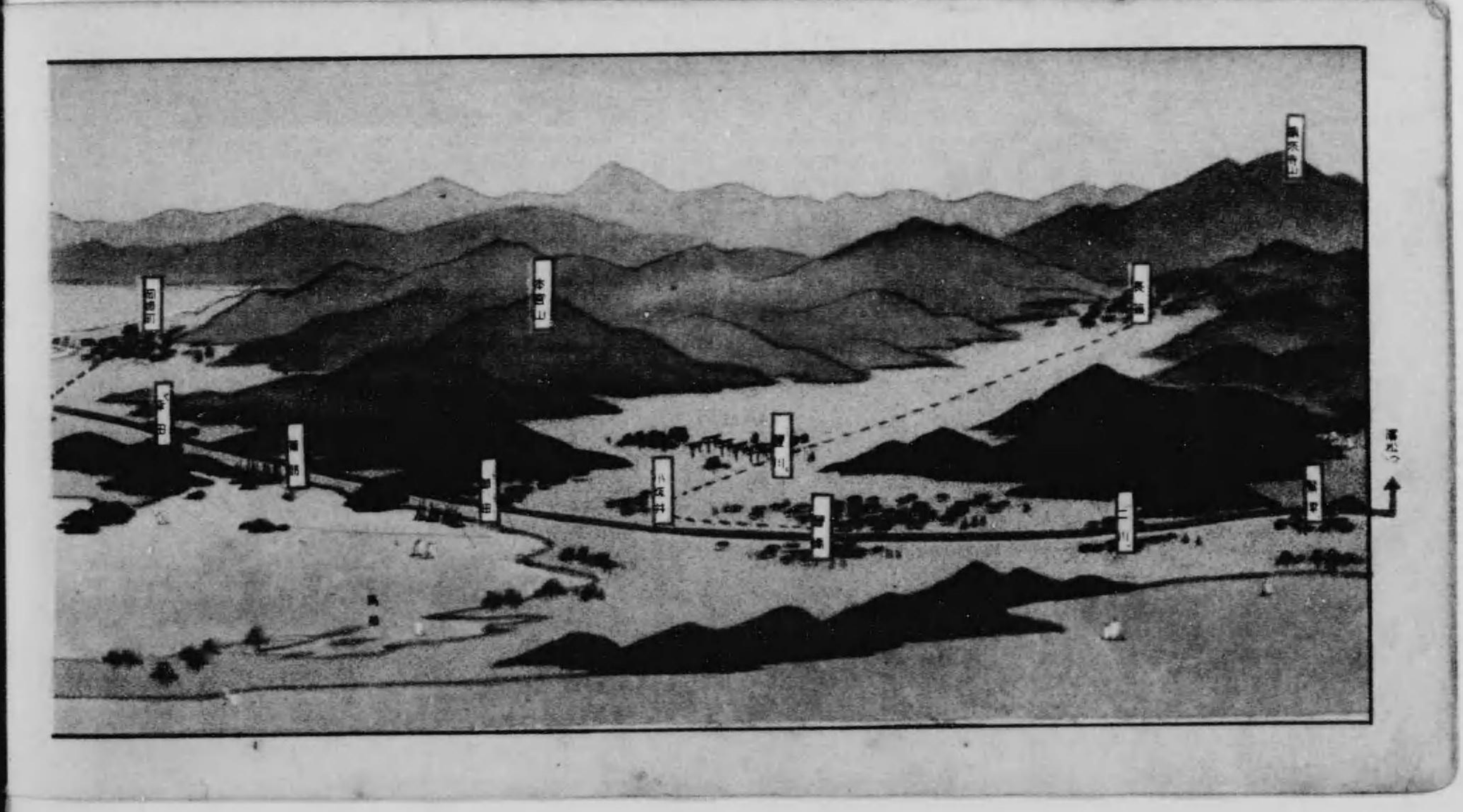
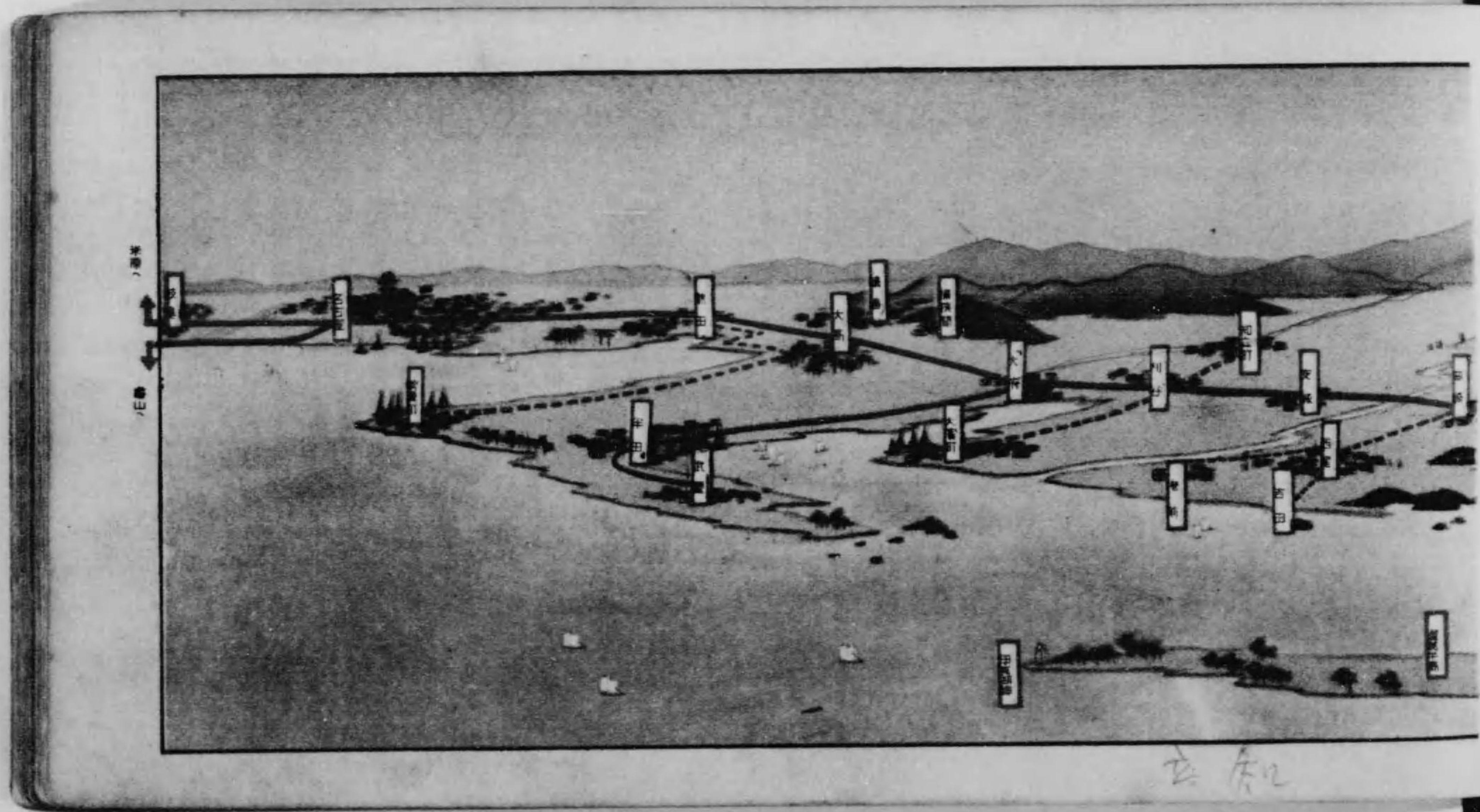


港があり、手石の彌陀窟があり、石廊岬の奇勝があるから、旅館の設備も整はず交通の便も缺けて居るが、東京から五日又は七日位の旅行として興味多きものである。夫には國府津から汽船(賃金二圓)で伊東に行くか熱海から船代(二里馬車六十錢)宇佐美(二里徒歩)を経て伊東(一里馬車廿錢)に行くか又は大仁から自動車(賃金三圓)で伊東に行き、其處を起點として陸路熱川、谷津の二温泉を経て下田に行くもよし(伊東下田間十四里内河津下田間三里牛馬車八十錢)大仁から修善寺、船原(自動車一圓五十錢)吉奈(自動車一圓五十錢)湯ヶ島(自動車賃二圓)湯ヶ野を経て下田に行つても好い、大仁下田間約十四里自動車六圓十錢三時間半、馬車三圓九時間で行ける。下田の附近には河内、蓮臺寺、横川、下加茂の諸温泉があり其巡遊も興が多い。下田からは西海岸の松崎(約六里自動車三圓馬車一圓十七錢)へも妻良(約五里)へも好い道があり、自動車も馬車も通つて居るが、妻良への途中湊から手石の彌陀窟を見て石廊岬に行き、長津呂から汽船で土肥温泉へ行くか、松崎から山越をして田子、宇久須を経て土肥(約六里)に出るが好い、土肥からは汽船で沼津へ出られる【沼津(ぬまづ)】八五哩六 近くに海水浴場が多い、千本松原は西南十四丁自動車賃切一圓五十錢、我入道、牛臥は南廿八丁から三十丁自動車賃切二圓五十錢賃廿五錢、静浦は南一里自動車賃切三圓賃四十五錢、三津は二里半、自動車賃切八圓、別に沼津町河岸から乗合モーターボートあり賃金廿五錢長岡温泉まで自動車賃切八圓五十錢、月田、土肥温泉へは汽船で行く、船賃月田五十錢、土肥六十五錢【富士(ふじ)】九八哩富士身延鐵道の分岐點、同線は富士、身延間二六哩九、賃金大宮町まで廿六錢身延まで一圓七十錢、大宮町は富士大宮登山口で、この方面からする人は先づ淺間神社に詣で、其裏から登ることゝなつて居る。身延詣も今は此鐵道の開通により、東京から夜汽車を利用すると一夜泊で行ける。ことゝなつた、がこの沿

線には寶相寺、瑞林寺、小泉久遠寺、北山本門寺、西山本門寺妙蓮寺、大石寺、大野の本蓮寺など日宗の巨刹があり、又身延驛から三里常葉川に沿つて下部温泉もあるから三四日の旅行に恰好な處である、驛身延山間賃一圓【奥(おく)】【江尻(えじり)】▼三保の松原から久能へ、興津江尻の海邊は夏は海水浴に適し、山海の眺望に富む磯坪岬があり、觀月の勝區清見寺があり、茶の輸出港として名高い清水港があり、(大正七年の貿易額輸出千六百三十萬圓、輸入四百六十萬圓)羽衣の一曲に美化された三保の松原があり、景勝觀望臺たる龍華寺と鐵舟寺があり、家康最初の廟社たる久能山東照宮があり、いづれも富士を前景背景として居り、静岡見物をかねて一夜二夜泊りの旅行地として恰好な處である、初め興津から江尻に行つて巡遊の上静岡に出てもよし、静岡から久能へ逆に行つても好い、興津(旅館一碧樓、東海ホテル)から清見寺八丁、薩埵峠廿丁、江尻(大津館、清江館)から清水港半里電車賃五錢、三保の松原(羽衣亭、桃花園)一里十一丁賃四十五錢、發動汽船十錢、龍華寺及鐵舟寺一里賃四十五錢、久能山二里三十丁賃一圓自動車往復六圓、静岡からは久能山二里廿六丁自動車五人乘三圓五十錢、馬車六人乘二圓四十錢、賃一圓、龍華寺四里十六丁自動車六圓【静岡(しづま)】一一九哩二 東京から約五時間、



元の駿府で徳川家康退隱の地であつた、今静岡縣廳所在地として人口七萬四千人を有し、竹細工、漆器、製茶の業盛に、又蜜柑、山梨漬、椎茸などの産がある、市内週遊賃半日一圓五十錢一日三圓、自動車市内一時間四圓市外五圓、遊覽者は先づ淺間神社(西北十六丁)に詣で、其後山越機山に登つて市街及附近山河の形勢を見るが好い、自動車二圓、其外市内外で見ればきは物産陳列館西北七丁、家康の學修所のある臨濟寺北廿八丁自動車二圓五十錢、清水公園東北十六丁自動車二圓、吐月峯







山寺四十銭、氣賀四十五銭 【三川】(よたかは) ▼東觀音寺から
 沙見坂へ、岩屋觀音(北五丁)東觀音寺(南一里廿五丁)白須賀の
 沙見坂(南東二里)を巡遊するは一日の散策として興が多い
 【豊橋】(よはし) 一八九哩七 東京から約八時間、豊川の南岸
 に在り、昔は吉田と云ひ松平氏の城市であつ
 た、今人口五萬二千人、第十五師團司令部所
 在地である、旅館岡田屋、小島屋、壺屋
 ▼豊川の奥へ、豊川鐵道は豊橋長篠間一七哩

四分賃金三等四十九銭二等七十四銭、沿線には豊川稻荷、三明寺
 三重塔、祇鹿神社、本宮山、野田城址などあり、長篠の古戦場は長
 篠驛附近に散在して戦蹟探求の興多く、寒狭川の上流には巖石
 の美あり、鳳來寺山は景勝地として避暑地として知らるゝこと
 いならう、長篠から鳳來寺へ二里俵往復四圓 ▼伊良胡神巡り
 伊良胡の景勝は夙に世に知られて居る、豊橋からは渡邊華山の
 故郷田原、横範村野田を経て福江まで九里半の間自動車(賃金
 二圓)の便があり、福江からは岬端まで三里俵で行けるから、
 一夜泊に渥美半島の周遊が出来る譯である、野田の海岸馬草か
 らは近く鳥羽との間に汽船航路を開いて豊橋以東からの伊勢参
 宮の最捷路となつた、馬草鳥羽間汽船賃並一圓上貳圓 【蒲郡】
 (がまごほり) 海水浴地として知らる、旅館常勢館、健碧館 【岡
 崎】(おかざき) 二〇九哩六 岡崎市は驛北三十丁電車賃九銭、家
 康の誕生地として徳川氏勃興の地として名高い、城址、是字寺、
 大林寺、矢矧橋、大樹寺、龍山寺など市内外に點在して居る。旅館
 丸藤、健屋 【刈屋】(かりや) 三河鐵道分岐點

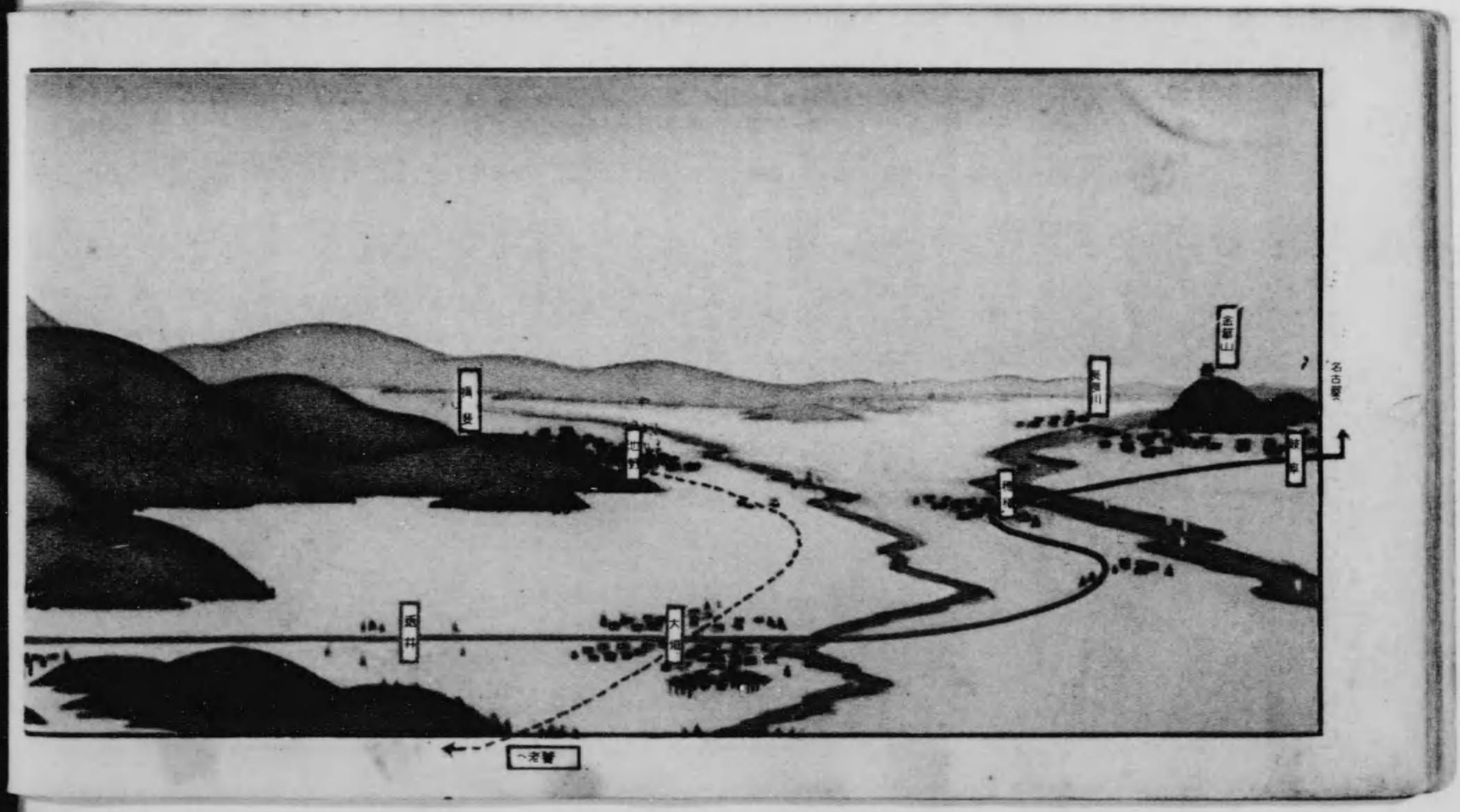


同線は南は大濱港北は舉母に至る、其知立驛
 の近く(五丁)には惡蛇除の御符を出すので
 名高い知立神社や三河三弘法の名ある蓮照院
 (七丁)西福寺(廿丁)密藏院(廿三丁)があり、八ッ橋驛から三
 丁の近くには兼平の故事で名高い舊蹟がある 【大府】(おほふ)



二二哩五 武豊線の分岐點、同線は醜達地として知られた龜
 崎、半田を経て武豊まで行つて居る、武豊は知多灣の埠頭で大
 正七年の貿易額は輸出二十三萬圓、輸入千四百四十萬圓あり、此
 處から半島の南端師崎に至り、篠島、日間賀島、佐久島等の島
 巡りをし、汽船で福江に渡つて伊良胡神へ行かれる 【熱田】
 (あつた) 二二哩四 古の宮で熱田神宮は僅に五丁を距て居
 り、汽車の窓からも其森林が見える、木曾御料林の木材を貯ふ
 白鳥の貯木場も近くにある、名古屋電氣鐵道はこの方面へも延
 びて水族館へ行くのもあり又名古屋港へも行つて居る、愛知電
 鐵は此處を起點として笠寺、鳴海を経て有松島(賃金廿三銭)
 まで行つて居り、桶狭間古戰場が其處から近い、一は古見、新
 舞子、大野、多屋などの海水浴地を経て土器の産地として知らる
 知多半島東岸の常滑町まで行つて居る賃金七十銭 【名古屋】
 (なごや) 二三四哩六 東京から約九時間、中央本線、關西本線
 の接續點、もと徳川氏親藩の城市、殷盛三府に亞ぎ今熱田を併
 せて人口四十三萬人を有して居る。近年名古屋港を築いて開港
 地となり、大正九年の貿易額は、輸出三千四
 百五十萬圓、輸入二千二百三十萬圓に上り、
 名古屋から臨港線を敷設して居る。蓋し畿内
 坂東の中間、尾濃參勢の江山、別に一區實を
 成し、此地は恰も其腹心に當り、全國無比の沃野たる濃尾平野
 の南部に位し、伊勢灘に臨み、木曾川を控へ、東西の交通要衝
 に當つて居るから、物資の集散、商工の隆昌、東京、大阪に亞
 ぐのである。今鐵道は東京から来る東海道本線、中央本線並に
 會して關西本線を岐ち、一は岐阜から近江を經、一は伊勢路を
 經て共に京阪に向ひ、東西三府の中心點となつて居るのである。
 しかも唯交通上に於てのみならず、人情、風俗、經濟等に於て
 も、亦東西勢力の衝突點、中心點で、これから以東は凡て東京
 の影響を被り以西は大阪の影響を受けて居る。曲亭馬琴も嘗て、





點、美濃電氣、岐北輕便の接續點、高山線は長森、那加を経て飛行場として知られた各務原まで八哩二分の間開通して居る。岐阜は尾瀬平野の北偏に位し、飛騨高原を背にして中仙道の要衝を占め、南下すれば東海道に至るべく、稲葉山を貫ひ長良川を帯びて山水秀麗の地である、戦國の時齋藤氏に居り、次で織田氏之に據つたが、關ヶ原役西軍に與みして城遂に廢せられ



た、今人口六萬三千人あり、縮緬、傘、提燈、團扇、金華山焼、紙製ナブキン等を産し、米、美濃織、美濃紙の集散地で、粘粕漬、粘うるか、菓子松風、守口漬等の名産がある、市の遊覽は岐阜公園から金華山、頂上から市及濃尾平野の眺觀が展い、毎年五月から十月にかけては長良川の鵜飼、これは既に世界的の見物となつて居る、鵜舟は一組五艘か七艘、舟毎に篝火を焚き上流の方から漁しながら下つて来る、火光の水に映するさま誠に美觀である、月明を厭ふ爲め上弦の夜は月の入るを待ち、下弦の夜月の出の前に漁り下るし、漁場も上中の三場所交互にやるから、遊覽者は豫め驛か又は旅館料理店などに就て場所と時間を確め遊覽船など依頼するが便利である、驛前から長良川橋畔まで電車が行く、旅館玉井屋、鍾秀館、住吉屋、十八樓、湊館、萬松館、濃陽館 ▼岐阜から飛騨へ、飛騨は山水秀絶の山國、岐阜より高山まで三十四里、自動車賃金十五圓、九時間で行ける、岐阜から關、菅田、金山を経て飛騨に入ると、道は多く益田川の流に沿ひ、中山七里の勝がある、下原から下呂に至る七里の間、清流巖屋の美あり、路は迂回曲折して其間を通じ、山迎へ水送り、宛として一幅の活畫、恰も南宗畫の長卷を展くやうである、小坂に行くとな高い朝六橋の勝景がある、此處から木曾御嶽への登山道があり、木曾路に出づることが出来る、高山は飛騨國の中央位山の北に在り、宮川其中央を貫き、山青く水深く、風光明媚小京都と云つて居る、

城址は今公園として眺望の美あり、東山に登れば日本アルプスの名ある飛騨山脈の連峯を列れて聳立し、矚目甚雄大である、高山からは肥後の五箇、阿波の祖谷と共に、別天地と稱せらるる白川柯を経て中越線の城址に出づるの道もあり、高原川に沿うて越中富山に出づるの道もあり、野多峠を越えて信州松本に出づるの道もある

岐阜市は岐阜縣所在地、縣は美濃、飛騨兩國を管轄して居る、縣の南端は濃尾平野の一部で、木曾、長良、揖斐三大河の運漕する所、土地豊沃木の産多く、岐阜市は其平野の中央に在りて長良川を帯びし、絹織物、提燈、團扇の産あり、長良川は鵜飼を以て、名高く粘の産出が多い、大垣は岐阜の西方にあり、木の集散地となつて居る、平野の北端には美濃紙の産あり、東海地方は關西關東に其の中心は多治見である、縣の北部は飛騨高地にして其中央の小盆地に高山あり、生絲、香露酒、水松細工を産し、其北方に神岡嶺山あり、鐵、鉛、亞鉛礦を出して居る

粘の主要産地 (大正八年)

岐阜	四二八、六二九圓	金	買	三二七、二〇七圓
熊本	二二七、八二三圓	金	買	三、一七二、九六六圓
粘の主要産地				(大正八年)
岐阜	七四二、二九八圓	金	買	三四〇、九七三圓
宮城	二七二、一三八圓	金	買	一、五九二、四八三圓

【大垣】(大垣) 二六二哩一 東京から約十時間、戸田氏の舊城市で人口二萬八千人近年市となつた、巨鹿城址は驛南四丁、關ヶ原役の時三成が諸將と軍議を凝らした處、今は公園となつて居る。旅館玉屋、安田屋、新玉屋、大垣から美濃赤坂



への短支線あり、赤坂の近くには關ヶ原役に於ける家康の陣地勝山や石灰や大理石の出づる山がある ▼谷汲と養老瀧、養老鐵道は大垣から北は樺蓼まで(賃金卅六錢)南は養老を経て桑名(賃金一圓八錢)に行つて關西本線に接して居る。大垣から北には春は池野から行く霞間谷の櫻、夏は房島の梁の粘流の樂があり、樺蓼から北三里一山越えると西國三十三番の札所満願たる谷汲山の華嚴寺があり、これらの遊覽をかねて養老公園に一泊桑名に出るは一夜泊りの旅行として面白い、養老には櫻楓の美あり、養老寺、養老神社、菊水の靈泉、養老の瀑あり、瀧壺

は平盤で水深数寸、婦人子供も水浴することが出来る、養老驛から公園内まで自動車上り五十銭下り四十銭貸切三圓五十銭俵上り廿五銭下り廿銭、旅館掘水、村上、藤川、〔關ヶ原〕(せきがはら) 驛附近東西一里南北十四丁に亘る一帯の高原は關ヶ原で本線中最史的同順に富む處、地形依然東西兩軍攻守の勢宛として指顧せらるゝのである、當時の陣所には皆木柵を建て、ある關ヶ原戦蹟の探求、これも興多き旅行である、〔近江長岡〕(おんがのなが) 夏期登山者多く冬はスキー練習場として賑ふ、〔米原〕(まいばら) 二八四哩四北陸本線の分岐點〔彦根〕(ひこね) 二八八哩一井伊氏の舊城下、西は太湖に臨み北に嘉湖を湛へ、水陸形勝の地である、舊城址は西北九丁俵廿三銭、三層の天守閣あり、旅館樂々園、八景亭、米文、▼多賀から水源寺へ、彦根からは近江鐵道が岐れて高宮を経て、實生川に行つて草津線に接して居り、高宮から多賀への支線がある、其多賀神社に詣で、更に八日市から三里半(自動車賃四圓九十銭、俵二圓五十銭)紅葉の勝地として知られた水源寺に詣で、草津線に出るは面白い一日旅行である

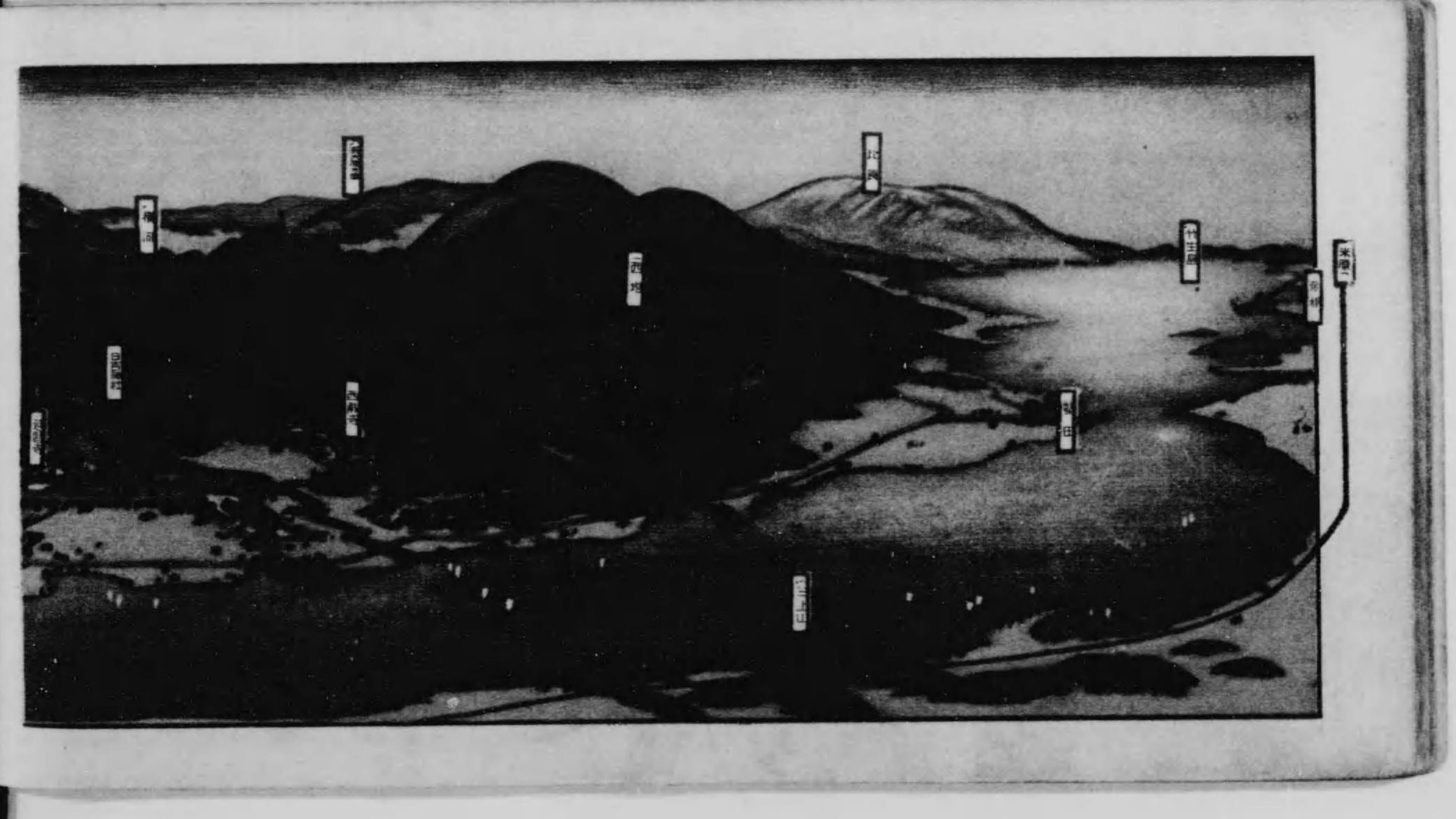
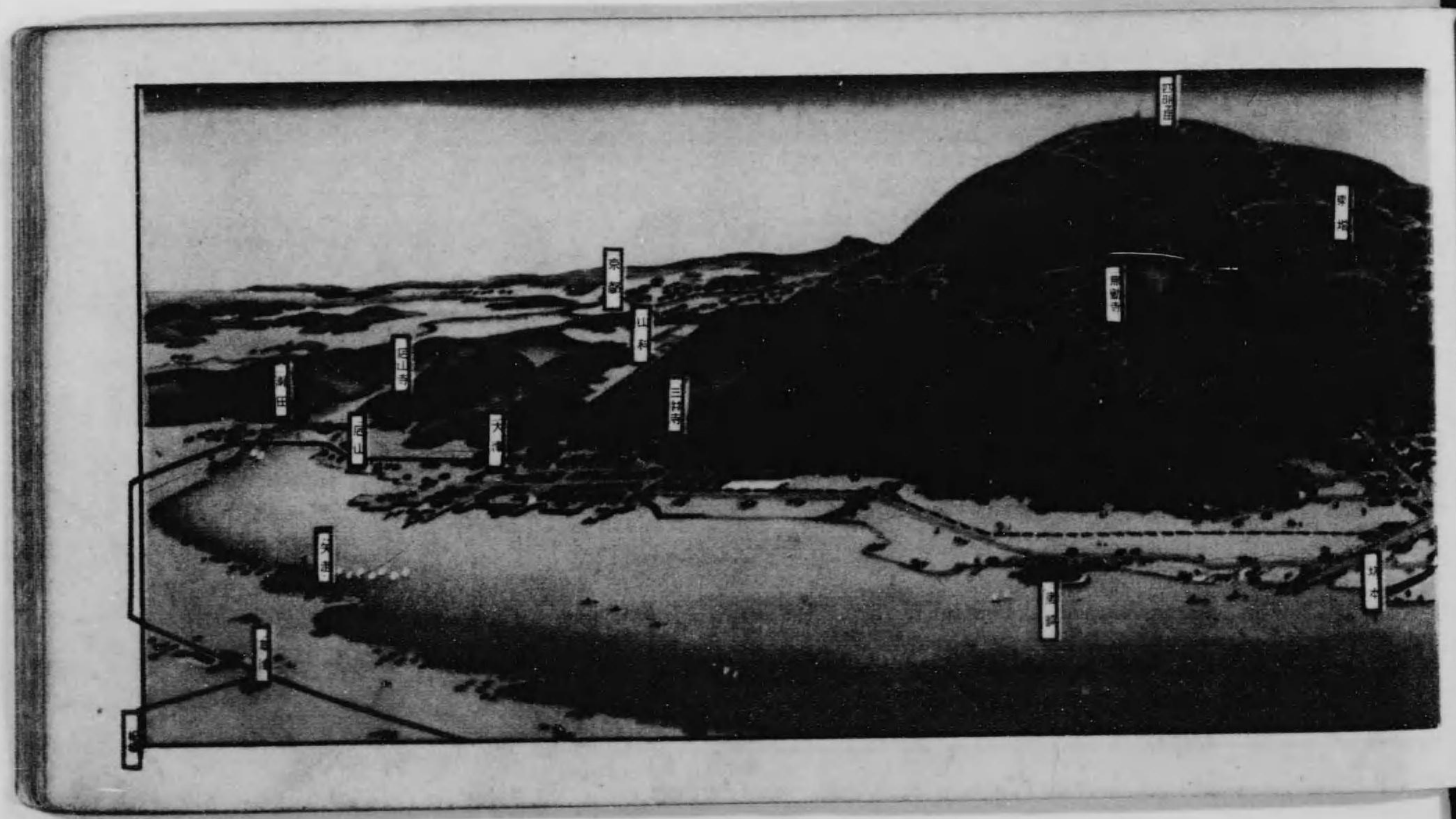
【安土】(あづま) ▼安土城址と長命寺、信長の安土城址は北十三丁俵廿銭、信長父子の像を安置した總見寺あり、其山門と三重塔は特別保護建造物となつて居る、山頂には信長の本廟があり、琵琶湖畔一帯の山水の眺望が好い、城址を下りて更に觀音寺山(東廿五丁)から櫻の名所老蘇の森(南一里十丁俵賃五十銭)を經、八幡町から奥島の長命寺(八幡驛から二里十丁俵往復一圓五十銭)に行くは一日旅行に適當である、〔草津〕(くさつ) 東海中山兩街道の追分で今は草津線此處から南柘植に行つて居る、〔大津〕(おほつ) 三二〇哩三 東京から約十二時間、大津電車の接續點、京津電車は札の辻から京の三條大橋まで行つて居る。市は琵琶湖の西南岸に位し、長良山の麓に在り、今人口



四萬三千人を有し名産鮎、湖魚鮎煮、長等漬がある。遊覽者は先づ驛から西九丁を隔てた三井寺に登つて湖畔一帯の景勝を俯瞰し、夫から汽船によつて諸名勝を巡遊するが好い、旅館大津、竹清樓、八景館、紅葉館、石山御屋、三日月樓、坂本竹喜、松井

▼湖南巡遊、紺ヶ關から出る湖南汽船により、唐崎、阪本に至り、引返して三井寺下、紺ヶ關、石場、膳所、粟津、瀬田を經て石山に至る、石山寺參詣の後は電車にて石山驛が大津驛に出るが好い、週遊賃金四十五銭、別に京都、大阪、三ノ宮、神戸、兵庫驛から湖南巡遊及石山大津週遊連絡乗車船切符を發賣して居る、▼島巡り、四月から十月まで、一日十五日土曜日曜大祭祝日に大湖汽船の遊覽船白石丸運航、午前九時半發唐崎、堅田、和邇を經、小松にて白鬚神社を拜し、竹生島に詣で、同島及多景島を一週、奥島長命寺參拜の午後七時大津歸着、賃金三十一圓五十五銭二等二圓四十銭一等參圓貳拾銭、別に京都大阪三ノ宮神戸兵庫の五驛から汽車電車汽船連絡切符を發賣して居る、▼竹生島詣、午前七時發の普通便か午前十時の急行船によるとやはり其日歸りが出来る、急行は堅田、和邇、小松、大津、今津を經て竹生島に至り同航路を歸り午後七時四十分大津着、賃金普通三等一圓六十四銭二等二圓四十銭、急行便は二割増、彦根又は長濱からの竹生島詣は、島に於ける時間が少ない爲め寺院に一泊するか大津行汽船によるが好い、彦根から竹生島へ三等六十五銭二等九十八銭、長濱から三等四十六銭二等七十銭

▼比叡登山、比叡へ登るには各方面からの道があるが、大津からは坂本口、京都からは白河越が好く、往返道を變へたら更に面白からう、四月から十一月まで大阪三ノ宮神戸兵庫から比叡登山週遊乗車船切符を發賣する、大津驛下車紺ヶ關まで電車、其處から汽船で坂本へ行き、延暦寺假本坊、觀佛堂、日吉神社參詣、五十二段坂、栗坂の隙を經、栗の宿から文殊樓に行くもやがて東塔の境内で順興西塔横河の諸堂を應拜するのである、



坂本から文珠樓まで二十五丁。京都からは出町で電車を下り、橋を渡つて白川村の東端に出ると、大辨財天道是より六十八丁と刻した木標がある、十八丁目で琵琶湖を見、七曲りの坂を運んで辨天祠に達し、無動寺を経て東塔の境内に入る。坂本から山駕籠根本中堂まで二圓八十錢往復三圓五十錢、三塔巡り三圓往復六圓、横河まで四圓往復五圓五十錢、四明ヶ嶽まで三圓五十錢往復五圓、他に腰標は駕籠料半額の十分の六、案内者は同十分の四

大津市は近江國所在地、湖は近江國を管轄して居る、湖は四境山に圍まれた一大盆地で、盆地の中央に琵琶の湖あり、湖野山水の勝を以て聞えて居る。湖の東南岸は木の産多く、北岸は粟津産に、長狭は稲穂の集散地をなし、南岸は麻織物の産全園に冠絶し、其中心は日野、八幡である。湖水は南端より流れて多摩川となり、又別に磯水を京都市に通じて居る

機織製帆布の主要産地	(大正八年)
兵庫	二、七八七、九四二圓
北海道	八、八四、一九〇圓
全道	六、六〇五、一三一圓
大阪	二、五、八八八圓
阪織物及其支織物の主要産地	(大正八年)
石川	二、二一九、一八六圓
富山	一、八七一、五一八圓
全道	二、三〇七、七四二圓
京都	(大正八年)
京井	八、八七、二〇三圓
阪織物製織地の主要産地	(大正八年)
富山	三、四七〇、〇八三圓
全道	三、四七〇、〇八三圓
滋賀の主要産地	(大正八年)
長野	一、二九四、七四〇圓
長野	六、六一〇、五一圓
全道	七、四六七、九六一圓
新潟	四、九一二、五二圓
全道	七、四六七、九六一圓



【京都】(きょうと) 三三二六哩四 東京から約十二時間半、京都は古の平安京で、鴨川の清流に跨り、京都平野の北に在り、街衢整然として碁盤の目の如く大路七條東西に通じ、其三條通以北を上京、以南を下京と分ち、人口五十九萬一千人を有して居る、市の繁華區は三條通、四條通、祇園町附近である、鐵道は本線の外山陰本線の起點で、奈良線も亦こゝより南に走つて居る。驛は近時の建築に成り、全國有数の大停車場である。市内は近時道路を擴張し、市内外に至る電車を敷設したから、面目を一新した。電車は市營の嵐山電車、京津電氣、京阪電車もある。自動車は時間貸一時間五人乗五圓、六人乗六圓、外にタクシー自動車あり

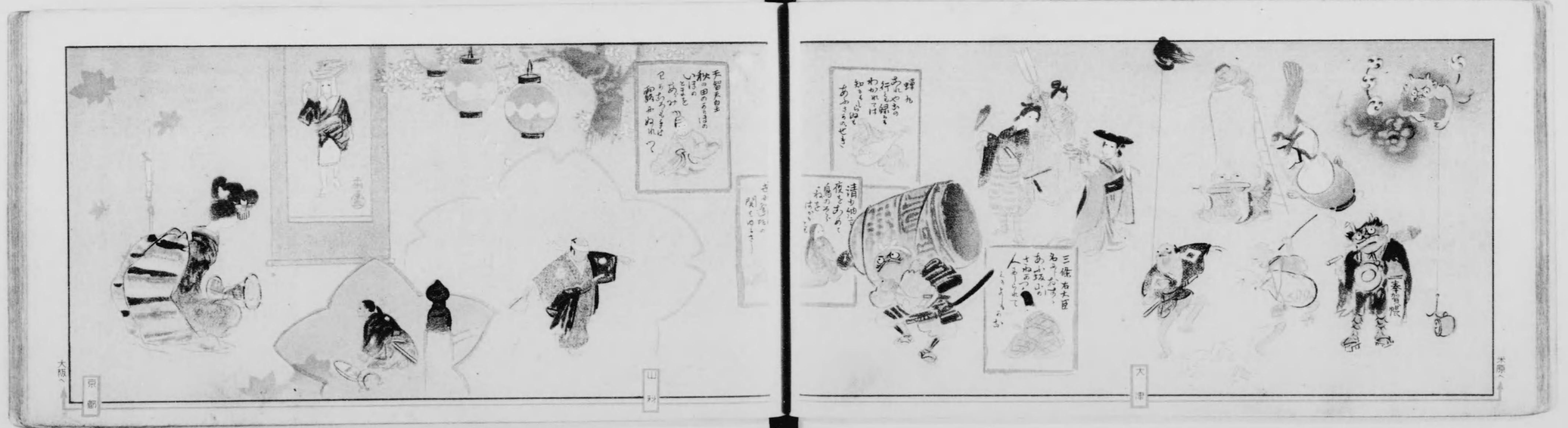
京都は實に自然の上に於て優越なる地勢を占めて居る。即ち東に加茂川西に桂川あり、南は京都平野で、北は所謂北山一帯の山嶺を貫ひ、東は三十六峰眠るが如き東山が連り、西は嵐山天王山の山峰を繞らし、南は巨塚池宇治川を隔て、奈良丘陵あり、山村襟帯自然の城の名に背かない、桓武天皇の延暦奠都以來一千百餘年の帝都となつたのも理由あることである。されば市の内外は古蹟名勝に富むこと海内第一で、然も風俗は優雅、山水は秀麗、東山の艶西山の翠、鴨川の清大堰川の奇、一容一態其趣を變へて人を厭かじめず、淹留旬日尙戀々として歸るを忘れしむるのである。産物は美術工藝品多く、其製品は織物を第一とし特に西陣織は精巧細麗を以て聞えて居る。其他友禪染刺繡、陶磁器、漆器、銅器、扇子等、其製作の優美高尚なる恐らくは海内無双と云ふべく、京羅、京紅、京白粉、京鹿子等亦世に知られ、聖護院八ッ橋、さざしらす、五色豆、すばま、祇園香煎、千枚漬等の名物もある、府廳下立賣新町、市役所御池寺町、十六師團司令部深草、京都帝國大學第三高等學校高等工藝學校吉田町、旅館市内都ホテル、京都ホテル、也阿彌ホテル、東洋亭、澤文、終屋、倭家、松吉、中村樓、晴鴨樓、千切家、近太

市の遊覽には普通東山方面一日、西山方面一日ですむ、しかし夫はほんの通り一邊の見物で、詳しく寶物を見建築を研究し史蹟を探るには五日や七日でも尙不足である、が今は只普通の遊覽徑路を示すに止める、其神社佛閣等の説明も亦省略することとする ▼東山から北山方面遊覽順路、東西本願寺―博物館―豐國神社―大佛―三十三間堂―智積院―妙法院―西大谷―清水―高臺寺―八坂の塔―東大谷―圓山公園―八坂神社―知恩院―動物園―平安神宮―インクライン―南禪寺―永觀堂―若王子

露光量違いの為重複撮影

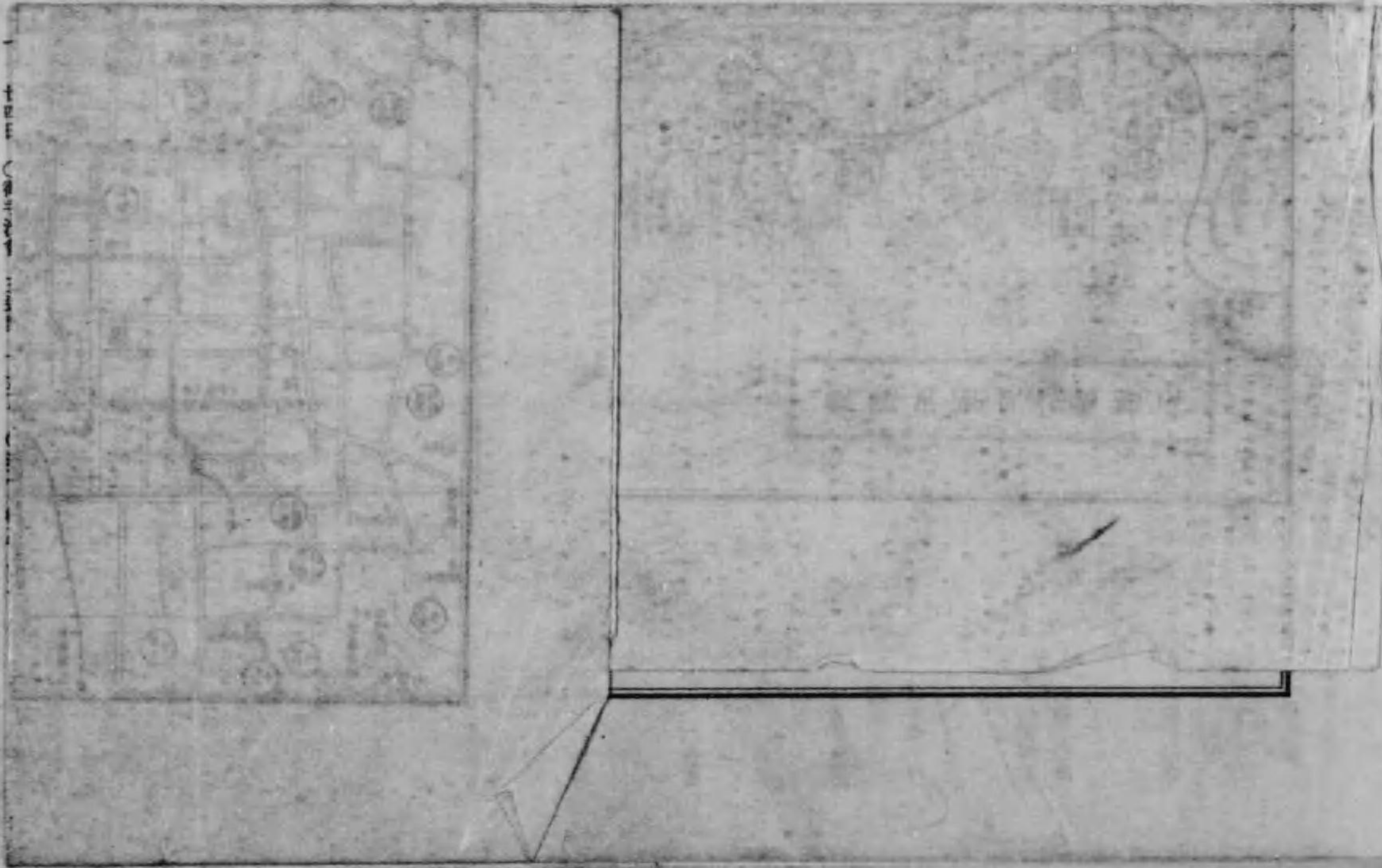


露光量違いの為重複撮影



黒谷—眞如堂—吉田神社—法然院—銀閣寺—百万遍—下加茂
 —上加茂—相國寺—御所—新京極—六角堂、以上巡遊傳賃三圓
 普通六七時間を要す ▼西山方面遊覽順路、東寺—鳥原—壬生
 —北野神社—平野神社—金閣寺—建勳神社—大徳寺—等持院—
 仁和寺—妙心寺—天龍寺—嵐山—虚空蔵—釋迦堂—松尾神社—
 四芳寺—梅宮—廣隆寺—二條離宮、以上傳賃三圓五十錢普通七
 八時間を要す ▼保津川下り、龜岡驛下車保津川遊船で、嵐山
 まで四里の間を一時半で下る、この舟遊は初夏新緑の候躑躅
 花咲く頃が好い、遊船一等六人乗十八圓、二等十人乗十七圓、
 嵐山旅館、嵐峽館、三友樓、筆茂樓 ▼三尾の紅葉、愛宕山の
 東麓清瀧川の曲流する處、高雄には神護寺、榊尾には高山寺、
 榊尾には西明寺があり、紅葉の勝地として知られて居る、京都
 からは四里、自動車往復約二時間、傳賃三圓、嵯峨からは長刀
 坂を越えて徒歩約一時間半 ▼八瀬大原へ、山端から比叡の西
 麓を進んで大原女の里なる八瀬大原に行くと寂光院、三千院
 寺の名刹あり、建禮門院や後鳥羽順徳兩院の昔偲ばる、址が
 多い、京都から五里自動車往復二時間半、出町橋から傳往復四
 圓 ▼桃山から宇治方面へ、桃山御陵参拜をかねて乃木神社や
 萬福寺、宇治の平等院、興聖寺、縣神社其他を見るは京都から
 一日の遊覽區域で、奈良線の汽車によつても好し、電車や自動
 車によつても好い、宇治旅館菊屋、花屋敷 ▼長岡の古都址方
 面、京都の次驛向日町附近は桓武天皇の一度都を置かれた長岡
 の古都址で、長岡天満宮、大原野神社、粟生光明寺、善峰寺な
 どあり、京都から一日の遊覽區域である ▼石清水から山崎方
 面、山崎驛附近には天王山、妙喜庵、櫻井の里、水無瀬宮、石
 清水八幡宮などあり、山崎驛を起點として巡遊するか、桃山御
 陵参拜の上京阪電車で八幡へ行き、歸途山崎驛に出るか、京都
 からの一日遊覽區域である

京都及附近遊覽曆



京都、廿五日、東山各寺

圖略近附見伏及都京



一 黒谷—真如堂—吉田神社—法然院—銀閣寺—百万遍—下加茂
—上加茂—相國寺—御所—新京極—六角堂、以上歴任車馬三員



一 月
○三弘法巡り、三日、東寺、御堂、西賀茂 ○東寺の修法、八日 ○本願寺願寺報
恩講、九日より一週間 ○十日、興、建仁寺町経子社 ○武村神事、十四日、下鴨
○夜餘詣、十五日より五日間、八幡 ○弘法詣、二十一日、以下毎月 ○北野詣、
二十五日、以下毎月 ○初詣詣、千支日、鞍馬

二 月
○火焚、十五日、嵯峨清涼寺 ○利休忌、二十八日、千家 ○初卯詣、八幡 ○夜
神齋、節分、吉田神社 ○初午詣、稻荷 ○二ノ午詣、稻荷

三 月
○大原野祭、八日 ○梅花、長岡、御苑内、六波羅、北野、伏見山、青谷 ○柳
鴨漕 ○桃花、長池 ○横、椿寺 ○温泉會、十五日、東福寺、清涼寺 ○粟刈御
供、廿五日、北野

四 月
○松尾祭、二日 ○平野祭、二日 ○梅宮祭、三日 ○護王祭、四日 ○忍藤、四
週間、祇園新地 ○灌佛會、八日、大報恩寺、清涼寺 ○花摘、八日、叡山 ○今
宮のヤサヒ祭、十日 ○櫻花、圓山公園、東山、清水、嵐山、隱岐、御堂、大原、
平野 ○菜花、近郊一帯 ○梨木神社祭、十五日 ○探取、大原野、御堂山、上加
茂 ○吉田祭、十八日 ○御忌、十九日、知恩院、黒谷、百萬遍、淨蓮院 ○御影
供、二十一日、東寺 ○壬生狂言、二十一日、壬生寺 ○太夫の道中、二十一日、
鳥原 ○建勳神社祭、廿四日 ○鴨川詣、先斗町 ○山吹、玉水、鳥羽寺 ○白鷺
出町 ○牡丹、萬花園 ○稻荷祭、千支日

五 月
○競馬足決、一日、上賀茂 ○松尾祭、二日 ○鷺鷥つゝ、長岡、梅の宮、青蓮
院 ○賽馬、公園、御苑内、安井金比羅、清水寺、花の屋、宇治平等院 ○杜鵑、
清涼寺、小倉山、西加茂、白河 ○今宮神社祭、五日 ○伏見御香宮祭、五日 ○
茶摘、十一日、宇治 ○藤、保津川 ○日吉祭、十四日 ○大供養、十四日、東寺
○要祭、十五日、加茂 ○今宮祭、十五日 ○稚子花、三十三間堂、梅の宮、平
野、東寺 ○芍薬、萬花園、花の屋 ○杜鵑花、嵐山、保津川

六 月
○賞船祭、一日 ○水鷄、詩仙堂、安光院、長岡、鳥羽、巨椋池、廣澤池、山崎
○賽馬、五日、上加茂 ○雛祭、五日、宇治 ○竹切、八日、鞍馬 ○蠶、宇治、
渡月橋、保津川 ○河鹿、清涼、嵐山、貴船、八瀬、大原、宇治 ○花寫眞、西加
茂、西方寺、平野瀬の家、梅の宮、鳥原御金神社 ○播磨、近郊 ○丈山忌、二十
三日、詩仙堂 ○天滿宮祭、廿五日 ○梨木神社祭、二十五日

七 月
○建勳祭、一日 ○水無月能、一日、上加茂 ○御田詔、二日、松原神社 ○祇園
會山鉾會、十六日 ○納涼、鴨河、嵐山、糺森 ○八坂私祭山鉾行、十七日、
廿四日 ○御手洗會、三週間、下加茂 ○蓮花、御苑、東寺、相國寺、西大寺、神
泉苑 ○蟲掃、廿五日、東山各寺

○朝顔、宇治朝顔 ○香水漬、六日、大原 ○石越崎、七日、下加茂 ○千日詣
九日、清水寺 ○精進寺、十日、六波羅珍身寺、千本頭關原堂 ○大文字、十六日
如意岳 ○送り火、十六日、西山所々 ○六地藏巡り、廿三日 ○曇降り、廿八日、
清水

九 月
○八朔詣、一日、神樂池 ○男山登、十五日 ○大慈山縁日、十七日 ○萩、萬葉
寺、大佛、平安神宮別、平野、南禅寺 ○豊國祭、十八日 ○瀧米紅、萬花園
○日蓮祭、廿一日 ○安井祭、廿一日

十 月
○嵯峨、嵯峨野 ○北野私祭、四日 ○梨木祭、十日 ○十夜念佛、十日、誓願寺
其他 ○大保土祭、十一日 ○牛祭、十二日 太秦廣隆寺 ○招魂祭、十五日、鹽
○栗山、田祭、十五日 ○豊國私祭、十八日 ○松茸狩、附近の山々 ○廿日湯子
籠に寺町遊子紅 ○曾文拂、廿日 ○時代祭、廿二日、平安神宮 ○火祭、廿二日
駿馬 ○越月、市内外近郊

十一月
○朝顔、一日、今宮 ○神成祭、三日、二條通 ○菊花、天泉寺、平野家、平野家
の家、花の家 ○八夜祭、八日、伏見稻荷其他 ○紅葉、若王子、清水寺、永観堂
眞知堂、通天橋、嵐山、貴船、長岡、高嵯、横尾、大原 ○十夜念佛、十五
日、眞知堂 ○火祭祭、十五日、今宮其他 ○火祭祭、十八日、上下御霊社 ○御
忌、十八日、小松谷正林寺 ○報恩講、二十一日より一週間、大谷波、本願寺、佛
光寺、眞正寺

十二月
○大交過、一日、北野 ○大横渡、九日、陰曆 ○千鳥籠、鴨渡 ○有願忌、十二
日、有願齋 ○願齋、園山福樓其他 ○をけち詣、三十一日、八阪神社

京都市は京都府府所在地、府は山城、丹波兩河川丹波湖の大部を管轄して居
る。府の東海は山部盆地、盆地を圍んで比叡、鞍馬、愛宕の山嶺あり、宇治川、
木津川、桂川、段に相留して淀川となり、西境の山嶺を越りて大阪平野に出て居
る。京都市はこの平野の中に在り、京都御所、二條御所等の宮殿を始め社寺を
多く、又京都帝國大學、帝國博物館あり、美術工藝並に西洋醫學、友誼、判例の
類より清水學、粟田學、漆器、調器の如き名産品に内外に聞えて居る。宇治附近
は茶の生産地、特に玉露製の家が世に名高い。府の西北は丹波山地、由良川其
間を流れ、海津には海軍海軍官洋海軍あり、官津の北に天の橋立の名勝がある

玉露の主要産地 (大正八年)
京都 六八七、七九八圓
三重 二八、九八三圓
富山 一八〇七二圓
京都 五八、一五三、六九八圓
群馬 一〇、四五四、八四六圓
群馬 一、八一三、一九九圓
富山 一三八〇、七六四圓
新潟 八七、七九四圓
京都 四六六、四九九圓

絹織物女帯類の主要産地 (大正八年)
京都 九三、一四三圓
京都 一七、五八六、三三三圓
京都 四七、二二、三三三圓
京都 二二、一〇、九三三圓
京都 一四、五二、七六八圓
京都 一五、四二、八四〇圓
京都 三二、七、五九八圓
京都 八、八、八七五圓
京都 二七、〇、二九九圓
京都 二二、八、八七九圓
京都 六、一七九、九七九圓
京都 五、五〇、一七六圓
京都 八、五、八三二圓
京都 二、八、九四六圓
京都 一〇、六、五九三圓
京都 九、五、三、八二六圓
京都 四、一、八、七五圓
京都 三、九、六、九四八圓

【吹田】(すゐた) 驛前大日本麥酒吹田工場あり、醸造力一年十八
萬石に及ぶ



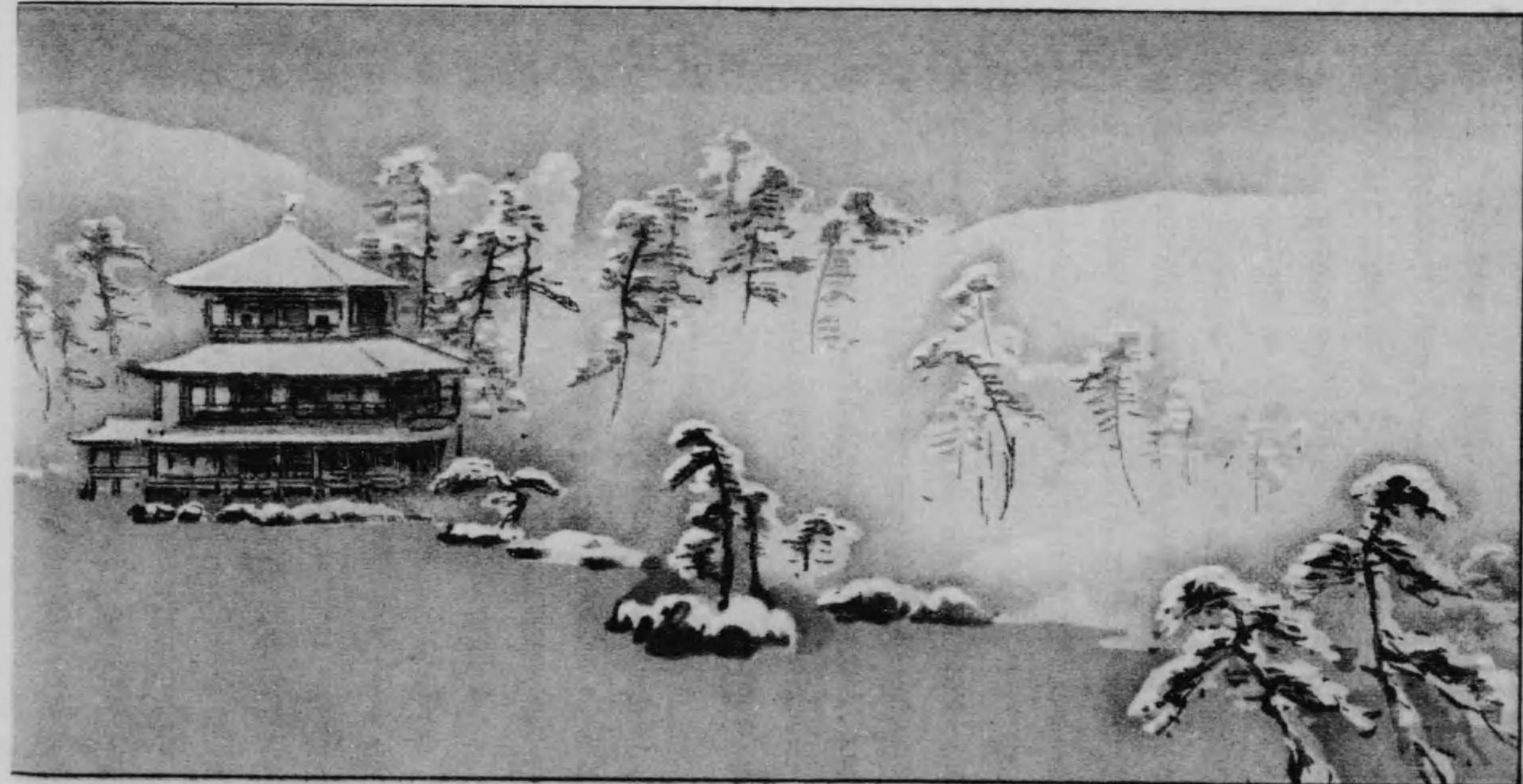
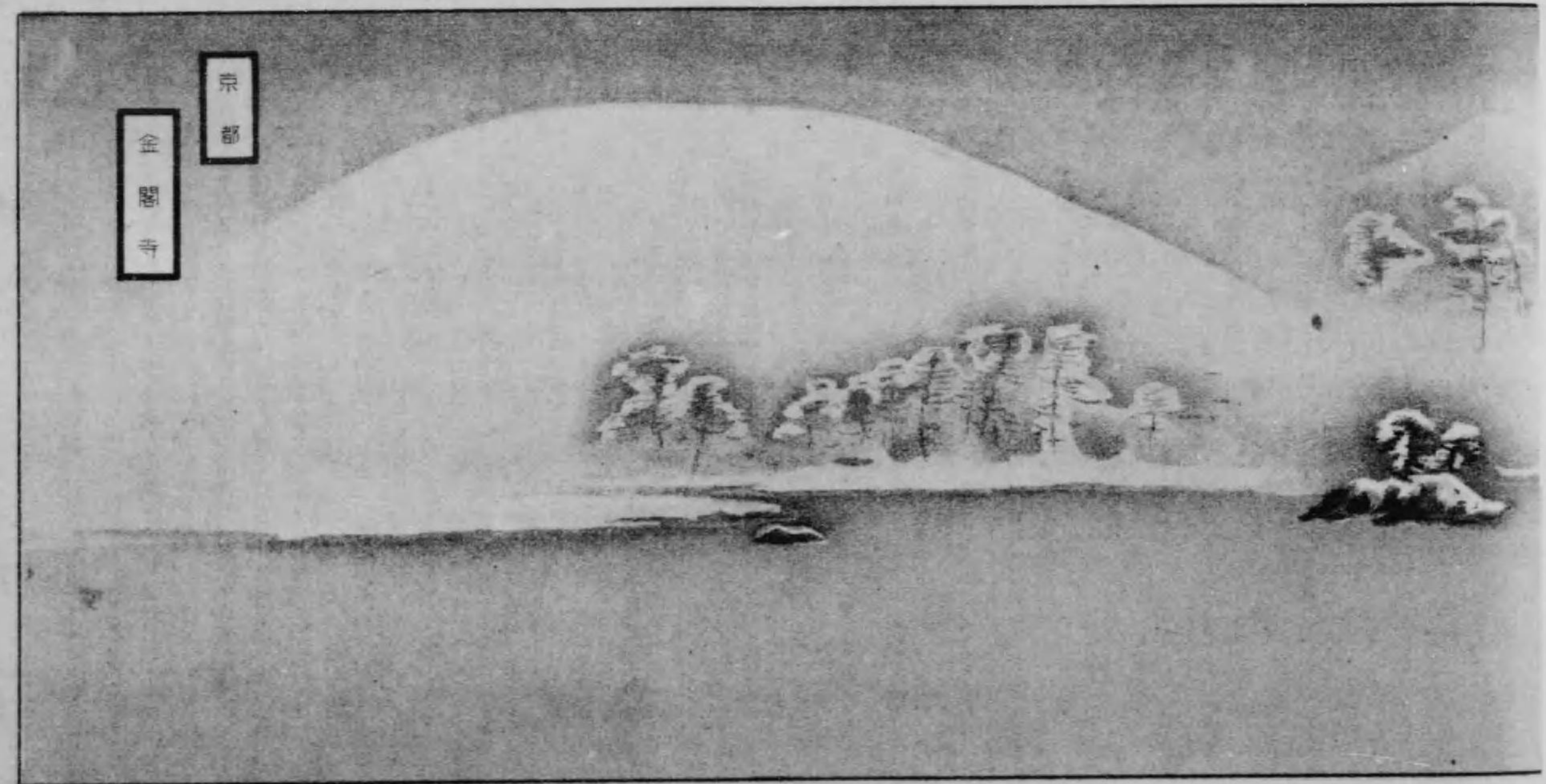
【大阪】(おほさか) 三三五哩二、東京から約十三時間半、大阪は今人
口百二十五萬人を有し、本邦第二の都府、海
内無雙の商業地として市街の繁盛商機の活
潑、首府東京にも優るかと思はれる。旅客一
度大阪市に足を入れると家屋の構造市街の區
劃、道路の布置、市民の風俗また全く一種の商業的趣味を帯ぶ
るを發見するであらう。地勢は概して平坦であるが、東部一
帯は稍隆起して、低き丘陵性の臺地を爲して居る。市域東西二
里十九町、南北二里廿四町、面積三方里七九〇東西南北の四區
九百十三町に分れて居る。古來、安治川以北を天滿、堀川以北を
北の新地と云ひ、中央部を船場、島の内と稱し、南部は難波新
地と云ひ、西部には堀江、立賣堀、阿波座あり、其最繁華なる
は船場、島の内で淀屋橋通、心齋橋通、特に繁昌を極めて居る。

船場には銀行問屋多く市の金融市場を爲し、堂島中の島には官
衙多く、京町堀附近には幕府時代に於ける大阪風の繁華が尙殘

つて居る。仁徳天皇の高津宮の古は云はずもがな、豊臣秀吉が
 柱に城を築いて天下に號令し、又天下富豪の商人を集めてから
 頓に繁華となり、豊臣氏の亡んだ後も尙全國商業の中心地とな
 り各藩の物産交換の大市場として此地の物價の一高一低は直に
 全國に波及したのである。王政維新の後も關西の經濟界商業界
 は全く本市によりて左右せられ、其海外貿易類も大正七年の貿
 易額輸出四億六百萬圓、輸入一億三千八百萬圓、輸出は全國總額
 の二割一分輸入は八分を占めて居る、工業の盛なること我邦第
 一で、工業會社諸工場多く、煙突より吐く煤煙は全市を罩めて
 煙の都と稱せられて居る。中に最盛なるは紡績事業で、織造製
 造、硫酸製造、造船業、硝子製造等之に次ぎ、殆ど皆機械的工
 業であつて、京都の手藝的なものと趣を異にして居る。それで其
 産物も工藝品最多く、綿絲、綿織物、燐寸、莫大小、玻璃等を
 産し、造船業、鐵工業盛に、名産には粟おこし、昆布などがあ
 る。市内電車賃片道七錢、往復十三錢、別に大阪電氣、阪神電
 車、京阪電車等あり。大阪、湊町、天王寺驛構内にはタクシー
 自動車あり、四人乗又は五人乗で、賃金は最初の四分の三哩迄
 金六十錢、以上八分の三哩迄を増す毎に金十錢である。市の重
 なる官公衙は大阪府廳、市役所、造幣局、第四師團司令部、砲
 兵工廠、兵器支廠、控訴院、大阪税關、遞信局、學校には大阪
 醫科大學、高等工業學校、高等商業學校、銀行には日本銀行、
 第一銀行、正金銀行、三井銀行各支店、鴻池銀行、住友銀行、
 農工銀行、加島銀行、會社には三菱合資支店、日本生命保險、
 日本麥酒、三井物産支店、内國通運支店、三越吳服店支店、大
 阪電氣、日本黨業、大阪黨業、宇治川電氣、汽車製造、日本興
 業、日本棉花、久原鑛業會社等あり、工場には大阪鐵工所、住
 友伸銅所、住友鑄鋼所、島田硝子製造場、毛斯紡織工場など
 がある
 市内には淀川、木津川をはじめ大小の河川四通八達して舟楫

の便を備へ、南には攝津灣を控へて海陸運輸交通の便が宜い、其
 煙の都たるは即ち水の都たるが爲で、水の都たるはやがて又橋
 の都たる所以である。東西南北に流る、川々の數は四十五條、
 之に架した大阪名物の橋梁は、大小併せて五百に近く、俗に八
 百八橋と云つて居る。其水の都の大阪は、更に蜘蛛の巣の如く
 敷設せられた鐵道に因りて、一入の利便が加はつた、梅田の大
 阪驛を経て神戸に至る東海道線を初として、淡路驛から奈良名
 古屋に通ずる關西本線あり、片町から木津に至る片町線あり、
 神崎から北福知山に至りて山陰本線に接續する福知山線あり、
 梅田を發して市の東部を一周する城東線あり、梅田より櫻島に
 至る西成線あり、其他南海鐵道あり、大阪高野鐵道あり、京阪
 電車、阪神電車、阪神急行、大阪電氣など、線路交叉複雑して、
 旅客に行く手を惑はせることが多い

市内には見るべきは淀君の墓のある大融寺東七丁、夏祭で名
 高い天満天神宮東十九丁、天神橋東南十九丁、天満橋東南廿五丁
 花の時は一般の觀覽を許す造幣局の櫻東廿七丁、豊臣氏の豪華
 を偲ぶべき大阪城址東南一里三丁、市中第一の大社生國魂神社
 東南一里十四丁、高津神社南東一里十二丁、荒陵山四天王寺
 天王寺公園、並一心寺、新世界、東南一里廿四丁、諸興行物で
 賑ふ千日前、浪花座、中座、角座、朝日座、辨天座の河竹五座
 を有する享樂境道頓堀南一里四丁、吳服店軒を列ぬる心齋橋筋
 南三十丁、東本願寺の別院南御堂、並座摩神社南二十六丁、西
 本願寺の別院北御堂南十八丁、文樂座を境内に有する御靈神社
 南十七丁、米穀取引所のある堂島南七丁、株式取引所のある北
 濱南半里、築港西南二里九丁、天保山西南二里十三丁、以上多
 くは電車線路に沿つて居るから、電車を利用して見物しても好
 いが、自動車なら約二時間あまりで一巡され、俾なら築港天保
 山を電車に頼り其他巡遊約五時間賃金一圓八十錢である。旅館
 花屋、大阪ホテル、自由亭、佐々木、金森、花房、紫雲樓、紅



葉館、金龍館、東雲館、小西

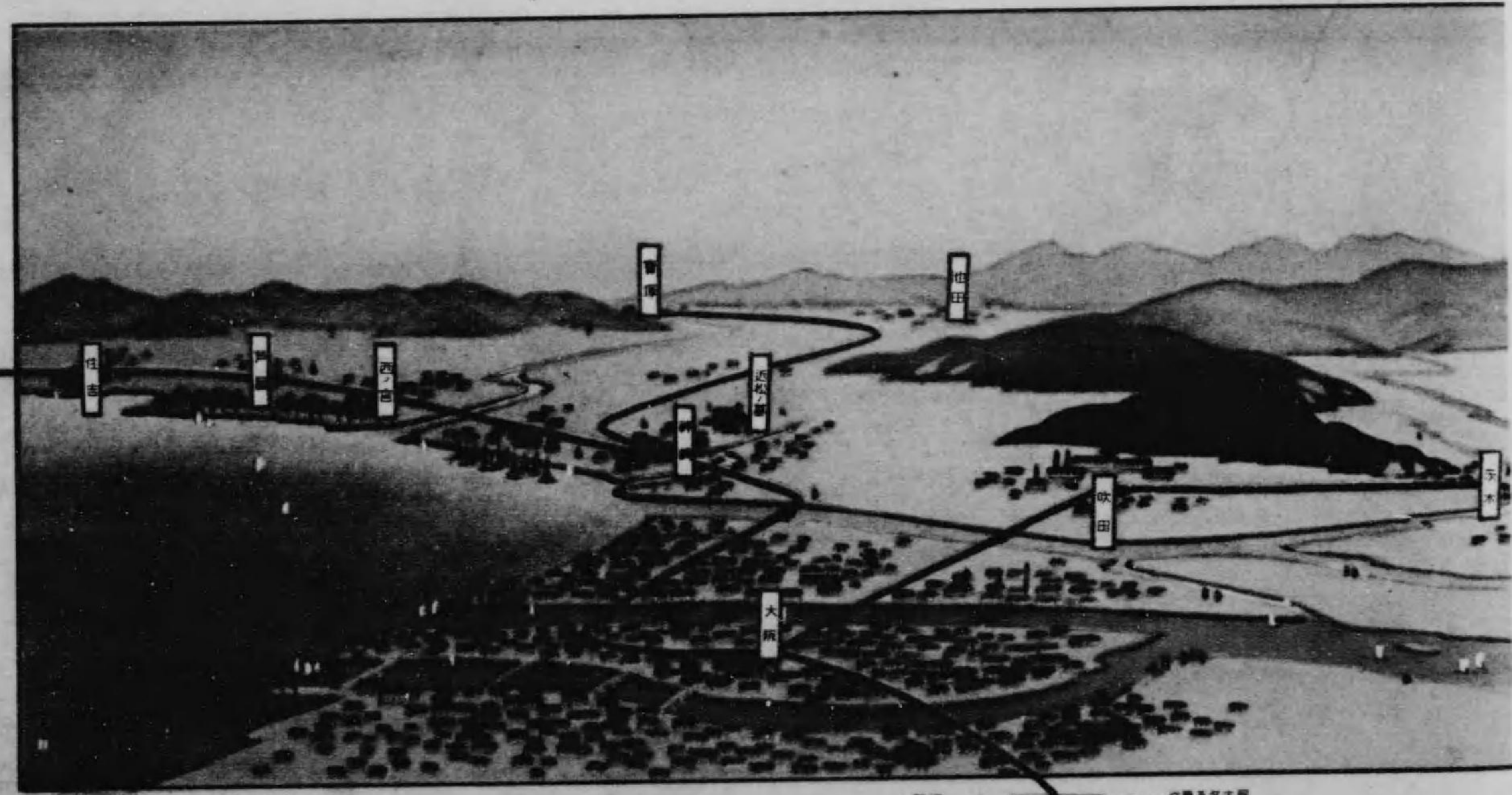
大阪市は大阪府廳所在地、府は和泉河内兩國及攝津國の一部を管轄して居る。東は金剛山脈、南は和泉山脈あり、北は丹波山脈に接し、西は大阪灣に面して淀川大和川之に注ぎ、其沿岸の平野は木、菜種、綿の産が多い。大阪市は大阪灣に臨み淀川の三角洲に位し、古來の大商埠市である。市の内外には綿織紡績を始め各種の工場多く、金剛製菓、其大小、綿織物、毛織物、玻璃、機械類、皮革、織物、製菓等の製造工業が盛んで、砲兵工廠、造幣局も亦此地に置かれて居る。堺は大和川の河口に近く、段道、陶器を産し、泉州地方は鹽五穀が盛である。

Table with 4 columns: 大阪府 (Osaka Prefecture), 和歌山県 (Wakayama Prefecture), 奈良県 (Nara Prefecture), 三重県 (Mie Prefecture). Rows list various products like cotton, silk, and their production values for different years (e.g., 大正八年).

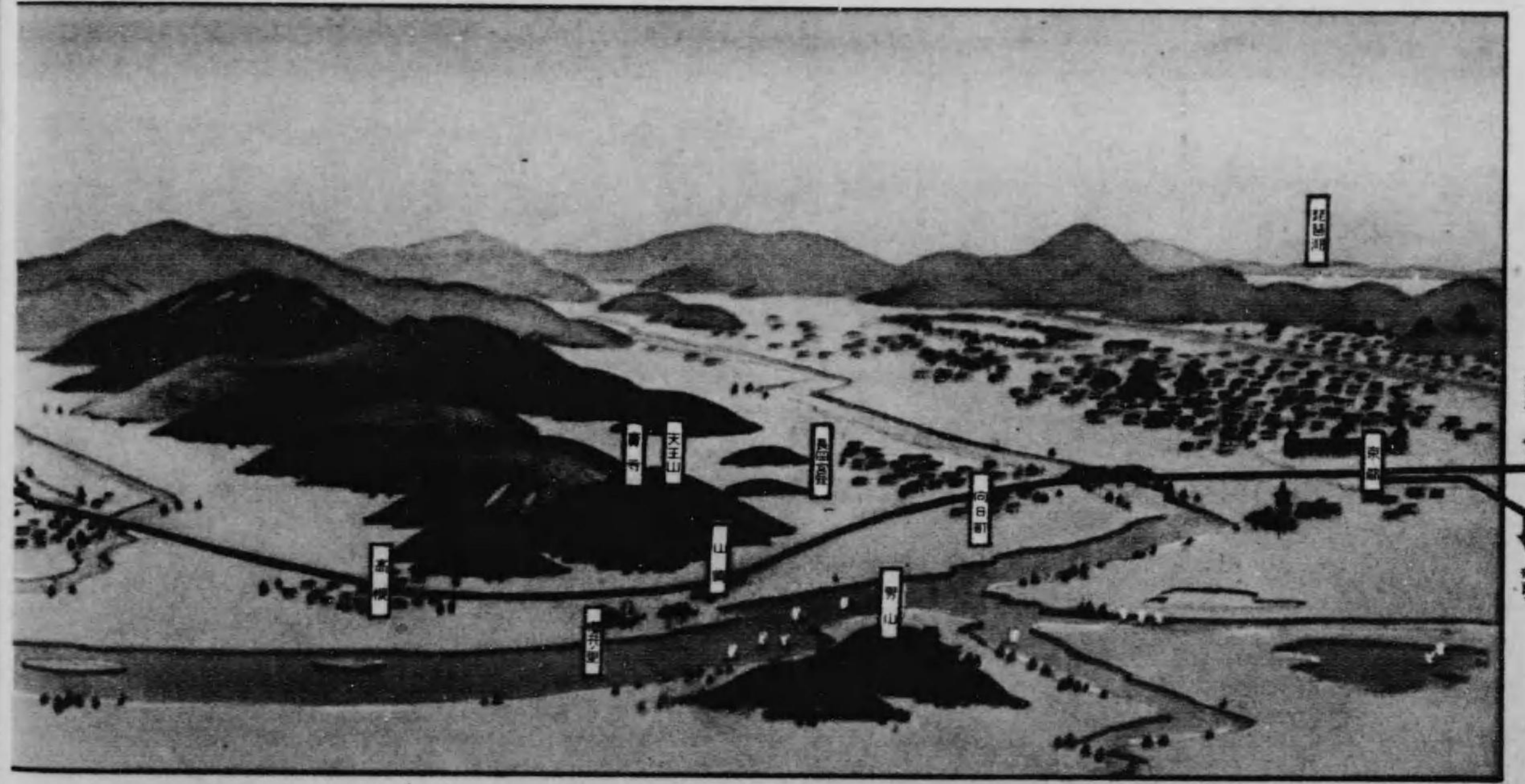
【神崎】(かんざき) 三五七哩八 福知山線の分岐點

福知山線 福知山線は神崎から岐れて福知山に行つて山陰本線に接する線と、塚口から南尼ヶ崎に行く線とを云ふ、列車は大阪から此線を通じて新舞鶴や松江や大社への直通列車があり、大阪以西から天ノ橋立見物や大社詣の人の便利を圖つて居る。沿線には伊丹、池田の清酒醸造地があり、紅葉の名所として知られた箕面公園があり、池田から東一里半電車賃十七錢)流行佛の能勢妙見があり(池田の東北四里、電車一ノ鳥居まで十七錢、一ノ鳥居から乗合自動車賃五十錢)西國二十四番の札所中山寺があり(中山寺から北六丁)寶塚、(旅館壽樓、分銅屋、松涼庵)武田尾(旅館旅館、元湯旅館)には温泉があり、有馬は著名なる温泉で三田から輕便線が岐れて居る【尼ヶ崎】(あまがさき) 小大阪の稱あり、工業都市として漸次繁華を來した、人口三萬八千五百人を有す。船辨慶に名高い大物。

Table with 4 columns: 大阪府 (Osaka Prefecture), 和歌山県 (Wakayama Prefecture), 奈良県 (Nara Prefecture), 三重県 (Mie Prefecture). Rows list various products like cotton, silk, and their production values for different years (e.g., 大正八年).



大所 ← 宗廟 →



宗廟 → 大所 ←



浦は今大物町となつて清桑の變を示し、尼ヶ城址、本興寺、廣徳寺等あり、大日本紡績、住友伸銅所、旭硝子、古河織業、日本電線等諸會社の工場が多い。旅館金久樓、立花樓

【三田】(さんだ) 九鬼氏の舊城下、西八丁其經營に成る博物館あり【有馬】(ありま) 六甲山の山麓海拔千五百尺温泉あり、温泉、落葉山、鼓ヶ瀧、有明樓の名所あり、名産有馬筆が昔から知られて居る。驛から温泉地まで傳賃三十五錢、自動車賃切二圓、旅館兵衛、御所坊、中ノ坊、池ノ坊、花ノ坊、有馬ホテル、杉本ホテル ▼六甲越有馬洞遊、有馬遊覽者は六甲越の洞遊によつて一層興味が加はる、生瀧驛下車大多田川の溪谷の勝に沿つて有馬まで二里二十七丁往きは上りで三時間、有馬から生瀧へ出ると下りで二時間、有馬から六甲山頂まで三十丁上り一時間下り四十分、山頂から住吉まで約二里下り二時間上り三時間要かる、往返いづれる取らも旅行者の自由だが、有馬からすると茅停の浦一帶の風光を下瞰しながら下るから眺望が好い。住吉口には五毛に一軒新在家二軒の山瀧籠あり貸金山頂まで四圓五十錢、有馬まで六圓

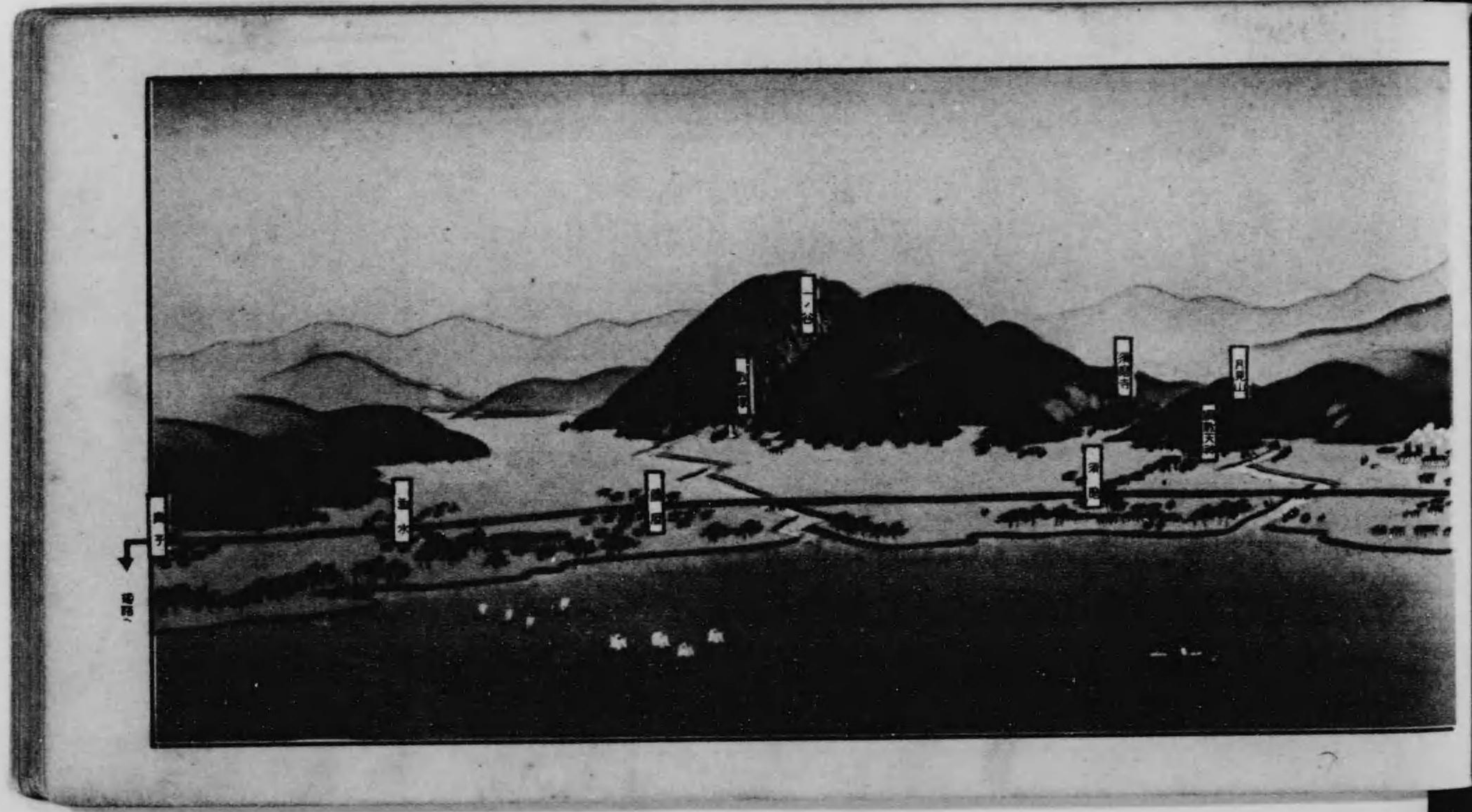
【西ノ宮】(にしのみや) 灘五郷の一、清酒醸造地として知らる、官幣大社廣田神社へ北半里傳賃五十錢、六甲苦樂園温泉へ西北五十丁傳賃一圓自動車賃四圓【神戸】(かうべ) 三十三哩五東海道本線の終點、山陽本線の起點である。地は關西地方の要衝に當り、瀬戸内海に臨み、本邦第一の商業都會大阪を附近に控へ、豐饒なる物産を有する關西地方の貿易上の門戸となつて居るから、輸出に輸入に物貨の輻輳甚多く、横濱と共に本邦の二大通商港である。而して市の發達の狀況も横濱と其軌を同じうし、開國の機運國勢の發展に伴うて、今日の如く隆運を來したことは頗る興味あることである。今人口六十一萬人な

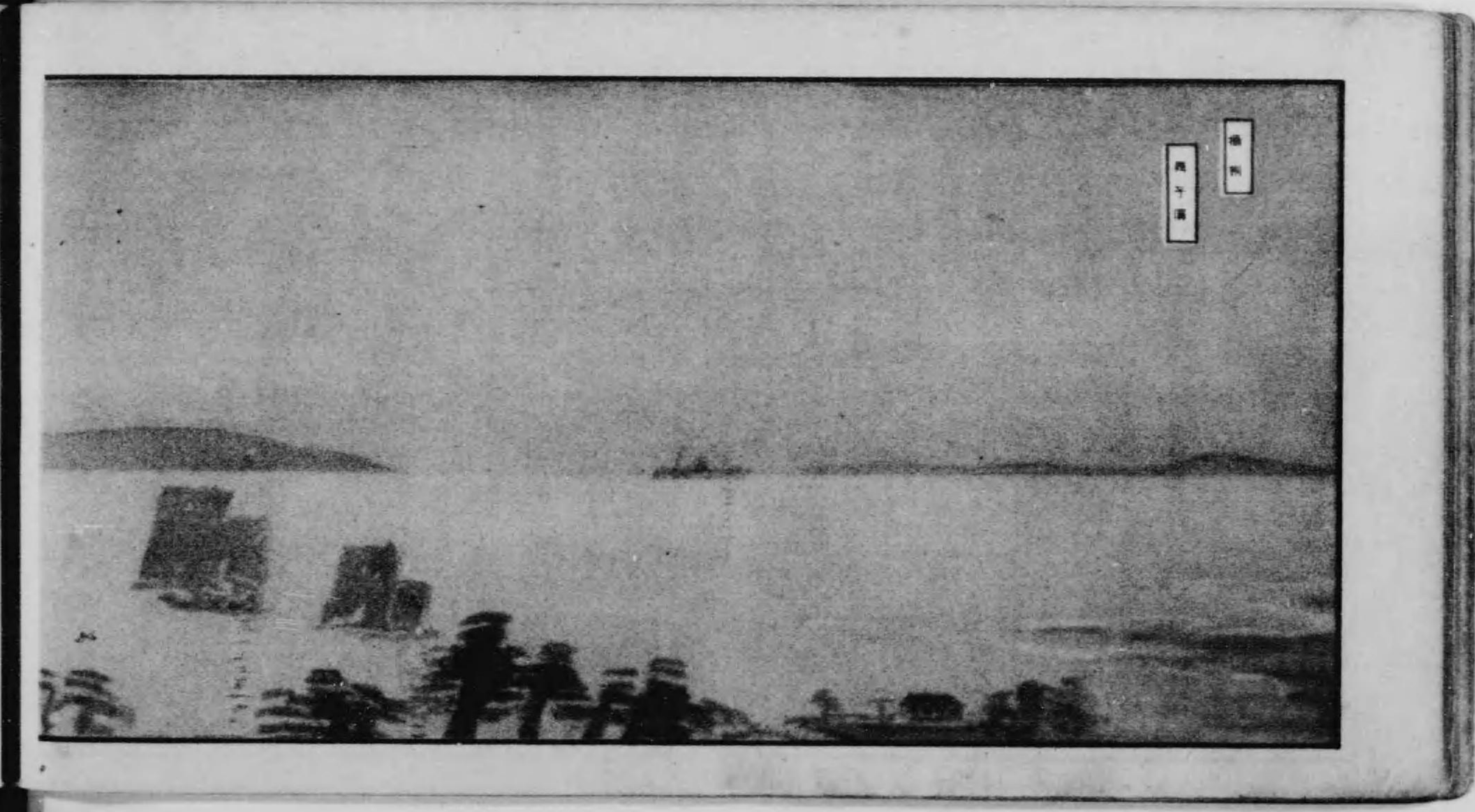
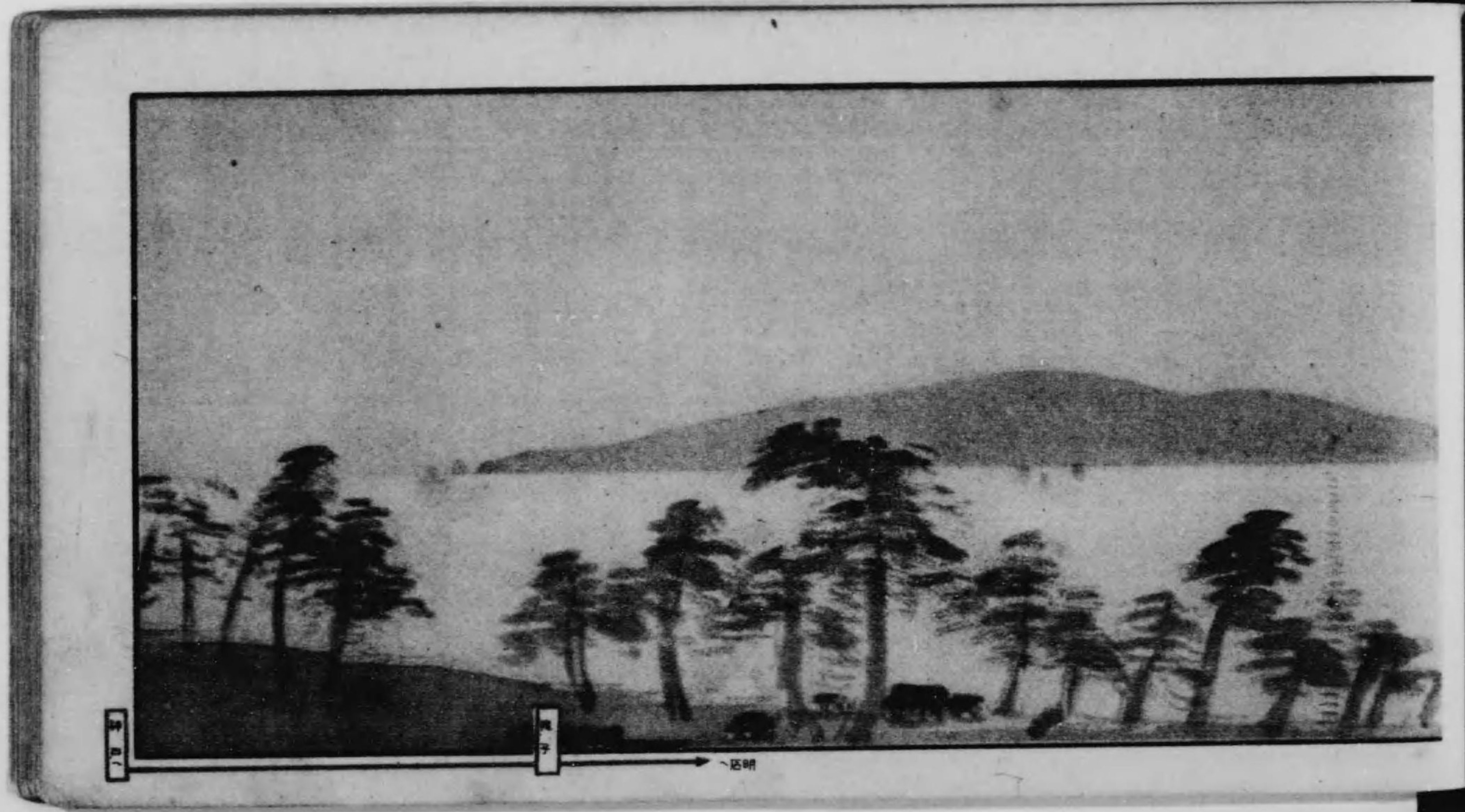


有し大正七年の貿易額は輸出五億三千九百萬圓、輸入七億八千四百萬圓に上り、輸出は全國總額中の二割七分、輸入は四割七分を占めて居る。市中最繁華なのは榮町通で神戸金融の中心とも云ふべく銀行會社が多く、元町通りは商業盛に、海岸通は交通運輸の中心となつて居る。重なる産物は燐寸、綿絲、麥稈眞田で、名産には牛肉、瓦煎餅がある。市内には三の宮、神戸、兵庫の三驛あり、兵庫驛は山陽線に屬して居る。市内電車賃六錢、自動車賃金一時間五圓乃至七圓、主なる官公衙には兵庫縣廳、神戸市役所、税關、各國領事館あり、銀行は農工銀行、横濱正金、第一、鴻池、住友、三菱、日本商業、臺灣銀行各支店あり、日本郵船、大阪商船、東洋汽船、太平洋汽船會社支店あり、川崎造船所、三菱造船所、日本燐寸、東洋燐寸、鐘淵紡績工場、日本製粉工場、増田製粉所等亦世に聞えて居る。遊覽地は生田神社三ノ宮より東北三丁、諏訪山遊園同北十二丁、湊川神社神戸より北一丁、大倉山公園同北七丁、湊川遊園地同西八丁劇場聚樂館、中央劇場其他興行物が多い。旅館オリエンタルホテル、東亞ホテル、西村、後藤、加藤、千秋樓、清風館

神戸市は兵庫縣廳所在地で、縣は但馬、播磨、淡路三ヶ國及攝津、丹波の一部を管轄して居る。中國山脈の中央に横はりて日本海と瀬戸内海とを分水し、關山川は北に流れ、加古川、市川、推保川は南に注いで居る。神戸は我邦第二の貿易港で大阪に面し、紡績、燐寸、製糖等の工業盛に川崎、三菱の造船所もある。市の東方に在る御影、西ノ宮、伊丹等は古來宿遷地として名高く、慶應全國第一である。縣の西方播磨平野は米の産多く、姫路市其平野の中心地である。姫路の西播磨は醬油を産し、赤穂は鹽を出して居る。姫路より北但馬は牧牛産に生野山より金銀銅を出し、豊岡の約行手亦有名である

生柿の主要産地 (大正八年)
兵庫 九七八、〇九二圓
長野 八〇六、五五〇圓
京都 六五八、三六三圓
兵庫 一、三三三、四三三圓
滋賀 一、〇七六、三六三圓
兵庫 一、二二一、〇〇〇圓
京都 二、九八九、七五〇圓
兵庫 五五〇、〇〇〇圓
愛知 四八九、八〇二圓
新瀧 八七六、五九一圓
四國 六七九、五六九圓
全 國 一、四七〇、二一八圓 (大正八年)
東京 一、二二一、〇〇〇圓 (大正八年)
東 京 七四三、一五七圓 (大正八年)
全 國 二、八七五、一〇〇圓 (大正八年)
全 國 二、九八九、七五〇圓 (大正八年)
全 國 五二八、八〇二圓 (大正八年)
全 國 二、一七二、九二七圓





して居る、而して汽車は青松白砂の間を縫うて走り、優艶明媚また飽くを知らない風光である。姫路からは南方の飾磨、北の方和田山に至る播但線あり、本線は姫路城の白壁を後にして、右に増位山、廣峰山、書寫山を仰ぎつゝ、進み、椋保川を渡るのである。有年からは鐵路弓の如く迂回して、備後三郎が義舉に名高い船坂山の長隧道を過ぎて岡山を指す、岡山からは南に讃岐線との連絡を爲す宇野線を岐ち、本線は更に西して笠岡に至りて再び海光に接し、尾道、糸崎あたり風光愈々美を加へ、須磨明石以來久しく平凡なる山野に厭いた旅客をして、思はず目を拭はしむるのである。三原からは又海光に遠ざかつて藝州の山野を走る、河内、西條驛あたり、低山性の峰巒起伏し、溪流潺湲風氣線を描いて居る。梅田市に至れば三度海光に接し、こゝに南して吳軍港に至る吳線を岐ち、やがて廣島に入る。

廣島を後にするとやがて宮島の青螺が眼界に現れて来る、翠綠蒼蒼たる島の前に、大鳥居が夢の如く海中に立ち、其後に疊氣樓の如き廻廊の連なるは嚴島神社、社の左方高く聳ゆるは千疊敷及び五重塔である。宮島から西、玖波、大竹あたり、大島附近、下松、徳山、福川あたり、瀬戸内海に瀕して風光甚佳、特に下松附近魚ヶ邊一帯の海岸は、奇岩怪石汀邊に横はつて、笠戸の島低く波に浮ぶ所、佳景言ふべからざるものがある。小郡からは北に岐る、山口線あり、厚狭からは北の方大嶺に至る大嶺線あり、本線は尙西して、埴生驛あたり左寮系根の松原を隔て、豊前の連峰を望み、長府からは下関の背後に起伏する丘陵の間を縫うて迂曲し、間もなく下関につく。

山陽本線

神戸—下關 三二九哩三分
兵庫—和田岬 一哩七分

(驛名の下に哩程を記せるは東京驛起點である)

【神戸】(かうべ) 東海道本線參照 【兵庫】(ひょうご) 神戸市内の一驛で和田岬に至る支線がある、遊覽地は總て神戸參照、附近

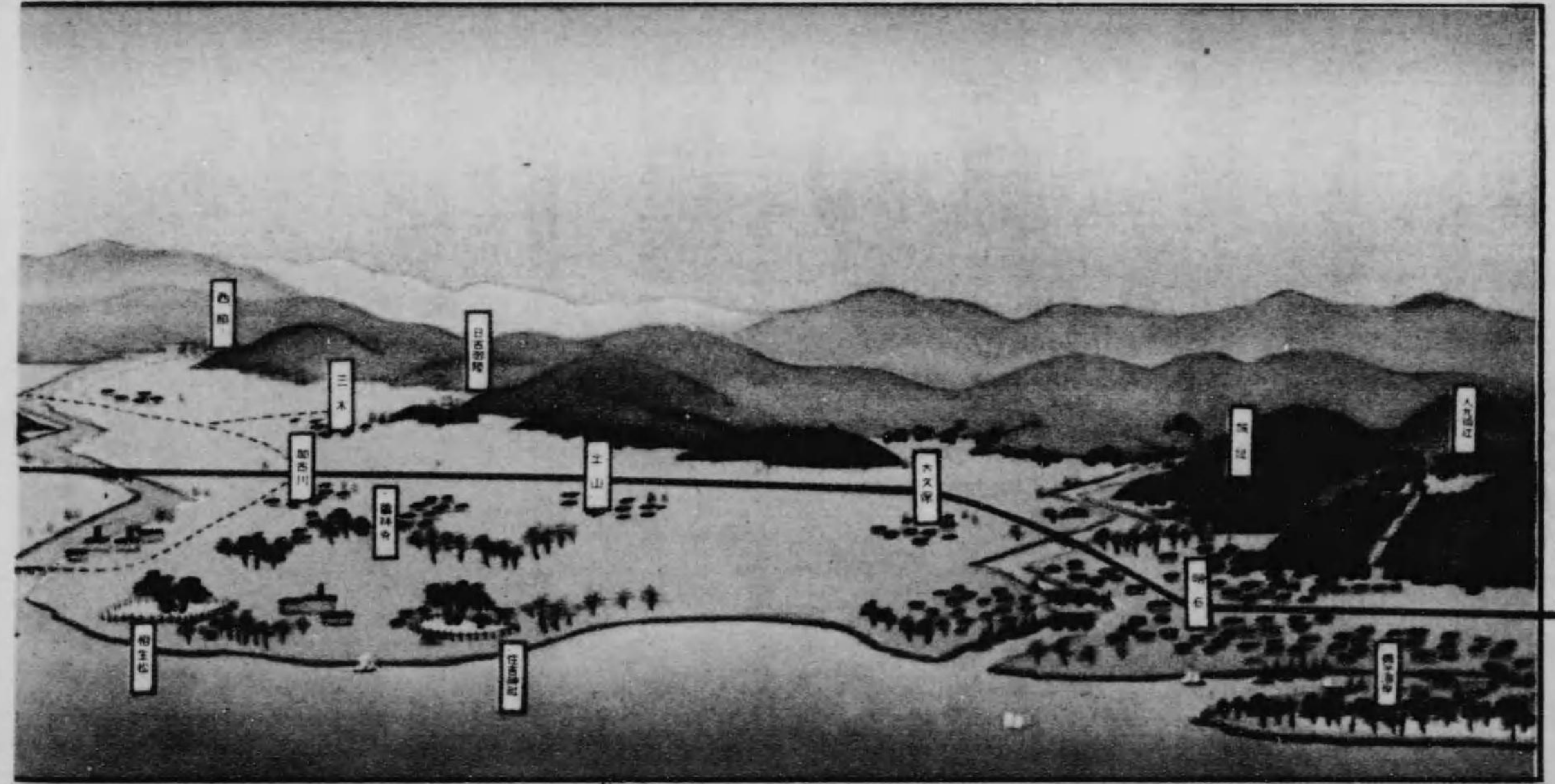
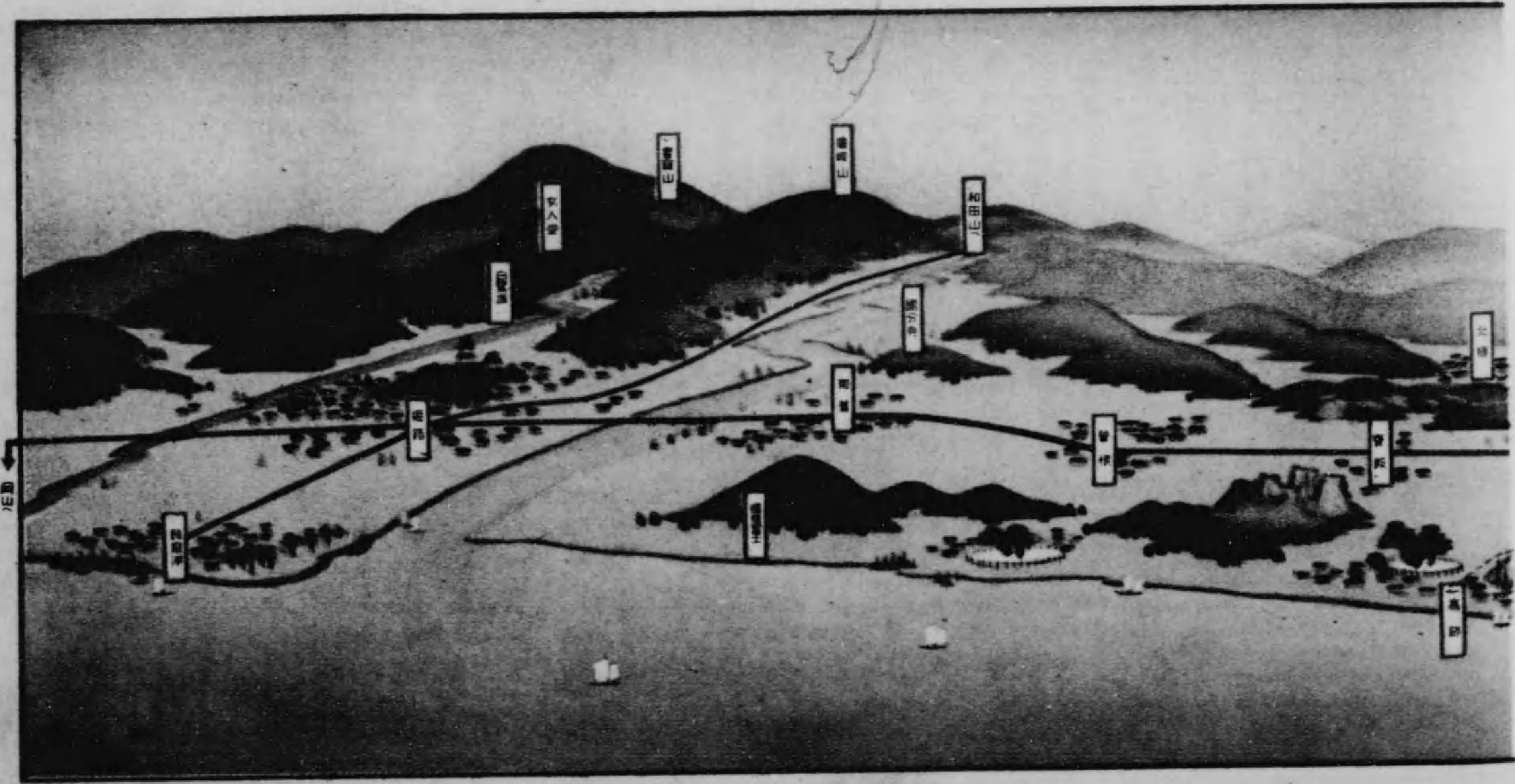
に大工場多く西南十四丁に川崎造船所兵庫工場、西南廿五丁に三菱造船所、西南十七丁に鐘淵紡績工場等がある 【須磨】(すま) 三七八哩一、須磨、明石附近は京阪神の人の四時遊杖を曳くの地で、恰も鎌倉返子附近の地の京濱の人に於けると同一である、此地水碧沙明太だ優雅の地、加ふるに源氏の君、行平の風流平門一時の夢など、自然の勝景に史的の趣味を添へて、人をして懐古の情に堪へざらしむるものである。東五丁の綱敷天神、東北七丁の松風村雨堂、北八丁の須磨寺、西七丁の一の谷、同十四丁の教盛塚、西北十丁の観粉ヶ峰等は少時間で巡遊出来る、旅館花月、須磨花壇【鷺子】(さぎこ) 驛は松林の中であり、松は高さ二三丈に過ぎず、おほむね其梢を齊うして枝幹屈曲し、高きは舞ふが如く躍るが如く、低きは臥すが如く蟠るが如く、一樹には一樹の趣態あり、百樹には百樹の風韻あり、南明石海峡を隔て、近く淡路島と相對して風光佳、旅館萬龜樓、左海屋、龜屋 【明石】

(あかし) 三八五哩五 もと松平氏八萬石の



城下で今人口三萬三千人を有す、驛の西北三丁の城址は今明石公園となり眺望が佳い、其處より入丸神社に詣で、海岸に出で、

中洲遊園から驛に引返すが好い、約一時間で廻れる、旅館錦明館、衝湯館 ▼淡路島周遊、明石船町から汽船で淡路の岩屋、志筑を経て洲本に至るもの一日一回の往復(東廻り)と船町から岩屋、郡家を経て淡路に至るもの一日一回の往復(西廻り)、十二月一日より翌二月末日迄は休航があり、岩屋から別に由良に行く一日一往復の航路もある、明石驛から船町迄十丁俵賣廿錢、船町から汽船で洲本に上陸し、淡路富士の稱ある先山に登つて全島を見下す、山上には先光寺觀音堂の古刹がある、再び洲本に戻り天の浮橋を経て約六里福良に出る、福良では囃門の觀潮をして約三里半の淺に出る、淺から郡家へは西廻りの汽船による、郡家の上陸すれば官幣大社伊弉諾神社へは半里である、神社から



再び郡家に戻つて汽船で船町に歸るもよし、神社から一里半の東海岸の志筑に出るもよい、右は淡路島の大體の廻遊で四日もあれば十分である、汽船貨岩屋迄廿五錢約卅分、志筑迄六十五錢約二時間半、洲本迄七十五錢三時間半、内良迄九十錢約五時間（洲本乗換）郡家迄七十五錢約二時間、湊迄一圓廿錢約四時間を要する、東海岸には汽船の外乗合自動車、馬車、俵の便がある【加古川】（かこがは）▼播磨名所巡り、加古川驛から鶴林寺、謡曲に名高い高砂尾上の松、石の寶殿、曾根の松等を巡遊して曾根驛に出るのをいひ、俵二圓、約四時間を要する、播州鐵道によつて見物しても好い【姫路】（めいじ）四〇七哩六



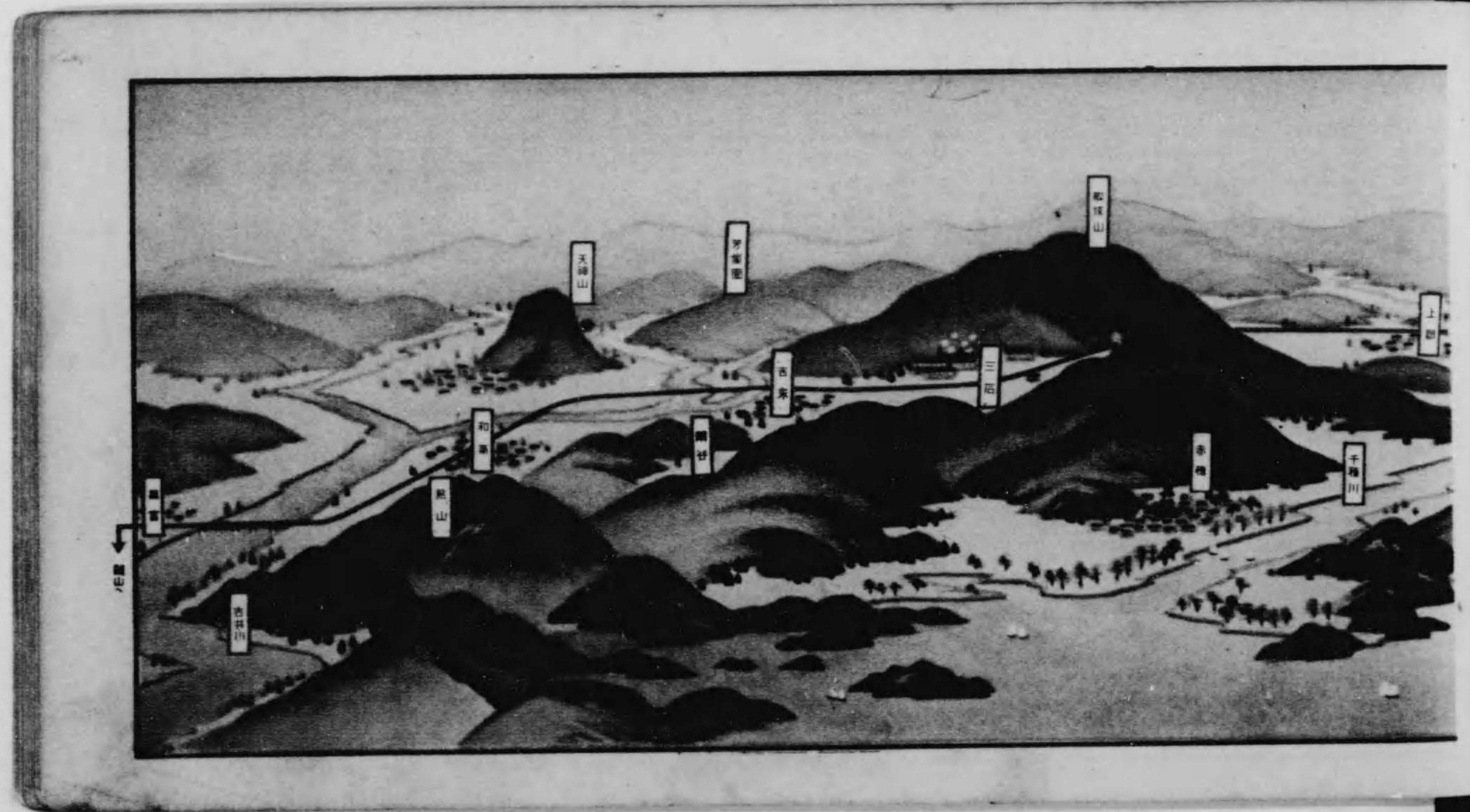
神戸から約一時間、元酒井氏十五萬石の城下で今人口四萬五千人を有し、姫路藩、姫路木綿を産する、名高い白鷺城は北十二丁、曾て秀吉の築いたもので五層の天主閣は屹として半空に聳えてゐる、城は今第十師團の營所となつてゐる、旅館宇田川、護樂園、福島樓、入江

播但線 姫路から南北に岐れて居る、南は飾磨港まで三哩九分、飾磨港は家島郡島が前面に幕布して風光が佳い、北は和田山まで四〇哩九分、山陰本線と接続する、書寫山は野里驛から四二里、山上には名利圓教寺があり幽遠の地で避暑に適する。歸途は姫路に出るがよい、生野驛附近には生野銀山がある【網干】（あびし）▼班鳩寺、北半里電車賃七錢、聖德太子の起された法隆寺別院である【龍野】（たつの）▼室津港、南三里、徳川時代に西國の大名の參觀往來の著岸で、港内風光が佳い、【有年】（うね）▼赤穂、赤穂鐵道あり運賃三等四十五錢、四十七義士の出所として名高く、大石屋敷、華岳寺等元祿の昔を追想せしむるものが多い【西大寺】（さいだいじ）▼西大寺、東南一里十四丁、西大寺鐵道賃廿錢、岡山からは後樂園脇から此鐵道に依る、眞言宗の巨刹で毎年舊正月十四日夜には會陽があり、裸體



の賽者が競うて眞木を取る有様は壯麗である【岡山】（おかま）四六二哩六 神戸から約三時間、元池田氏卅一萬石の舊城下で、旭川に跨つて地を占め、今人口九萬四千人を有し、備前燒、熊野染を産す、名物吉備團子、米のなる木は旅客を喜ばせる。後樂園は日本三公園の一で、驛から東十六丁、電車賃七錢、俵賃廿五錢、旭川を隔て、直に岡山城と相對し、林泉の美に富んで居る、園中四ヶ所の池沼を鑿ち、渠を通じて水を旭川の上流より引き、回流して復旭川に入る、延養亭、望湖閣、茂松庵、藤池軒、流店、一亭一樹眺望各趣あり、春花秋葉夏綠冬雪四季の光景一として佳ならざるはない、公園から舊城址の前を通つて東山公園に行けば、遙に兒島灣を望み、風光明媚である、人工の美は後樂園には及ばないが、天然の勝却て此に多いやうである、園内和氣清慶、兒島高德、楠正行の三靈を合祀した三勤神社あり、近くに五百羅漢、第六高等學校等がある、此他市内には北廿三丁に第十七師團司令部、南十七丁に岡山醫學専門學校、西南卅二丁に黒住教本社宗忠神社等がある、旅館三好野花壇、錦園、山長、高塚ホテル

宇野線 岡山から岐れて宇野に至る支線である、宇野は兒島半島の南端で附近に海水浴場が多い、牛ヶ首島は東北一哩半目下日蓮上人の大石像を建設中である、宇野から四國の高松へは省の連絡船があり、一時間十分で達する 中國鐵道、岡山から岐れて一は津山に至り、一は稻荷山、湛井方面に行く、津山線の沿線には金川驛から北八丁に妙覺寺、誕生寺驛から西北七丁に誕生寺等があり、湛井線には吉備津驛の東南十丁に官幣中社吉備津彦神社がある、三備三社の隨いで祠宇頗る宏壯である、御釜の御殿で阿曾女に吉凶禍福を下してしるへる、稻荷驛から北五丁の高松城址は秀吉が清水宗治を水攻にした有名な遺址である、稻荷山驛の西北六丁の妙覺寺は所謂高



松最上稻荷で、其名京都の伏見稻荷に次いでゐる、豪溪は湛井驛から北二里十六丁、花崗岩の巉岩無敵横谷川の溪流に屏立し、矮樹稚松懸面に點綴して美観を呈してゐる

岡山市は岡山縣廳の所在地で、縣は美作、備前、備中を管轄し、吉井川、旭川、川邊川の流域を占めて農産に富み、米、蕎麥を産し、兎島半島南部には鹽田が多い、岡山市は花魁の生産地で、又倉敷、玉島、笠岡と共に饅頭の産が多い、備中地方は多摩河田、巨木河田を産し、縣下至る所水質純を産することは弘く知られて居る

岡山	備前の主要産地	二、一八二、七三〇圓	北海道	二、三五一、三二二圓
全	備前の主要産地	三、七四二、九二二圓		
岡山	備前の主要産地	二、一八三、九八四圓	岡山	二、〇一、九九一圓
備前	備前の主要産地	一、〇三、一一一圓	備前	三、八四、五二〇圓
備中	備前の主要産地	二、八六、七七一圓	備中	七、九三、六八〇圓
備後	備前の主要産地	六五、二、九〇〇圓	備後	六、二九、九七五圓
備前	備前の主要産地	六五、二、九〇〇圓	備前	二、四七、六六七圓
備中	備前の主要産地	一、七四、一〇三圓	備中	六、〇三、八七七圓
備後	備前の主要産地	九八、三三三圓	備後	三、八、六三六圓
備前	備前の主要産地	二、〇五、四〇〇圓	備前	四、六五、〇三二圓
備中	備前の主要産地	五、七〇、六六四圓	備中	一、九三、三二六圓
備後	備前の主要産地	一、四八、一、六九圓	備後	二、八五、三二五圓
備前	備前の主要産地	二、二八、九三三圓	備前	一、六六、一七六圓
備中	備前の主要産地	六、三、五四三圓	備中	四、一三、一七三圓
備後	備前の主要産地	一、八七、〇二九圓	備後	一、八六、三五六〇三圓
備前	備前の主要産地	五、三三、七六九圓	備前	三、四九、九二二圓
備中	備前の主要産地	二、九五、四四一圓	備中	三、〇八、八二五二圓

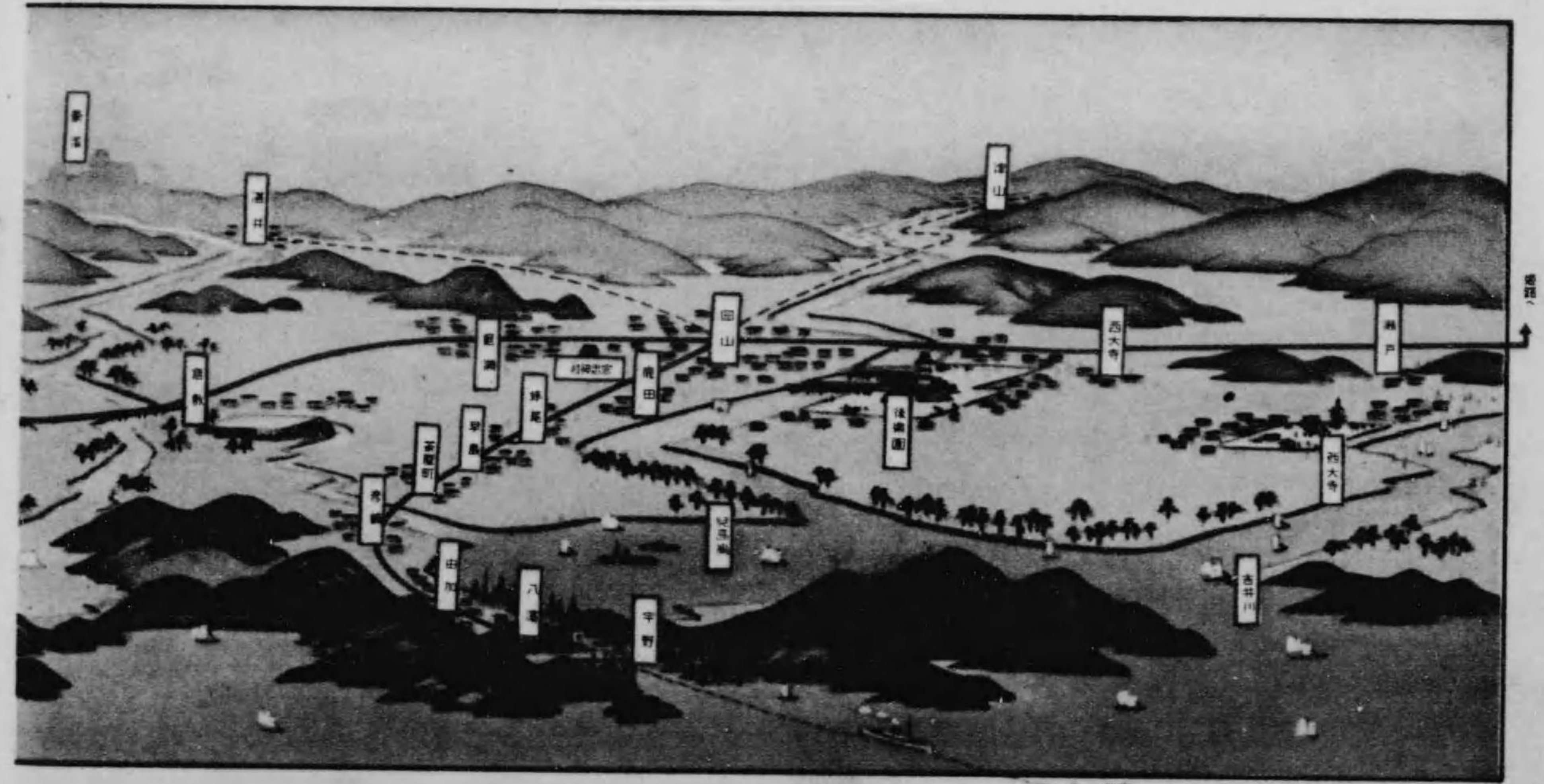
【倉敷】(くらしき) 倉敷紡績工場、東南九丁半、産額三萬圓以上に上る 【玉島】(たましま) 四七八哩三 町は驛南廿六丁、四國への交通の衝に當り、備中第一の要港で風光が佳い、【金神】(こんじん) 金光教本部、東南三丁 【笠岡】(かさをか) 神島海水浴場、海上南一里、汽船の便がある、附近高崎、白石島、北木島、真鍋島、小飛島、小飛島等舟を雇つて巡遊すれば興味が深い 【福山】(ふくやま) 四九八哩九 元阿部氏十一萬石の城下で、蘆田川の下流にあり市街は海より離れてゐるが尙潮水渠溝を通じて運漕に便である、今人口三萬人を有す、旅館坂田屋、松乃家 ▼ 福山から阿伏兔へ、福山から福軽便鐵道で福山に行



く、福港は福港のある處で瀬戸内海の要津である、町に保命酒、醋を産し、仙酔島、皇后島等を前に控へて風光絶佳である、福禪寺、國幣小社沼名神社等皆茲の近くである、阿伏兔觀音は福から四一里十一丁、俵貫一圓五十錢、阿伏兔岬の峭壁上海面より九十二尺の高さにあるので、海山の眺望が甚だよい 【尾道】(おのち) 五一哩四 神戸から約五時間、備後第一の海市、瀬戸内海廻船業の中心地である、東洋汽船をして四國の多度津、今治への連絡船あり、多度津まで四時間を要するに過ぎの、伊豫の道後温泉に行く人も、茲から高濱への汽船便に頼るがよい、船賃三等二圓四十錢、二等三圓六十錢、市は今人口二萬六千人を有し、花菱、疊表、酒、鯛を産し、所謂備後表の主産地である、地形は大寶、愛宕の二山其後に峙ち、向島其前面に横たはりて一海峡をなし、海山の展望まことに温藉である、この風光を見ようとするには、大寶山に在る千光寺がよい、寺は驛の東北八町、展望吉備第一である、旅館尾道ホテル、鷗水館、濱吉支店 【糸崎】(いとさき) 五一七哩 開港場の一で大正七年の貿易額輸出三百九十萬圓、輸入三百萬圓に上る 【本郷】(ほんかう) ▼ 佛通寺東北一里半、俵貫八十錢、臨濟宗の本山で安藝の高野と言つてゐる 【海田市】(かいたいち) 吳線の分岐點、同線は海田市、吳間十二哩四分、吳は廣島灣の東側、海軍鎮守府の所在地で造船廠、製鋼所、海兵團等あり、往時海岸の小邑、今尙大なる軍港となり、人口十三萬人を有し、市内電車がある、江田島は西二里、海軍兵學校がある、北方廣島市と相望む間に似島が浮んで安藝の小富士といはれて居る、江田島の西方にある食橋島は元一地峽を爲して本土と接続して居たのを、平清盛が舟行の便を計る爲開墾したのだといふ、これ即ち瀬戸内海勝地の一たる音戸瀬戸で、對岸警固屋町との間五十間



く、福港は福港のある處で瀬戸内海の要津である、町に保命酒、醋を産し、仙酔島、皇后島等を前に控へて風光絶佳である、福禪寺、國幣小社沼名神社等皆茲の近くである、阿伏兔觀音は福から四一里十一丁、俵貫一圓五十錢、阿伏兔岬の峭壁上海面より九十二尺の高さにあるので、海山の眺望が甚だよい 【尾道】(おのち) 五一哩四 神戸から約五時間、備後第一の海市、瀬戸内海廻船業の中心地である、東洋汽船をして四國の多度津、今治への連絡船あり、多度津まで四時間を要するに過ぎの、伊豫の道後温泉に行く人も、茲から高濱への汽船便に頼るがよい、船賃三等二圓四十錢、二等三圓六十錢、市は今人口二萬六千人を有し、花菱、疊表、酒、鯛を産し、所謂備後表の主産地である、地形は大寶、愛宕の二山其後に峙ち、向島其前面に横たはりて一海峡をなし、海山の展望まことに温藉である、この風光を見ようとするには、大寶山に在る千光寺がよい、寺は驛の東北八町、展望吉備第一である、旅館尾道ホテル、鷗水館、濱吉支店 【糸崎】(いとさき) 五一七哩 開港場の一で大正七年の貿易額輸出三百九十萬圓、輸入三百萬圓に上る 【本郷】(ほんかう) ▼ 佛通寺東北一里半、俵貫八十錢、臨濟宗の本山で安藝の高野と言つてゐる 【海田市】(かいたいち) 吳線の分岐點、同線は海田市、吳間十二哩四分、吳は廣島灣の東側、海軍鎮守府の所在地で造船廠、製鋼所、海兵團等あり、往時海岸の小邑、今尙大なる軍港となり、人口十三萬人を有し、市内電車がある、江田島は西二里、海軍兵學校がある、北方廣島市と相望む間に似島が浮んで安藝の小富士といはれて居る、江田島の西方にある食橋島は元一地峽を爲して本土と接続して居たのを、平清盛が舟行の便を計る爲開墾したのだといふ、これ即ち瀬戸内海勝地の一たる音戸瀬戸で、對岸警固屋町との間五十間



餘に過ぎない、潮流激しくて帆船は順潮の時でなければ容易に通過することが出来ない、附近風光明媚である、旅館吉川、岩越、徳田



【廣島】(ひろしま) 五六三哩三 神戸から約七時間半、大田川の成せる三角洲上に立ち、背後に廣島平野を控へ、南は直に海に臨み、宇品港を以て其埠頭として居る、元淺野氏の城市で、人口十六萬人を有し、中國第一の都會である、大田川は市内に入り四派に岐れて居るので宛然水の都と稱せらるゝ大阪

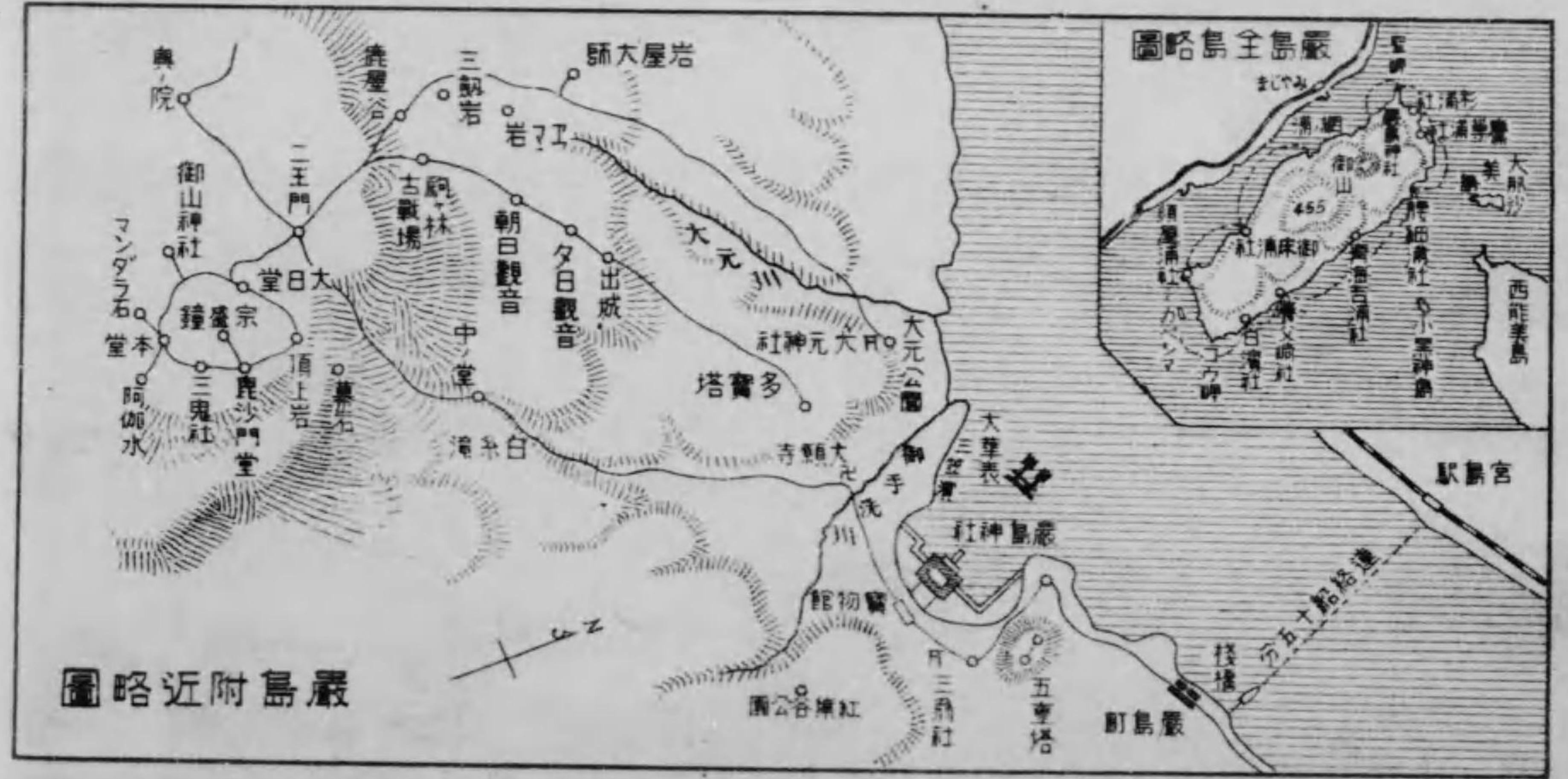
を見るが如く、然も市廛の風に於ても其範を大阪に採つて居るやうである。物産は傘、蚊帳、牡蠣、海苔、藍、木材山繭繡、家具、佛壇、燗寸等あり、祇園坊白柿、柿羊羹は此地の名産である、廣島城は西二十四丁俵三十五錢、一に鯉城の名あり、天正十年、毛利輝元の創築したるもので、尙天主閣を存し、今第五師團司令部あり、二十七八年の役、明治天皇親征駕を廣島に駐め、城中を以て大本營となし、軍國の事を統へ給ひ、我軍大捷武威八表に揚つた、此地實に國史の上に不朽の名を得たのである、天主閣は五層にして高さ十七間餘である、饒津神社は北十二丁、俵三十二錢、舊藩祖長政を祀り、今境内は公園となつてゐる、泉邸は西九丁、電車七錢、泉石花卉の勝あり、舊藩主淺野氏の別邸、庭園は支那西湖を模倣したものである、比治山公園は南十七丁、俵三十三錢、園内日清の役に際し、臨時廣島帝國會議事室内に在つた記念御便殿を移して、御眞影及當時の御物を奉置してある、國泰寺は西南二十丁、電車賃九錢、廣島高等師範學校は其五六丁先である、宇品港は廣島の海港で南二十五丁、電車賃十五錢、二十七八年戦役以來、軍事上重要な兵站基地として、其名世界に著はれ、市の繁華を來したのも亦この港を有するが爲で、陸軍運輸部本部、陸軍糧秣支廠等あり、瀬戸内海四國臺灣航路の要津である、旅館長沼吉川本支店、漢口

廣島市は廣島縣所在地で、嶺は偏後、安藝を管轄し、北部の山地には牧牛の業盛に又大賑の産あり、備後津に瀕する尾道、福山地方には備後表、花菰を産し、製鹽の業も亦盛である、廣島縣内には牡蠣の養殖多く、岡山縣と共に柑橙類の産も多し

除島等の主要産地	九四八三三三圓	和歌山	(大正八年)
廣島	五四一、三三三圓	和歌山	八九三、五二〇圓
全	二、八三三、三三三圓	和歌山	二五七、一三三圓
廣島	二八二、二二六圓	和歌山	二六八、七三四圓
廣島	一六二、〇八圓	和歌山	一一五、一九〇圓
廣島	一一五、〇七圓	和歌山	一四八、五三三圓
廣島	九三、八四六圓	和歌山	一四、〇四二、七三三圓
廣島	四九、八〇一圓	和歌山	九〇、五七五、六〇圓
廣島	四七、一三九圓	和歌山	七、一一、一九七圓
廣島	四、五五二圓	和歌山	六、三、八、一、九〇圓
廣島	三、三、五、七五圓	和歌山	四、八、七、八、七、五〇圓
廣島	二、五、六、八〇圓	和歌山	四、四、五、九、五、五〇圓
廣島	二、三、一、一二圓	和歌山	四、三、九、五、七、六九圓
廣島	八、六、七、三、七、六一圓	和歌山	八、六、七、三、七、六一圓
廣島	(大正八年)	和歌山	(大正八年)
廣島	一、九〇、七、九三〇圓	和歌山	八、八四、一、八八圓
廣島	八、八四、一、八八圓	和歌山	一、六、三、五、五、一三圓
廣島	(大正八年)	和歌山	(大正八年)
廣島	一、九三、八、九三圓	和歌山	一、九三、八、九三圓
廣島	一、九八、五、五〇圓	和歌山	一、九八、五、五〇圓
廣島	(大正八年)	和歌山	(大正八年)
廣島	二、六、七、八、四、六三圓	和歌山	二、六、七、八、四、六三圓
廣島	五、六、二、五、二〇圓	和歌山	五、六、二、五、二〇圓
廣島	(大正八年)	和歌山	(大正八年)
廣島	一、一、八、一、二、八四圓	和歌山	一、一、八、一、二、八四圓
廣島	二、〇〇、一、五、二四圓	和歌山	二、〇〇、一、五、二四圓

【宮島】(みやじま) 五七六哩八 神戸から約八時間、嚴島は山陽線第一の勝地である、宮島驛に下車すると汽車の時間と連絡した小汽船あり、十五分にして風光明媚なこの別天地に運ぶのである。島は廣島灣の西南佐伯郡の陸岸に沿うて東西三十町、南北二里半、其北偏に官幣中社嚴島神社あり、風光秀麗なる境を占め、殿閣海に向ひて水中に基礎を建て、居る。其結構を見るに大宮及客神社の二大部より成り、大宮、寶殿其中央にあり、幣殿、拜殿、祓殿其間にあり、祓殿の前に高舞臺、其左右に平舞臺あり、樂房それにつづいて左右に分れ門客神社、樂房と並びて左右に立て居る。廊下は火燒前といひ、更に海に突出するこ

と七間餘、遙に海中の大島居と相對し、其一端に一大燈籠を設



嚴島附近略圖



けてある。寶殿の左右に廻廊あり、屈曲百四十八間の長きに互り、一間毎に鐵燈籠を釣つてある、潮来れば廣斥波忽ち生じ、百燈長く照映して光彩陸離名狀すべからざるの美觀を呈するのである。有名な海中の大鳥居は火燒前の前方七十間、軟沙の上に立て居る、満潮の時は參詣の舟白帆を掲げて潜り入ることが出来る。本殿より左折して廻廊を廻れば客神社で、寶殿、拜殿、幣殿、祓殿並び備はつて居る。社殿の後方に在る圓形の一瑤池は鏡ヶ池といひ、月夜明鏡の裡、嫦娥其嬌容を映するのである、殿閣の前方、左右の江濱松並木あり、松に沿つて百八の石燈籠がある、此あたり麋鹿遺逸して人に親しむのである。凡そ此神社の結構は江山自然の形勝を利用して、殿閣廊廡の排布を爲し、高きに攀ちて俯視すべく、舟に泛びて遠望すべく、江山樓閣相掩映して、無限の妙趣を見るのである。

御手洗川を渡れば大願寺がある、海に沿つて更に西すれば大元神社、境内今公園となつて居る。大元浦の後山には二層の寶塔がある、紅葉谷は公園で、小澗幽邃、御手洗川潺々として奔る處、岸の兩邊楓樹多く、危橋架り怪岩横りて、景趣をなして居る。宮の東岡の塔岡は陶晴賢の陣を構へた處で、北方町を隔て、毛利氏の戎兵を置いた要害鼻を望むことが出来る、岡に豊公の築造した、千疊敷、及五重塔がある、要害鼻は汽船棧橋の上方で、元就は茲に兵を置いて陶の大兵を誘致したのである。海岸に沿つて北に行けば長濱、海水浴に適する。御山は大宮の後なる秀麗の峰、登路二十四丁、頂上の觀望廣潤である、登路に白糸の瀧あり、瀧の宮あり、夏の夜は螢の多い所である。

島に杉浦、鷹巣浦、腰綱浦、青海苔浦、山白浦、須屋浦、御床の浦の七浦あつて、各浦に江比須祠を祀つて居る、安藝の宮島まれば七里浦は七浦七江比須、風光の邊化に富める、煙波の趣致多き、島巡りも亦興が多からう、此島巡りをするには院所屬の巡遊汽船あり、嚴島棧橋を發し、杉浦、青海苔浦、須屋浦を経



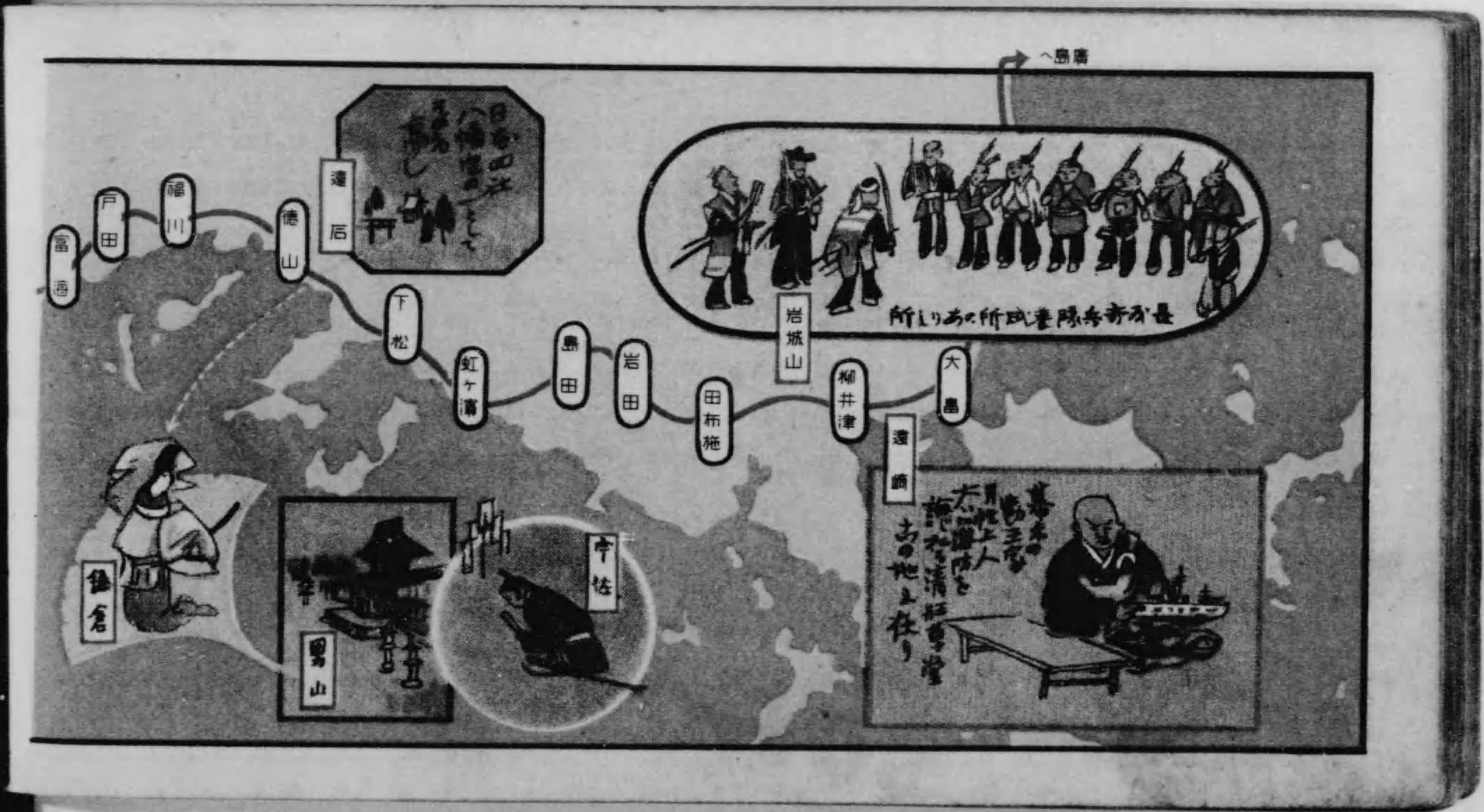
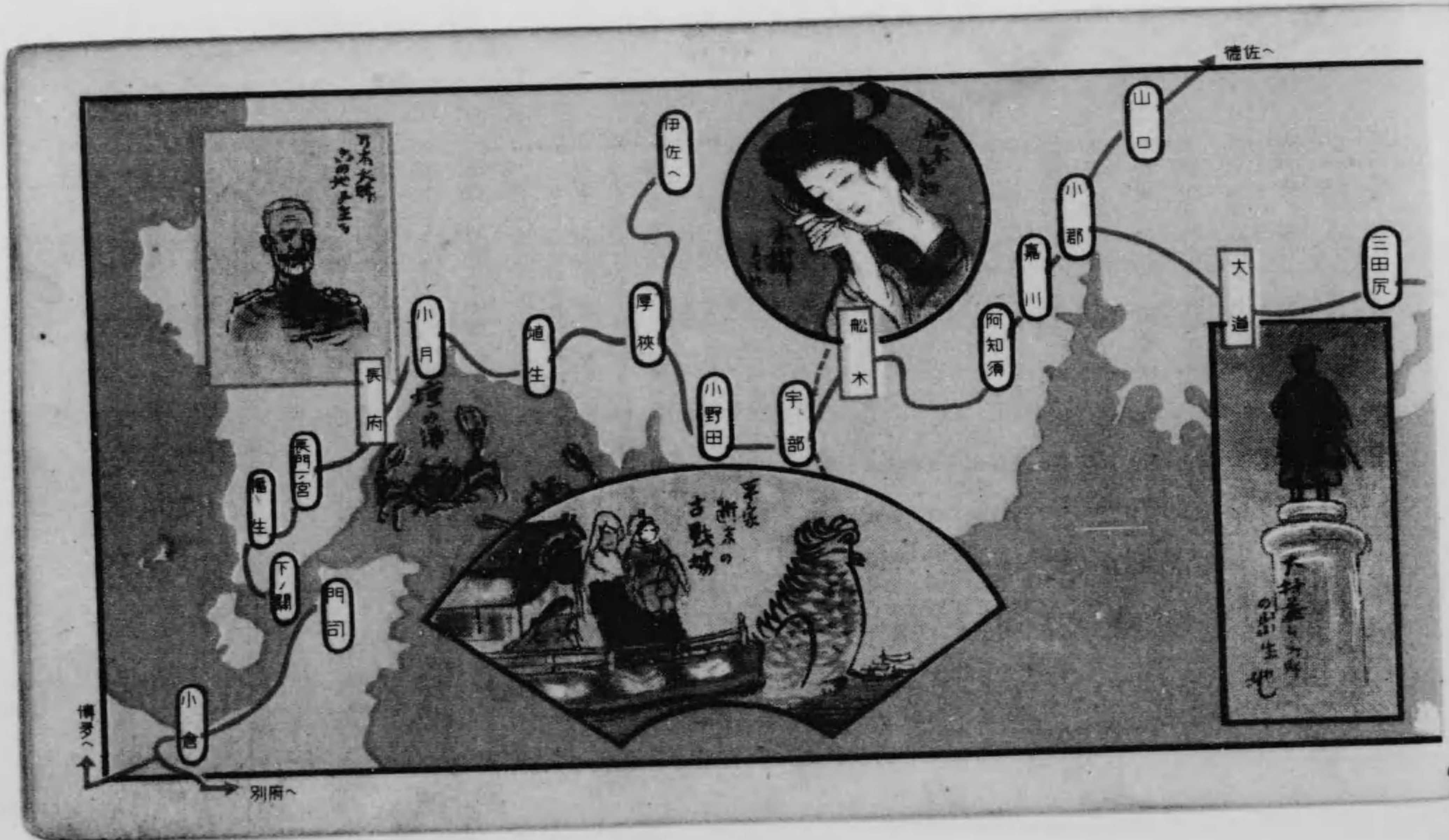
て歸着する。巡航期間四月一日より新嘗祭まで、毎日曜大祭日に限り巡航し、午前十時に發し、午後一時四十分には歸る、賃金五十錢、貸切五十人未満二十圓、百人未満三十圓、百人以上四十圓である。別に嚴島神社の監督の下に行はる、巡拜船あり、和船十人迄七十圓（鳥食式、御初穂料、賄料を含む）未明に觀を御笠濱に解き、夕景網浦に上陸する、拜所毎に茅輪の儀あり、養父崎にて鳥食の式あり、極めて神異なる傳説を有して居るのである、旅館岩惣、龜福、錦水館、宮島ホテル

【岩國】(いはくに) 五八九哩 岩國町は元吉川氏六萬石の城下で驛の西北一里を隔て、岩國電氣が通じてゐる賃金十五錢、蚊帳、岩國縮、岩國半紙の産地である、錦川町の西南を過ぎる所錦帯橋を架してある、橋は一に算盤橋と云ひ、本邦架橋工事中、構造の奇巧と堅牢とを以て聞えて居る、其構造は泰西の迫持法に適つて居ると云ふ、舊城址は横山に在つて、其麓なる吉香公園内に吉川氏の祖を祀れる吉香神社あり、錦川一帯の風光を見渡される、園内櫻樹多く、花期四月中旬、旅館米平 【柳井津】(やなぎ) 六〇九哩五 室津半島の頭部に在り、地形優美な一要害で、柳井津編、甘露醤油を産する、旅館凌波館 【虹ヶ濱】(にじかはま) ▼海水浴場、西南三丁 ▼室積港、東二里、自動車賃六十錢、馬車賃四十錢、俵賃八十錢、岩田驛からも同里程、室津半島の要津で、牛島、尾島等前に横ばり風光極めて佳く、象鼻山、普賢寺の勝もある 【徳山】(とくやま) 六三一哩七 元毛利氏四萬石の支藩地で、徳山海に臨み水陸の便あり、海軍煉炭所がある、旅館松政、廣瀬 【三田尻】(みたじり) 六四八哩二 三田尻灣に臨む周防第一の良港で、宮市と合して防府町といつてゐる、附近に鹽田多く、廿九丁の宮市天満宮に輪奐の美あり、西一里廿丁には國幣中社玉祖神社がある、俵賃七十錢、旅館石田旭館、防府館 【小郡】(こごほり) 六五九哩三 ▼鐘乳洞探検、小郡から自動車で繪堂下車、此間七里十丁、俵賃三圓四十錢、二

時間半を要する、繪堂から徒歩約一里、景清穴に達する、穴は佐山から猿田に通ずる長さ十三四丁の一大鐘乳洞で、洞内に地獄極樂、賽の河原等の奇勝がある、茲より南へ徒歩三里で秋吉の瀧穴に出る、有名な大鐘乳洞で洞口の高さ數百尺、洞内廣瀬炬火を點じて約十丁の奥迄行ける、案内料一人六十錢、二人八十錢、三人一圓、以上一人に付廿錢増、洞内探見に約三時間を要する、(秋吉旅館近江屋、長正宿泊料二圓) 秋吉から美彌輕便線吉則驛へ三里半、自動車賃一圓五十錢、所要一時間、俵賃一圓廿錢、所要二時間、重安驛へ西三里、自動車賃一圓七十錢、馬車賃一圓廿錢、俵賃二圓五十錢、小郡を早朝出發すると秋吉に一泊して二日で足るが、ゆつくりするには繪堂に一泊するがよい、(旅館上田屋、宿泊料二圓) 又秋吉の鐘乳洞のみ見物するなら小郡から太田迄自動車で行く、里程五里廿三丁、自動車賃二圓七十錢、二時間、(太田旅館野村屋、長嶺宿泊料二圓) 太田瀧穴間は二里餘である

山口線 小郡から岐れ、山口を経て徳佐迄三一哩 【湯田】(ゆだ) ▼湯田温泉、北六丁、俵賃三十錢、山口の人達の遊樂地で暮末七廻長州落の際に茲に滞留された、旅館松田屋、野原屋、水野 【山口】(やまぐち) 山口盆地の中央、樫野川の上流に在り、南方繞に開けて他の三面は山に圍まれて居る、大内氏の時繁榮京都を壓する勢であつた、市街整然、小京都の觀がある、毛利氏が萩に築いてから稍衰へたが、維新前毛利氏治所を茲に建て再び繁華に向ふこととなつた、今人口二萬七千人を有し、漆器、山口焼を産する、龜山公園は西北十三丁、俵賃十六錢、大内氏の故墟で今公園となり、毛利氏宗支藩主の銅像が建つて居る、豐榮神社は北二十三丁、俵賃三十錢、別格官幣社で毛利元就を祀る、野田神社は豐榮神社の西隣に在り、毛利敬親を祀り、別格官幣社に列する、香山園は北二十五丁、俵賃四十錢、毛利敬親公の墳墓があり、園

露光量違いの為重複撮影



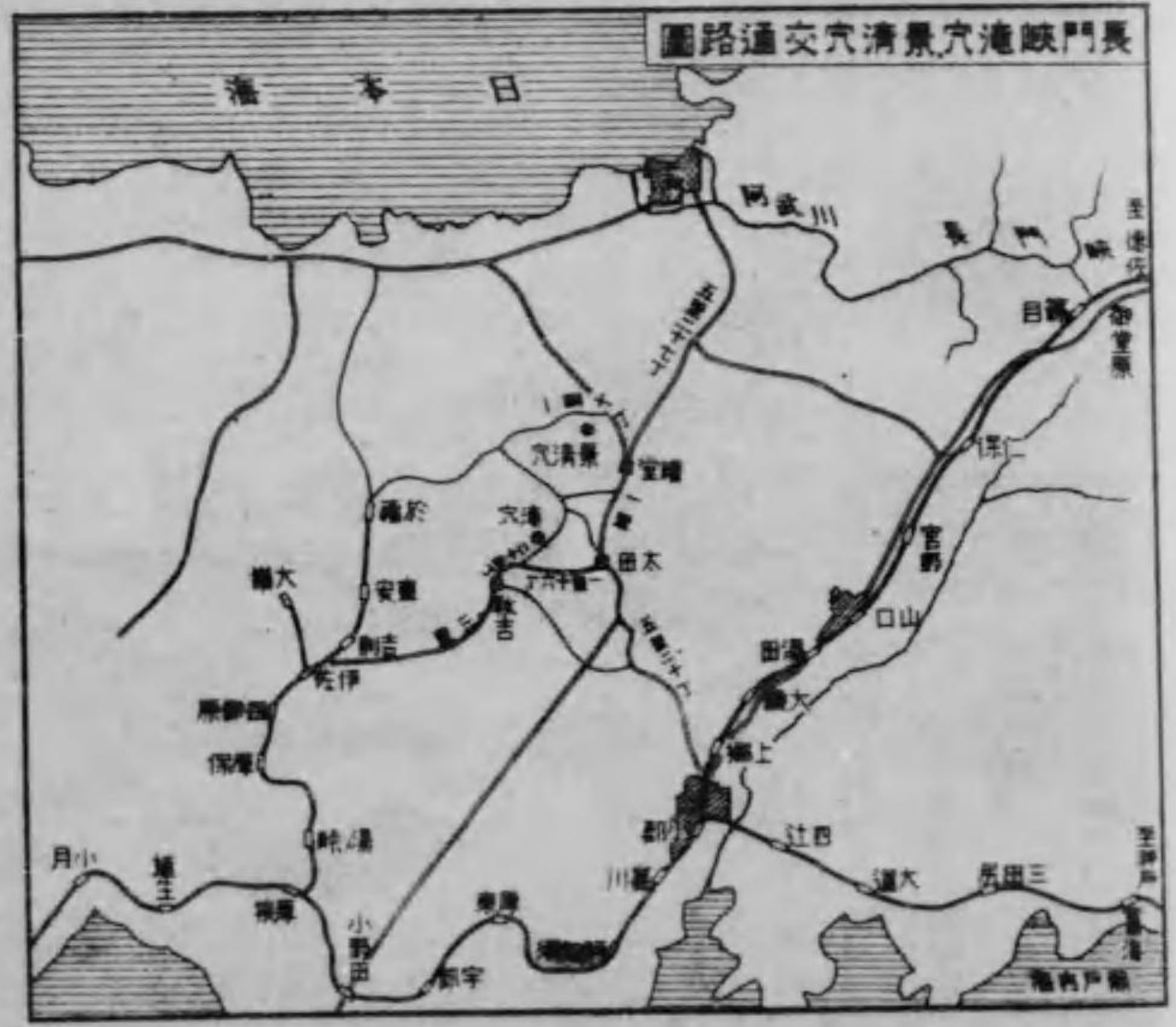
内の露山堂は敬親公の久坂、高杉、木戸等と勤王の大事を隠せられた處、附近瑠璃光寺、洞春寺あり瑠璃光寺内の五重塔は嘉吉年間の建造物で高き百尺、特別保護建造物である、町に山口縣廳、山口高等商業學校あり。旅館上田、中村 ▼萩町へ、十一里、自動車馬車の便がある、日本海に臨み、毛利輝元の慶長築城以後文久年間の山口移轉に至るまで、毛利氏累世の城府であつた。萩城址、松陰神社、春日神社、宮崎神社など見るべきところが多い。町の東護國山下の松下村塾は松陰の子弟を薫育した所である。萩附近に夏蜜柑の産地として名高い

山口町は山口縣廳の所在地で、縣は周防、長門を管轄し、三面海を繞らして沿岸の平野に米を産し、瀬戸内海には鯛、鰯を漁し、近海の水産中第一である。海濱には又多く鹽を産し、三田尻は其中心となつて居る。其他大嶺よりは無類炭を出し、萩よりは夏蜜柑の産多く、下關は穀物の取引が盛である

夏蜜柑の主要産地

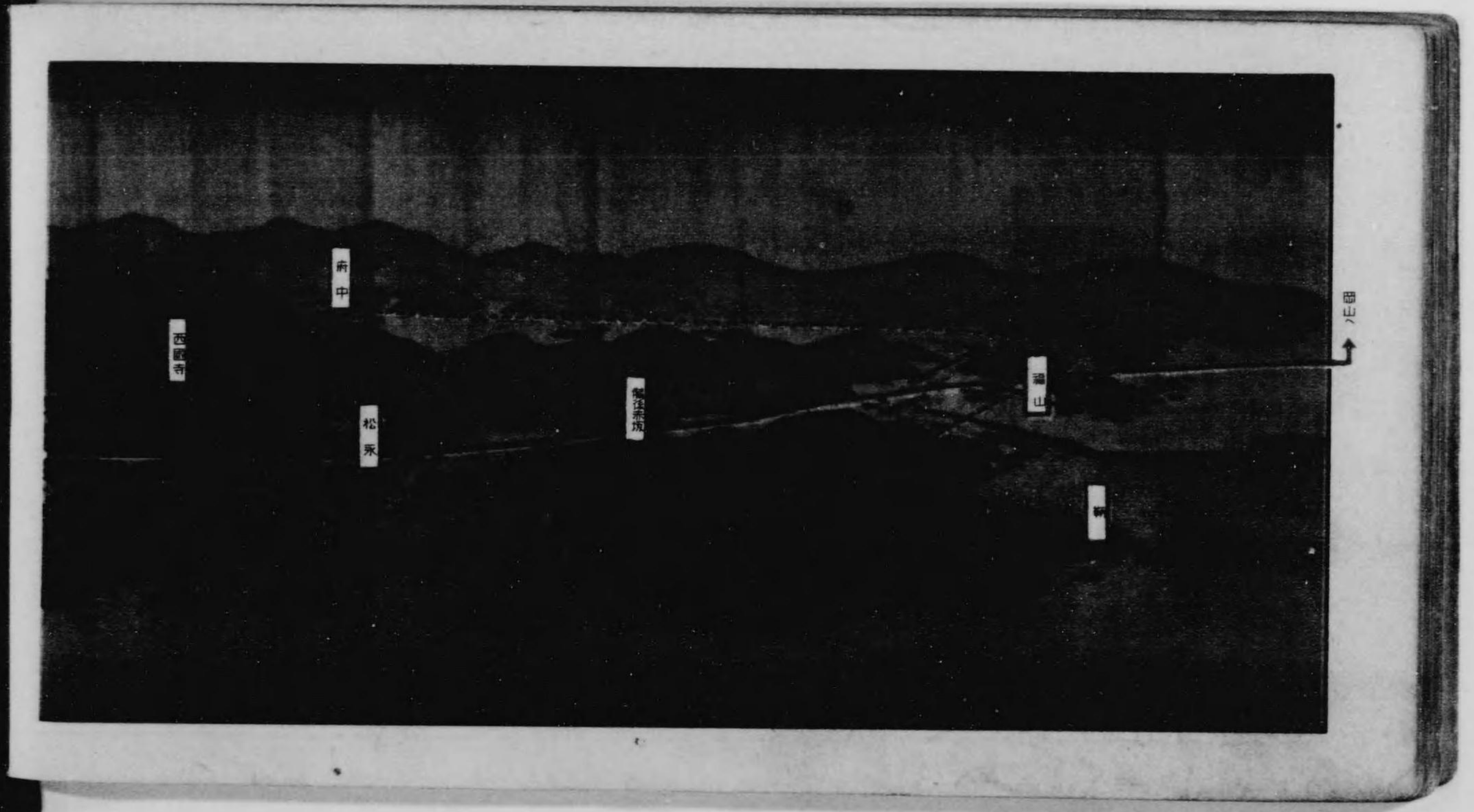
山口	四五、五三二圓	(大正八年)
和歌山	三六、一八二圓	四四、二四六圓
廣島	一四、一八三圓	一九、六二五圓
山口	一三、〇七五圓	二、八四〇、八九一圓
和歌山	一三、〇七五圓	(大正八年)
山口	一三、〇七五圓	一、三六〇、七〇一圓
山口	一三、〇七五圓	(大正八年)
山口	一三、〇七五圓	四、九四六、三〇〇圓
山口	一三、〇七五圓	四、四七二、〇〇〇圓
山口	一三、〇七五圓	四、三三三、三〇〇圓
山口	一三、〇七五圓	四、三三三、三〇〇圓
山口	一三、〇七五圓	一、二六〇、一三三圓
山口	一三、〇七五圓	(大正八年)
山口	一三、〇七五圓	一、五四六、四七六圓
山口	一三、〇七五圓	八、六八二、〇〇〇圓
山口	一三、〇七五圓	一、五二二、〇二二圓

【篠目】(しのみ) ▼長門峽探勝 縣から東北廿丁の御堂原より高瀬に至る約三里廿丁に亘る阿武川峽谷を長門峽といひ、空氣の變化、石脈の横斷、水中の巨岩及石色石理、瀑布及淵潭、天然喬木林の五大特色があり、長門耶馬溪とも言はれてゐる、此旅行は高瀬から川舟で舟行四里(十人乗十艘貸切三圓、一時間半)萩町に出られるから一日でよいが、途中湯ノ瀨温泉に一道すると面白い、案内料二圓、(旅館湯ノ瀨館、萩町旅館富田屋、大阪屋、いづ屋)萩から歸途繪堂迄五里十丁、自動車



賃二圓五十錢、繪堂から景情穴、秋吉の瀧穴を巡遊するも面白い。【徳佐】(とくさ) 山口線の終點、津和野町は東北三里、自動車賃二圓、賃賃二圓五十錢、馬車賃一圓五十錢

【小野田】(おののた) セメント工場へ行く小野田輕便の接續點【厚狭】(あつち) 六八一哩 大嶺線の分岐點、同線は厚狭大嶺間一二哩二分、海軍探炭所は大嶺線の西三丁、大嶺無煙炭坑は同北一里である、又この線の伊佐郡からは美濃輕便線が岐れて於福まで行く、深川温泉は其重安郡から北三里九丁、自動車賃一圓七十錢、馬車賃一圓廿錢、賃賃二圓五十錢。旅館大谷屋、白木屋【小月】(こつき) 長門鐵道は茲より西市に行く、鐵山温泉は其西南から北四里、自動車賃二圓、馬車賃一圓十錢、賃賃一圓五十錢。旅館日の出屋、山城屋【長府】(ながふ) 六九四哩 ▼國幣小社思宮神社、西牛里傳賃廿五錢、仲哀天皇豐浦宮址である ▼乃木神社及乃木將軍舊邸、西南牛里傳賃廿五錢 【長門一ノ宮】(ながといちのみや)



▼官幣中社住吉神社、南一丁、社殿安置で三韓征伐の戦利品大鐘を蔵する。【備註】はたご、長洲鐵道は並より小串に行く、川瀬温泉は其川瀬温泉から東十五丁俵貫世銭、旅館藤井、おだふく【下關】(しものさき) 七〇二哩入 神戸から約十三時間、神戸



からは三二九哩三 中國地方の西南端、下關海峡の北岸に在り、豊前の門司と相對して瀬戸内海の西口を扼し、交通上、軍事上極要の地點を占め、本邦主要の開港場である、今人

口七萬二千人を有し中國第一の貿易港で、大正七年の貿易額は輸出六百四十萬圓輸入一千二百萬圓に上る、硯、雲丹、泡雪、龜甲煎餅、鯨尾羽毛、平家蟹等の名産がある、連絡汽船あり、對岸の門司へは十八分、朝鮮の釜山へは晝夜二回の連絡便あり、十一時間半を要し、南滿洲鐵道朝鮮線京城行列車に接續して居る。驛前には省直營の山陽ホテルあり、館内各室とも清楚を旨とし、酒場、玉突き場、閱覽室、浴場等の外船車連絡客の爲め特に無料休憩の設備もあるから、宿泊は無論であるが、汽車汽船の待合せ、入浴食事等にも便利である、宿泊料歐式一日(食料を含まず)金三圓以上、米式一晝夜(三食及風呂喫茶一回を含む)金八圓以上、食事料朝食一人前金壹圓二十錢、晝食同金二圓三拾錢、夕食同金二圓三拾錢、市街は後に丘陵を貫ひ、前は直に海に瀕して、東は壇浦より西は彦島に連つて居る、其後山に登れば、眼界遠く開け、山光水色畫くが如く、山陽線中程に見るの佳景である、官幣中社赤間宮は東廿丁、俵貫四十錢、紅石山麓に在り、境内に隣して安徳帝の御陵あり、附近平家一門の墓あり、懐古の情を催さしむるものが多い、宮より東數丁壇浦があり、浦に平家蟹及小平家を産する、龜山神社は東十六丁、俵貫三十六錢、海岸丘陵に在り、關門の風光一時の中に在り、鹿門に掲げある「鎮西第一勝」の名に恥ぢぬ、春帆樓は東十九丁、日清講和談判場、俵貫四十錢、永福寺は東六丁、俵貫二十錢、大同年間創建

の古刹で水陸の展望が佳い、小門は西二十二丁、俵貫四十四錢、海水浴場あり、風光佳、附近の漁夫夏秋の交、夜々小舟に松明を焚き網を以て魚類を捕ふ、之を小門の夜焚と云ひ素人もまた抄網を以て容易に捕獲することが出来る、雇船賃四人乗一夜七圓、奔流渦巻く所、巧に舟を操り 趣味多き遊である、旅館山陽ホテル、春帆樓、大吉樓、常六、岡崎、金波樓

楠公の墓に屋根あり春の雨 子規
見渡せばながむれば見れば須磨の秋 芭蕉
いばりせし蒲團干したり須磨の里 蕪村
村雨のとぎれくや曾根の松 其角
書寫増位いづれ紅葉のわせおくて 鷗嘯
秋風や鬼とりひしぐ吉備の山 去來
薰風やともしたてかれついつくしま 蕪村
宮島の神殿はしる小鹿かな 子規

中央線

中央線とは

- 一 中央本線 東京、鹽尻、名古屋間二五哩及貨物支線
- 一 篠ノ井線 鹽尻、篠ノ井間四二哩一分

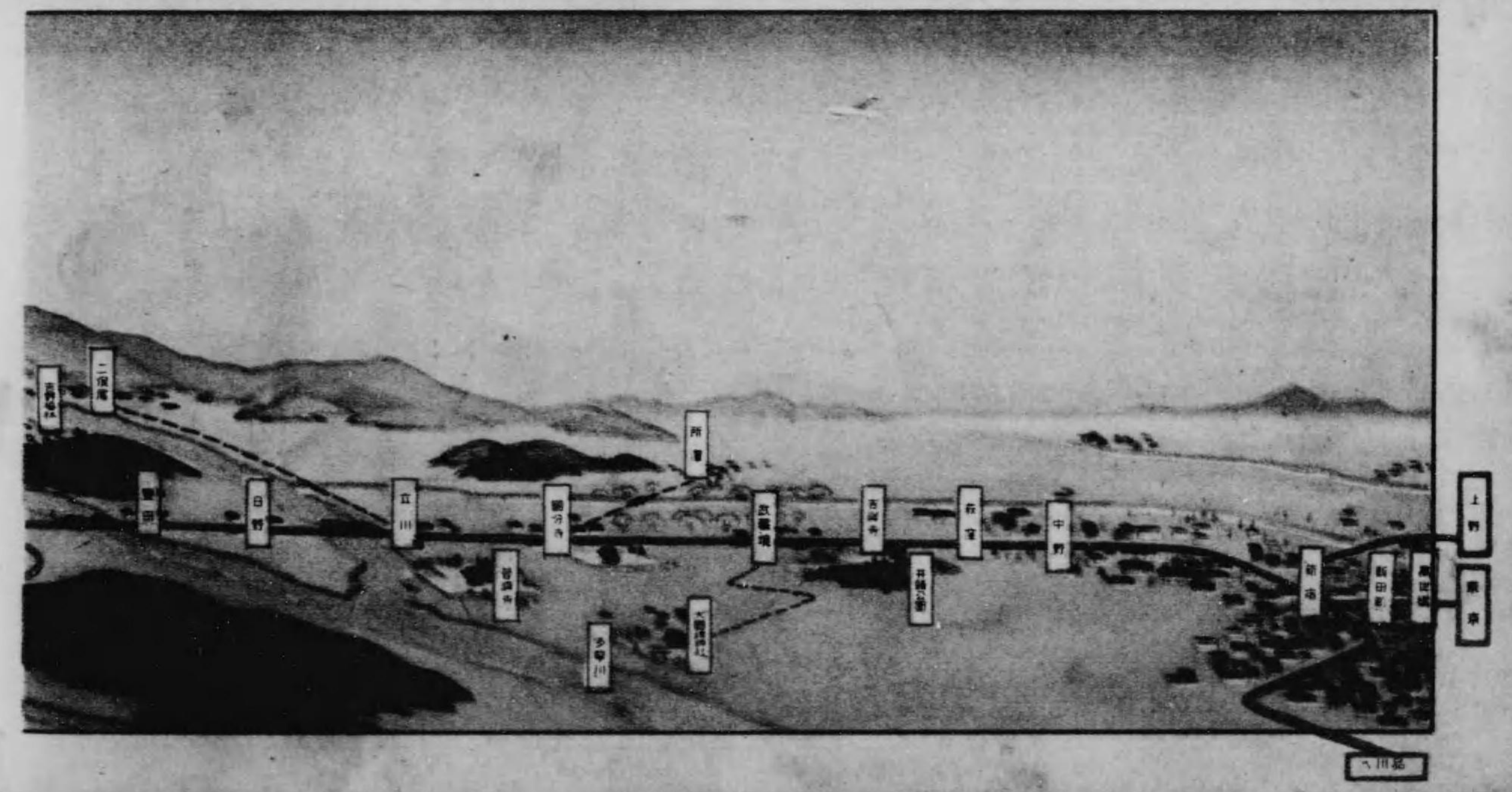
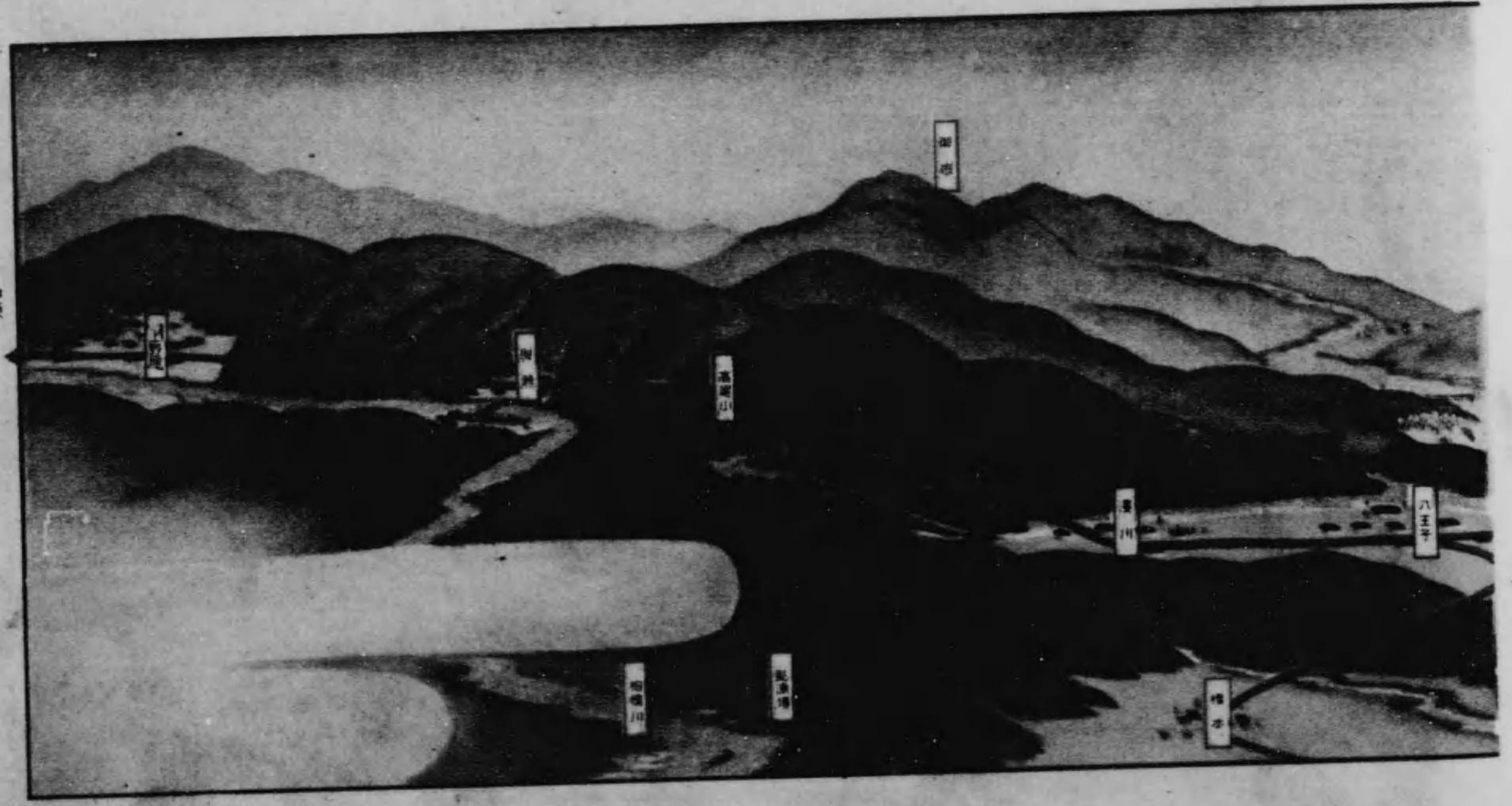
の總稱である。其本線は東海道線と同じく東京驛を起點として、市の中央部を迂迴して新宿に出て、武蔵野の平野を走つて桑の都八王子に至り、夫から山峽に入つて笹子の嶺を貫通して甲府に下り、富士見高原を越えて諏訪湖畔を繞り、鹽尻からは北に篠ノ井線を岐つて信越線と接続し、本線は西南を指して木曾路に入り、木曾川に沿つて木曾溪谷を走り、中津川からは濃尾平野に出て、名古屋に至つて東海道本線、關西本線に接続するのである。東京、吉祥寺間には電車の運轉あり、山手線を介して中野、代々木、萬世橋、東京、品川、新宿、田端、上野間を銚形に直通運轉する電車もあり、東京市内外の交通は非常に便利なものとなつて居る。汽車は飯田町驛を始發點として名古屋との間に相互一回の直通列車あり約十六時間半を要し、其他は鹽尻で乗替へねばならぬ。信越線との連絡を圖り、且つこの線から善光寺詣をする人の爲には、飯田町、長野間に一回、名古屋、長野間に三回の直通列車があり、飯田町長野間は約十三時間、名古屋長野間は約十時間で行けることとなつて居る。

沿線の風光には武蔵平野から見る富士の眺望、勝沼附近より下瞰する甲府盆地の展望、諏訪の湖光、木曾溪谷の美観、玉野川畔の勝景がある。特にこの線の通つて居る甲信地方には、富士火山脈を初め、飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈など、いはゆる日本アルプスの高山峻嶺が戈を竝べて連り登えて居るので、汽車の窓からの眺望は雄大崇高である。東海道線の汽車内から其下流のみを見て居る相模川や富士川や天龍川や木曾川などの源流に接するものも、旅行の興味を唆らる。

笹子の驛道を出て初鹿野に行くと、甲府平原の彼方に日本アルプス系の高峯たる白峯の北岳や間の岳、農島山から南の方赤石山、惡澤岳が望まれ、甲府に近づくにつれて其連峯の上に富士が次第に顔を出して見える。日野春から北富士見高原を登つて諏訪湖畔に下る間は、右には嶺々として天を突く八ヶ嶽あり、左には蔚然として聳ゆる甲州駒ヶ嶽あり、白峯の北岳も遙に見え、全く大嶽の觀望臺と云つても好い。高原の最頂點は富士見で、信越線追分驛と共に日本に於ける最高停車場の一、名にし負ふ富士觀望の勝地として世に知られて居る。

青柳に行くと初めて日本北アルプスの一部が眼界に現はれ、茅野からは八ヶ嶽の北に藝科の美しい姿が見ゆる。諏訪の湖光に別れて鹽尻に行くと種高山が其北方に聳えて、夫に續いて北アルプスの連山が戈を列れて天空を突いて居る。木曾路に入つてからは左には日本中央アルプスたる木曾山脈の駒ヶ嶽が見え、右には北アルプスの主峯たる「夏でも寒い」木曾の御嶽さんが見え、中津川からは左に船を覆せた様な惠那山が望まれる。夫に木曾溪谷の勝景として知られた「命をからむ」橋はしの址を初として寢覺の床、小野の瀧、賤母の風光、釣橋の奇景など皆汽車の窓から見ることが出来て、この線の旅行は足地を踏まずとも、得るところが多い様に思はれるのである。

沿線で主なる遊覽探勝地は、境、國分寺から行く小笠原の櫻、花の頃は臨時列車を増發する位である。立川からは青梅鐵道が岐れ、吉野の梅と御嶽神社に行く人が多い。奥瀬からは相模川の舟遊が面白く、鮎漁の出来る時分にはよく人が出かける。大月には吉田口から富士へ登る人の下車地で、夏は電車でも運びきれず、莞延を着た草鞋履の人の足が積く。甲府の近くには耶馬溪を二里に縮めた様な御嶽新道の奇景があり、其奥に行くと日本一の紅葉郷とも稱すべき瑞牆山があり、其處から日本一のワシム冷嶺泉の増富に出られる。富士川下りは甲府から軌道で



諏訪へ行かればならぬ、富士身延鐵道が大野の對岸まで延びて、東海邊方面からの身延詣が容易くなった今日でも、諏訪から波木井までの川下りの興趣がある爲め、甲府からの身延詣も未だ、捨てられぬ旅行であらねばならぬ。

諏訪は水滑場として嚴寒の賑ひを見せる、鹽尻から篠ノ井線に入ると、松本は日本北アルプス登山の關門で、信濃鐵道が大町まで延びて登山者の手引となつて居る、本線を木曾路に入ると夏は御嶽登山の白衣者が陸續と木曾福島や上松驛に下る、駒ヶ嶽、惠那山も亦山嶽崇拜者の標的とするの價を有つて居る。

中央本線

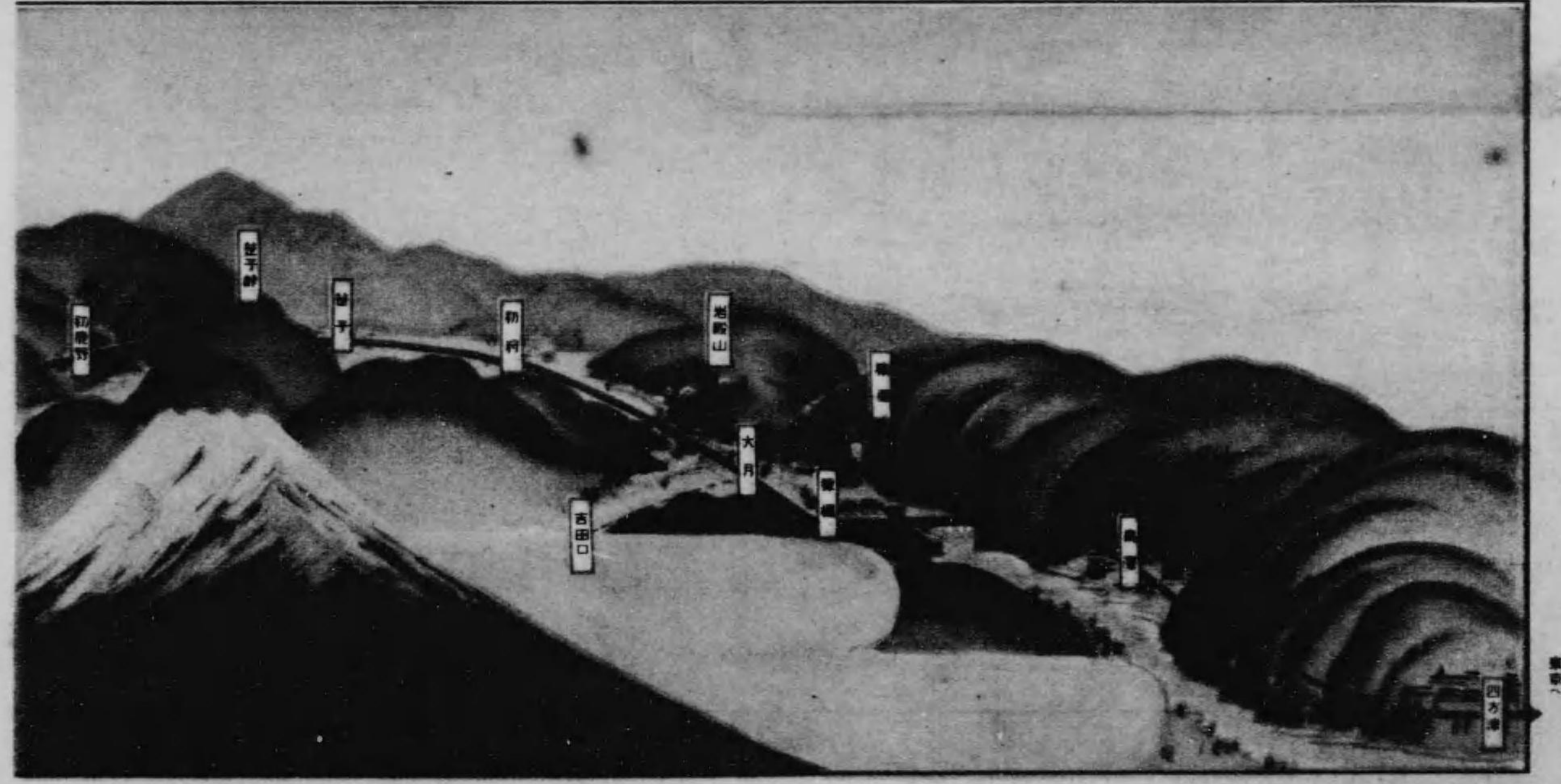
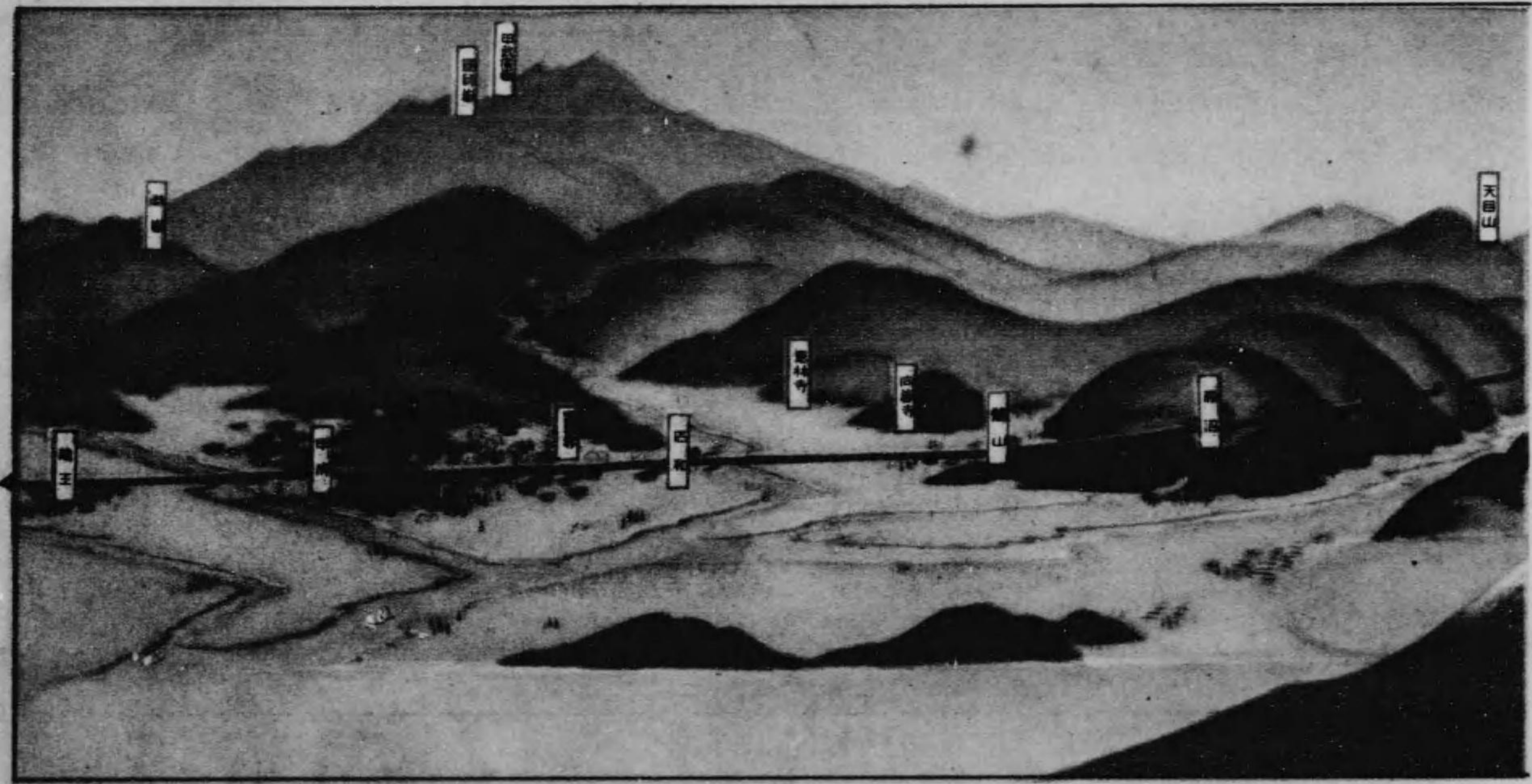
東京—名古屋 二五五哩

【東京】(とうきやう) 【飯田町】(いひだまち) 列車の始發驛である
【代々木】(よぎ) 山手線電車乗換驛である 【新宿】(しんじゆ) 山手線電車接續點である 【中野】(なかの) 堀内妙法寺祖師堂は南西二十二丁、日蓮宗の巨刹で十月のお會式が盛である、新井の藥師様は俗に子青藥師と云はれる流行佛、驛から北十二丁を隔てて居る 【吉祥寺】(きちじやうじ) 驛南三丁井頭恩賜公園があるので、電車は今この驛まで運轉して居る、井頭は古の神田上水の源泉池で、水清く境幽に、池を繞つて自然景林が茂つて居る、中島には辨天堂があり、邊りに楓樹が多い、丘上の大盛寺には、家光が辛夷の樹に小柄で井頭の二字を彫られたと云ふのを寶物として居る、辨當持參で家族連れの半日の逍遙に適當な處である 【武藏境】(むさしかき) 一六哩 ▼小金井の櫻、この驛の西北十丁位の處から、次驛國分寺驛の北十五丁位の處まで、多摩川上水を挾んで櫻樹が二里餘りも續いて居る、中に小金井橋畔から上流下流を見渡した景色が好い、此處の櫻は江戸幕府時代に日本の各地方から山櫻の優れた種類を集めたもので、樹齡百年乃至二百年に及ぶものもある、日の出櫻、入日の櫻、三吉野櫻、小町櫻など特に名木と稱せられて居る。多

くは境から行つて國分寺から歸るのが例となつて居る、花の見頃は四月十五、六日から二十七八日まで、傳賢境から小金井橋まで五十錢、國分寺から喜多橋まで二十錢 【國分寺】(こくぶんじ) 一九哩五 武藏水電川越線の分岐點、同線は所澤を経て川越まで一八哩四分、賃金三等五十六錢、所澤には航空隊があり、入間川附近は鮎流に通し、川越には名高い喜多院がある

▼國分寺及國府址、今の府中町は中古武藏の首府として榮えた處で、其本町に古の國府の址があり、驛から府中に行く途中から少し右に入ると國分寺の址も残つて居る、府中には官幣小社の大國魂神社があり、附近には分倍河原の古戰場や小山田城址などもある、小金井の櫻を見て國分寺驛に出で、國分寺や國府の址を見るのは、東京から其日歸りの散策地として適當なるもの一つである。府中まで馬車賃二十五錢 【立川】(たちかはし) 二三哩三 驛の附近に多摩川鮎漁場があり、季節には遊漁に出掛くる人が多い ▼青梅鐵道、この驛から分岐し、青梅を経て二俣尾まで行つて居る、一四哩七分賃金四十錢、福生から南西四里には横籠村戸倉村があり、青梅丸太の産地として知られて居る、青梅は青梅縞の産地で、日向和田、二俣尾附近に石灰岩が出るので榮えて行く、近年關東一の梅林として知られた吉野村へは、日向和田から川を渡つて七八丁だが、青梅からは一里あまり、人力車賃一圓、自動車も行く、途は多摩川に沿つて好い景色がある、二俣尾から向川に沿つて二里ばかり行くと御嶽山があり、東京附近に珍らしい山水美に富んだ處で、舊御師の内に泊めて呉れる。例祭は四月八日から一月の間で、其間は替に參詣者が多い、東京からは一夜泊りの旅行に恰好な處である。

多摩川の上流を尙湖ると水川の幽境があり、日原の鐘乳洞があり、小河内温泉などがあり、御嶽から奥へかけて三四日の草鞋旅行も興多きものである。二俣尾から水川村は西四里、傳賃二圓五十錢、馬車賃二圓、日原の鐘乳洞はそこから三里の奥、

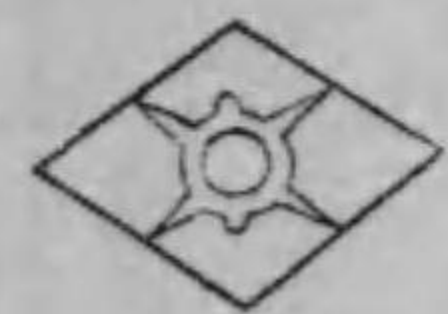




俵は行かぬ【八王子(はちおうじ) 二九哩四
飯田町から一時間半、横濱線の接續點、關東
に於ける主要なる機業地の一で、桐生、足利
と相比せられて居る、人口は三萬九千人を有

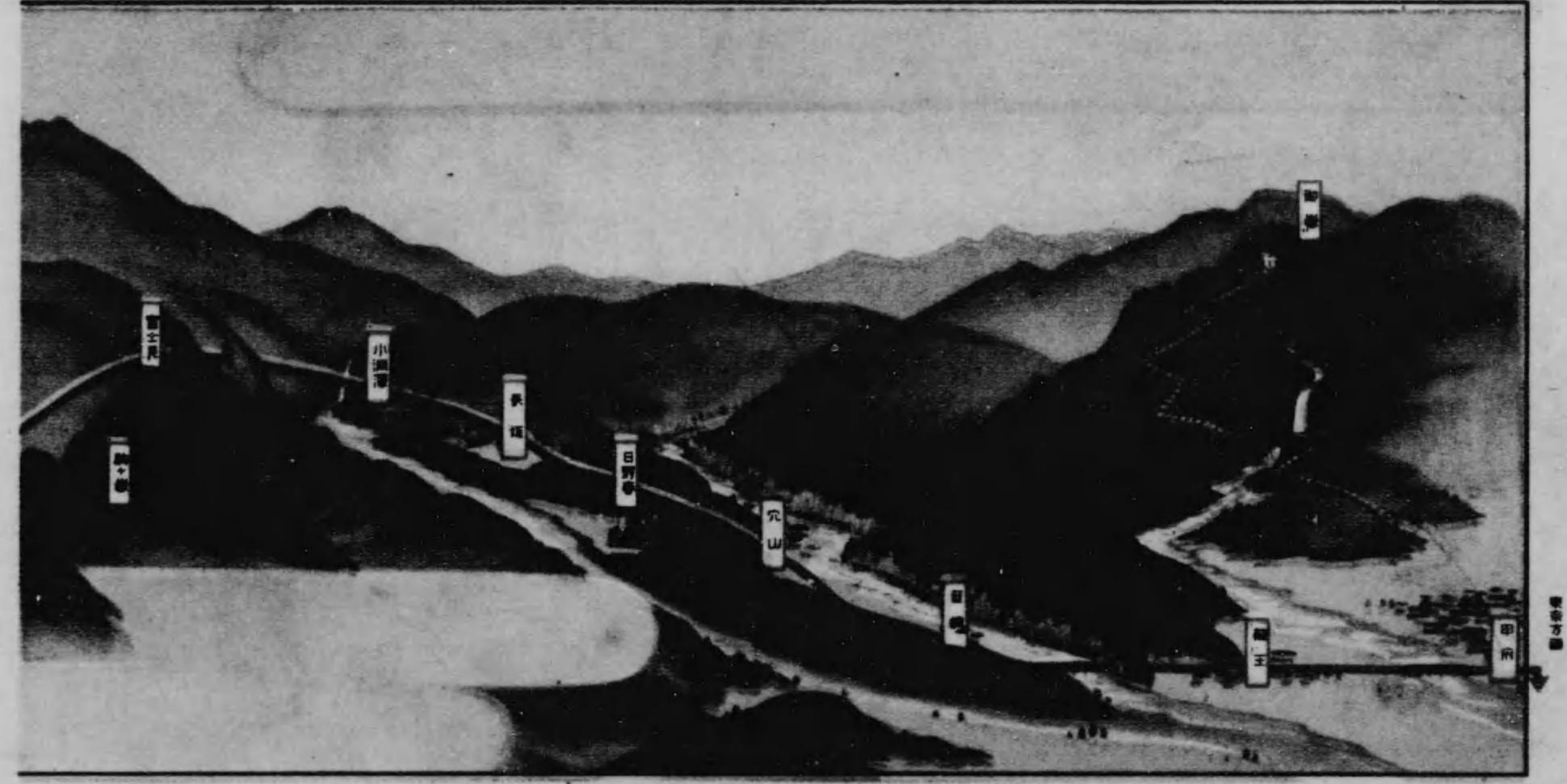
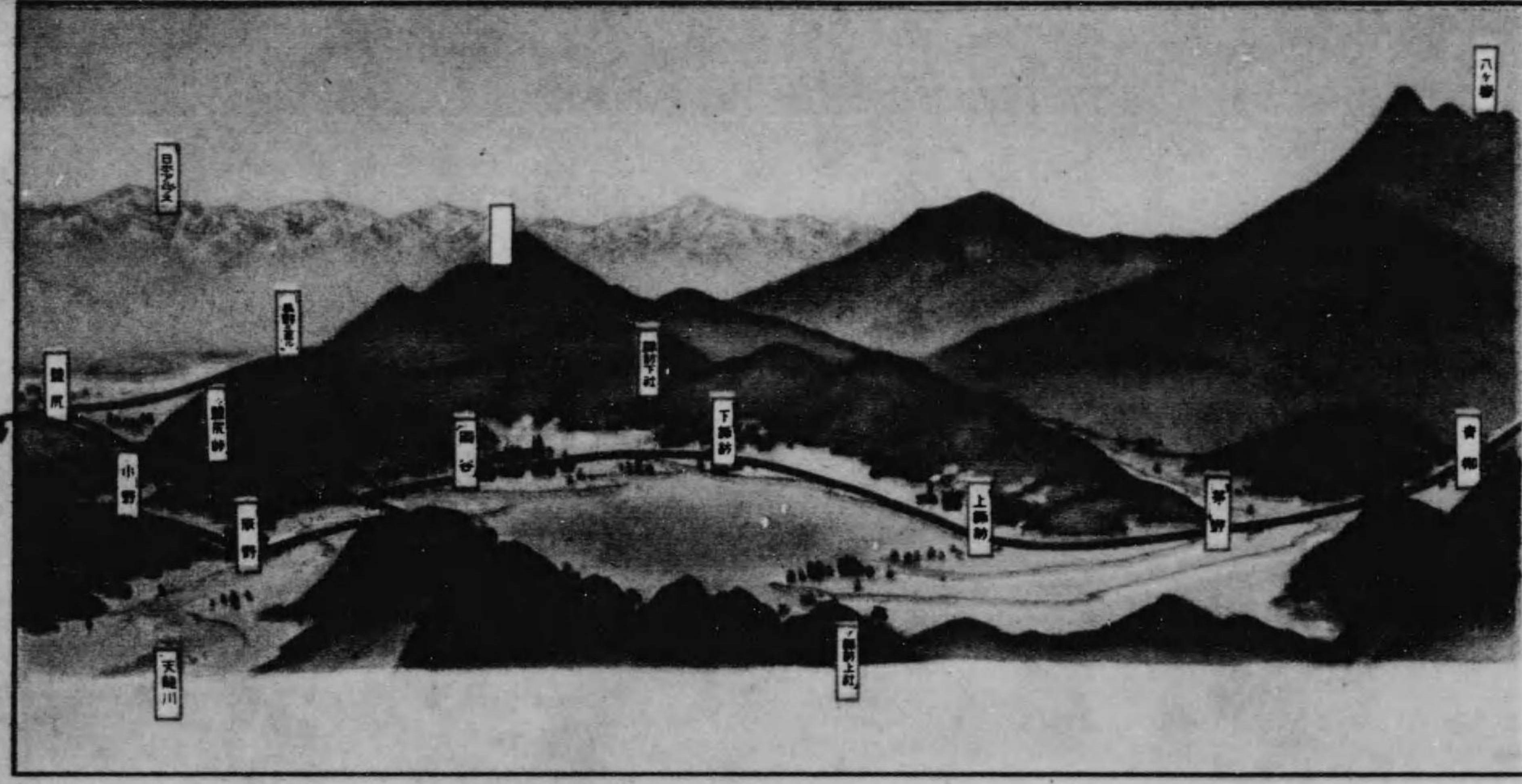
し、八王子織物整理染職工場、久保田漆系整理工場、兩角織物
工場などがある、旅館徳利龜屋、角喜【淺川(あさかひ) 三三哩
▼高尾山、山麓まで半里、乗合自動車賃三十錢、俵賃三十五錢、
山麓から藥王院まで二十五丁、途中蛇流と琵琶瀧に降る道があ
る、精神病を治すとか云ふので夏はお籠りするものが多い。
藥王院の西岡見晴臺は四願十二州に及ぶと云ふ、山は紅葉の名
所として知られて居るが、楓樹は澤山には無い、只東京から日
歸りの出来る時、都人に山と云ふ觀念を興へる好教室であるか
ら、小學生の修學旅行などに最適當な場所とせられて居る

【奥瀬(おくせ) 三八哩九 相模川舟遊、西南十丁を離れた勝瀬
から乗船、厚木まで舟程八里、五時間下る、厚木附近は站瀧
が出来るから、夫をかねて舟遊する方が興が多い、【猿橋(さるばし) 三
はし 五三哩 ▼猿橋、汽車猿橋驛に近づいて桂川を渡る時右
窓近くに見ゆ、驛からは東十二丁俵賃二十錢、名高い日本三奇
橋の一で、長さ十三間、橋上から水際まで十七間、斷崖絶壁相
對峙する處に架る、柱下一柱の支ふるものなく、崖を穿つて礎
を置き、互に層疊して寸を延べ尺を進め、以て空外に合ふ ▼東
京電燈駒橋發電所、西五町、水景一秒時に七百五十立方尺、落
差三百四十五尺、水車軸に於て約二萬二千五百馬力を得、本邦
有数の發電所である 【大月(おほつき) 五四哩六 ▼富士登山
と裾野巡り、吉田口から登山する人は、この驛に下車す、吉田
まで自動車五人乗賃切十五圓一時十八分間、馬車鐵道賃金九十
錢二時四十分間、此方面は富士の裏裾野で、富士八湖中七湖を
有し、登山路の眺望も駿河方面より好く、五合目まで森林帯で
日光の直射を避けることが出来るので、最易な登山路である、



昔の富士行者は多く此方面から登つたものだ。普通の歩調で登
り五時間下り三時間位であるが、八合目に一泊して翌朝頂上に
て御來光を拜する人が多い、吉田から馬返まで上り馬車賃一圓
二十錢、胎内廻二十錢増、乗馬賃一圓五十錢、胎内廻五十錢増、
駕籠賃五圓、馬返から五合目まで乗馬二圓駕籠四圓五十錢、下
りは凡て廉くなつて居る。強力は客五人一組荷物五貫目迄吉田
口上下三圓五十錢、中道廻三圓五十錢、吉田口登山須走口下り
四圓五十錢、八湖廻五圓、山舎休泊料富士山ホテル一泊二圓三
十錢、其他は一泊一圓六十錢、半泊一圓である。富士裾野廻遊
も亦この吉田口を起點とする方が便利である、記事東海道線參
照、吉田口旅館大外河芙蓉閣、利部、小菊、精進湖畔精進ホテ
ル【笹子(ささこ) 驛から笹子峠の頂まで一里、甲州街道第一
の險路であつた、今鐵道は此峠を横貫して行く、隧道の長さ一
萬五千二百七十五呎、現時に於て日本一の隧道である 【初鹿
野(はつしかの) ▼天目山、東一里半、山麓景徳院あり、武田氏滅亡
の地である 【勝沼(かつぬま) 驛前甲府盆地一帯を見渡した眺
觀がひろい、町は驛南十丁、甲州葡萄の本場である、芭蕉に句
あり「勝沼や馬子も葡萄を食ひながら」 ▼大善寺、東南十五
丁、甲州第一の古刹である 【鹽山(しんざん) ▼惠林寺、西北
三十丁、俵賃五十五錢、夢想國師の開基で、其庭園が名高い
▼向嶽寺、十丁 【日下部(ひさかべ) ▼淺間神社、南一里半、俵
賃一圓、祭神は木花開耶比咩命、古の甲斐一の宮今國幣神社で
ある ▼笛吹川に沿つて秩父へ、笛吹川の沿岸には奇勝多く、
差出の磯など世に知られて居る、其上流に溯つて武甲國境に
雙ゆる雁坂峠を越えて秩父に入るの道あり草鞋旅行に適す

【甲府(かふち) 八二哩七 飯田町から五時間
半、甲斐國の中央、甲斐平野の中央に位し、
一國一都會の觀あり、百貨の集散甚盛に、生
糸、繭、葡萄、織物、葡萄酒を産し、印傳、



水品、枯露樟、月の栗の名産あり、人口五萬六千人、市附近舞鶴公園、武田城址、夢山、遊龜公園、酒折宮址、善光寺、武田氏三代の木像を有する大泉寺あり、旅館談露館、佐渡幸、米倉、古名屋、御嶽から瑞牆山へ、金櫻神社までは北四里、和田峠を經る道と、吉澤村を經る道とあり、和田峠麓まで俵貫四十錢、



吉澤村まで八十錢、兩道天神平で合ふ、夫より北二里の間、荒川の沿岸山水の奇勝多し、望鷹石、長潭、不動瀑、駱駝石、猿石、猿岩、結松、五月雨岩、寒山拾得岩、龍潭瀧、登龍岩、天鼓林、蟾石、羅漢山、天狗岩、夢の松島、覺圓峯、石門、雨避岩、雪紅瀑、昇仙橋、仙娥瀑、皆各趣あり、昇仙橋附近覺圓峯

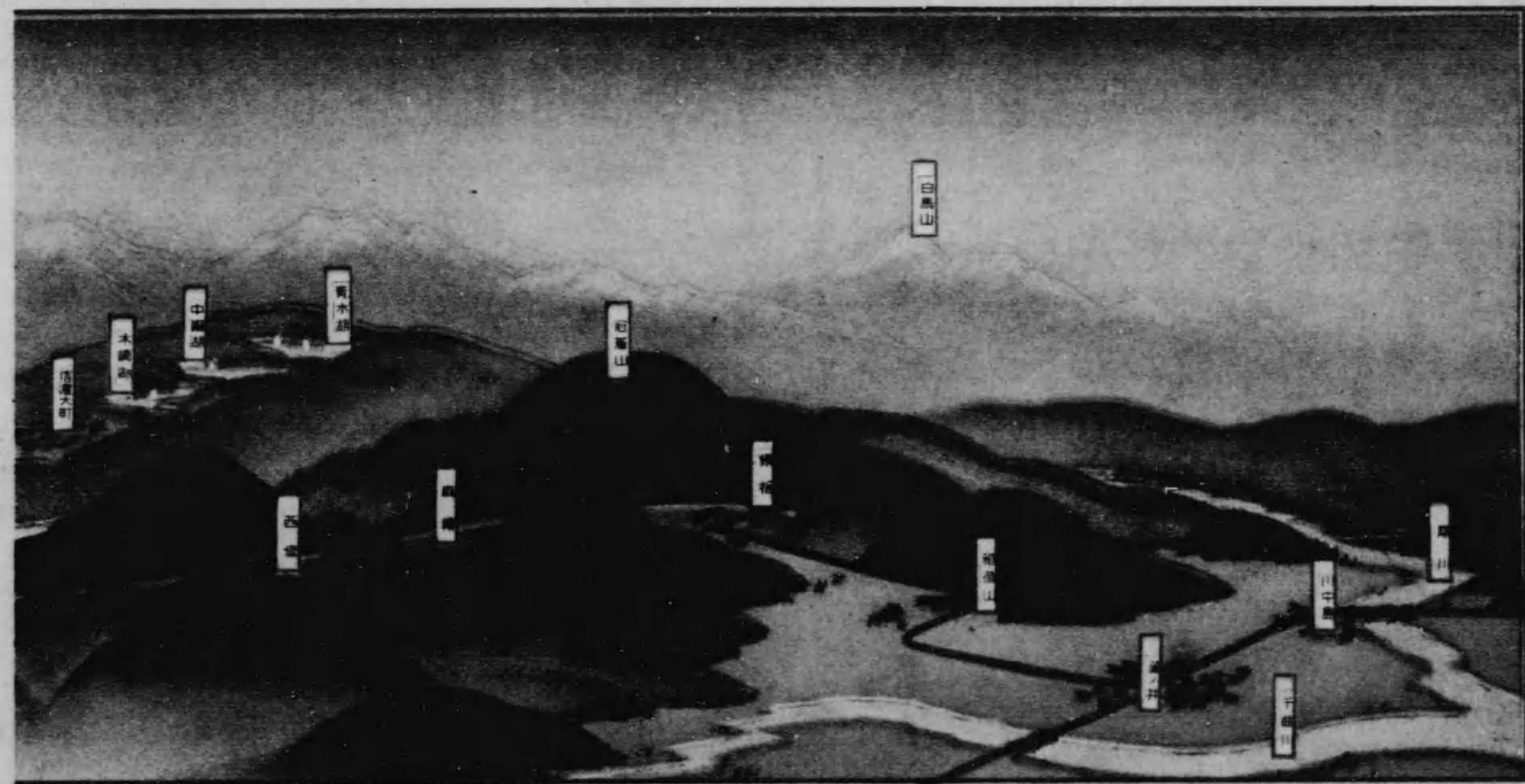
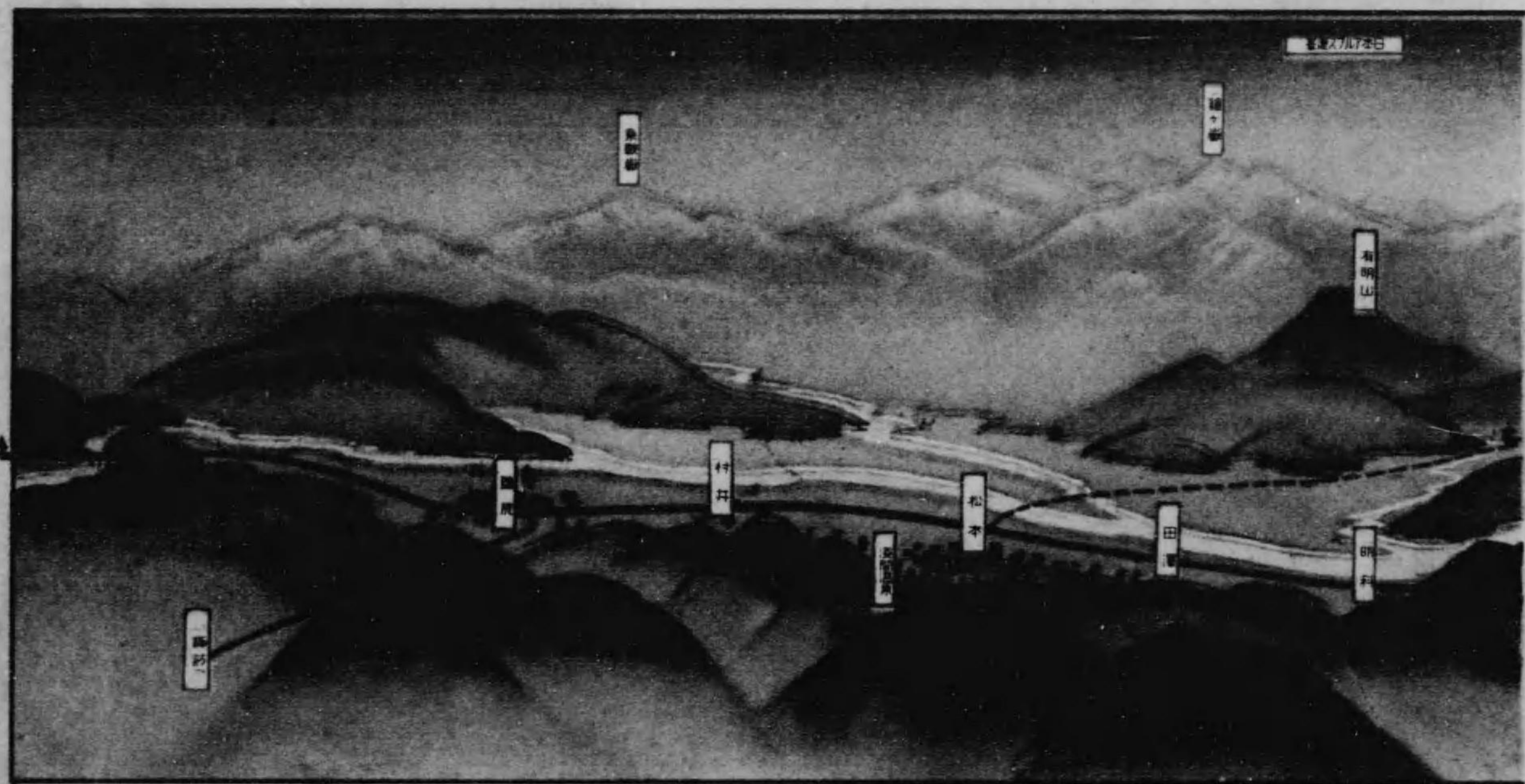
の天牛に聳立する壯觀と、仙娥瀑の幽谷に懸れる麗觀を絶景とす、仙娥瀑から猪狩村を經て二十丁行くと御嶽金櫻神社がある、神社から奥七里、日本一の紅葉郷とも云ふべき瑞牆山あり、黒平を經て金峯山の本宮に詣て、瑞牆山の勝を見てラヤウム泉で名高い増富に出るは興多き草鞋旅行である、富士川を下りて身延へ、身延参詣は富士身延鐵道が大野の對岸まで延長してから、東海道線方面からする人が多くなつたが、甲府からは、富士川下りと云ふ興味が添ふから、時日の餘裕のある人は、やはり往路を甲府からし、歸路を富士身延鐵道に頼らるゝが好い。甲府から鐵澤まで四里廿五丁、自動車六人乗貫切十二圓一時間、俵貫二圓、馬車鐵道賃金七十五錢約二時間、鐵澤から波木井まで舟路五里、通船定期前八時半十一時半の二回、船賃乗合一名九十錢、賃切は二十人分、約三時間で下る、波木井から身延へ一里八丁、俵貫八十錢、身延から身延驛まで一里廿丁俵貫一圓

葡萄の主要産地

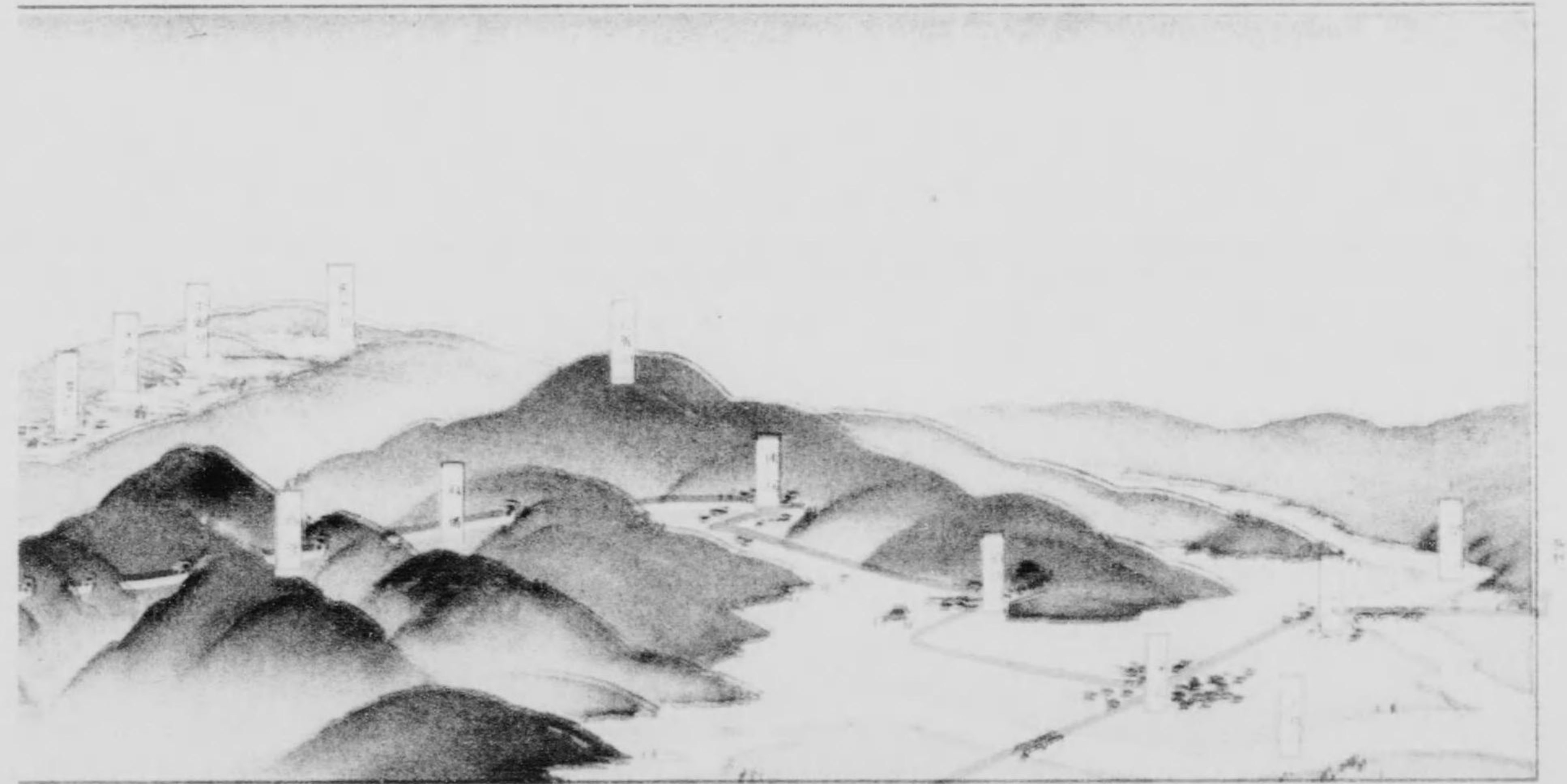
山梨	七三六、四六四圓	長野	(大正八年)
新天	一三三、三六〇圓	廣島	二六三、九三七圓
新天	一五五、四〇二圓	全	二二五、一九一圓
山梨	三、五二二、二四五圓	全	三、五一四、五五六圓
山梨	六八五、九二八圓	全	(大正八年)
山梨	一〇、五二二、三三八圓	全	一、〇五二、三三八圓
山梨	五、八四八、七二二圓	全	五、八四八、七二二圓

【蘆崎】(にらさき) 白峰山、山麓蘆安村まで四里、其處で案内者を雇ふがよい、山は海拔一萬二百十二尺、北嶽、間の嶽、南嶽を三大主峯として幾多の支峯がある、頂上から北は信濃境上の嶺峯列嶽より、正北に駒ヶ嶽、東北に鳳凰山、其東南に地藏岳、東北に千丈ヶ嶽など見え、日本無双の大觀を展開して居る、増富ラヤウム冷礦泉、北六里、大豆生田まで二里半、馬車賃三十

露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影



五錢、俵賃一圓三十錢、大豆生田からは數ヶ所の峠があり、老幼には稍困難である、乗馬賃約三圓五十錢、駕籠約十圓五十錢、温泉旅館金湯、三英館、藤本屋、山間の僻地で食物不便、露詰持参の必要がある。増富から瑞牆山、御嶽の勝を採つて甲府へ出る草鞋旅行が面白、▼新府城址、西一里七里岩上に在り、壘壁依然として居る【日野春】(ひのはる) 驛西一里實相寺内の神代櫻は、大きき四丈五尺長さ十三間餘、樹齡千八百年、日本第一の大櫻である、開花四月中旬【小淵澤】(こぶしざ) ▼駒ヶ嶽、山麓まで南三里半 ▼八ヶ嶽、山麓まで北一里半【富士見】(ふじみ) ▼海抜三千百三十五尺、四圍の大嶽の觀望展し【茅野】(ちの) ▼山の温泉めぐりから大門越、驛北三里乃至五里の間、藝科、八ヶ嶽山麓地方に流、明治、濠、唐澤の諸温泉あり、其温泉めぐりをして大門峠を越えて、靈泉寺、鹿救湯、別所の温泉めぐりをして信越線に出られる【上諏訪】(かみすまは) 一二四哩一【下諏訪】(しもすまは) 共に諏訪湖畔に在り、製糸業地として温泉地として、冬は諏訪湖の水結によつて氷滑場として知られて來た、上と下と隔年に氷滑場を設くることゝなつて居る、湖は周圍五里に近く、海抜二千五百尺の高地に在るが、上下諏訪、岡谷の製糸工場の烟突湖畔に林立して居るので、山湖と云ふ感じに乏しい、昔から御波と靈氣樓の現出が名高くなつて居る、御波は氷湖面が氷結してから、水面に現はる、高い山脈の横なもので、上諏訪から下諏訪へかけて五十丁ばかり幅四尺あまりもある、諏訪の神が小坂の女神の許に通ひ給ふ道だと云ふので御渡りと呼ばへ、御渡りがあつてから人馬の往來を初むることゝなつて居る。其諏訪神社は建御名方神と其妃八坂刀賣命を祀る信濃無雙の神社で、今官幣大社に列し、上下兩社に分れ、上社は諏訪から南一里半馬車賃三十錢、下社は春秋兩宮に分れ、共に下諏訪から六七丁の近くに在る、旅館と諏訪牡丹屋、布半、諏訪ホテル、鷺之湯、下諏訪龜屋、桔梗屋、丸屋【岡谷】(おかや) 一二九哩



一日路程 往復ニハ約二倍ノ日數ヲ要スルト知ルベシ

三 製糸業地として世界的に名を知れて居る、現在製糸工場數二五三、釜數三五、九六七、工女五三、六八五人である。〔辰野〕(たつの) 一三五哩二 ▼天龍川下り、川下りの興は富士川、球磨川よりも多い、兩岸に屏風を樹てた峡谷の底を瓜皮の舟に乗つて走る、辰野上片桐間十二里十五丁電車賃一圓廿三錢、上片桐飯田町間四里半自動車賃二圓五十錢、飯田には旅館蕪糟堂、柳絲館、巴館あり、飯田から乗船場の時又まで二里俵賃一圓五十錢、時又發船午前六時、舟路二十五里約十二時間で遠江の鹿島に著く、船一艘備上げ賃金百五拾圓、乗客十五人内外が適當である。時又にはかれて舟や舟夫が居ない、八里も下流の瀧島から漕ぎ上らねばならぬから、所要の場合は少くも四五日前に龍丘村時又通船組合に申込んで置くの必要がある。舟は長さ四十尺幅四尺一寸板で船體共に同形に作つてある、一艘舟夫四人前頭と後方に各一人、水路の注視と船體操縱の任に當り、中部の二人は進行を掌る、下りは十二時間だが、上りは出發地點に歸るのに晴天で七日、雨天や増水の時は十日以上も要るさうだ、鹿島濱松間遠州軌道賃五十八錢、軌道終點と濱松驛間約四丁である ▼虎岩の光水、飯田在下堅村字下虎岩に在り、光澤の群生したもので、水面に黄金色の光輝を放つ、此處は穴が西南の方に向いて居るから、夕日を受けると美しく光る〔壺尻〕(しほり) 一四六哩二 篠ノ井支線の分岐點

篠ノ井線 この線は鹽尻篠ノ井間四二哩一分、中央本線と信越本線との接續線となり、名古屋方面と東京方面からこの線を通じて長野との間に直通列車がある〔松本〕(まつもと) 八



哩六 飯田町から約十時間半、もと月田氏六萬石の城下、松本平に在り厚川に臨む、人口五萬人、養蠶業盛に繭、産蠶卵紙の取引が多い、市旅館松本ホテル、宮坂旅館、

淺間温泉東北一里自動車賃五十錢、旅館西石川、目ノ湯 ▼日

三 製糸業地として世界的に名を知れて居る、現在製糸工場數
 二五三、釜數三五、九六七、工女五三、六八五人である。〔辰野〕
 (たつの) 一三五哩二 ▼天龍川下り、川下りの興は富士川、球
 磨川よりも多い、兩岸に屏風を樹てた峡谷の底を瓜皮の舟に乗
 つて走る、辰野上片桐間十二里十五丁電車賃一圓廿三錢、上片
 桐飯田町間四里半自動車賃二圓五十錢、飯田には旅館蕪格堂、
 柳絲館、巴館あり、飯田から乗船場の時又まで二里俾賃一圓五
 十錢、時又發船午前六時、舟路二十五里約十二時間で遠江の鹿
 島に著く、船一艘備上げ賃金百五拾圓、乗客十五人内外が適當
 である。時又にはかかれて舟や舟夫が居ない、八里も下流の満島
 から漕ぎ上らねばならぬから、所要の場合は少くも四五日前に
 龍丘村時又通船組合に申込んで置くの必要がある。舟は長さ四
 十尺幅四尺一寸板で軸轆共に同形に作つてある、一艘舟夫四人
 前頭と後方に各一人、水路の注視と船體操縱の任に當り、中部
 の二人は進行を掌る、下りは十二時間だが、上りは出發地點に歸
 るのに晴天で七日、雨天や増水の時は十日以上も要るさうだ、
 鹿島濱松間遠州軌道賃五十八錢、軌道終點と濱松驛間約四丁で
 ある ▼虎岩の光水、飯田在下堅村字下虎岩に在り、光澤の群
 生したもので、水面に黄金色の光輝を放つ、此處は穴が西南の
 方に向いて居るから、夕日を受けると美しく光る〔鹽尻〕(しほ
 じり) 一四六哩二 篠ノ井支線の分岐點

篠ノ井線 この線は鹽尻篠ノ井間四二哩一分、中央本線と
 信越本線との接續線となり、名古屋方面と東京方面からこの
 線を通じて長野との間に直通列車がある 【松本】(まつもと) 八



哩六 飯田町から約十時間半、もと戸田氏
 六萬石の城下、松本平に在り摩川に臨む、
 人口五萬人、養蠶業盛に繭、産蠶卵紙の取
 引が多い、市旅館松本ホテル、宮坂旅館、

淺間温泉東北一里自動車賃五十錢、旅館西石川、目ノ湯 ▼日

本北アルプス登山、この方面からは松本及び松本から分岐する信濃鐵道沿線からする、乗鞍嶽は松本から西九里、安曇村の大野川からか、白骨温泉からか高山街道の野多からか登るが好い、海拔一萬四百四十八尺、飛騨山嶽中絶大の山で、これより北信飛境上には、いはゆる日本アルプス山系の高山大嶽を列ねて聳立して居る、大野川から乗鞍に上つて白骨温泉に出で、夫から北行して阿房峠(海拔六、四三五尺)硫黄嶽(六、七七五尺)穂高嶽(九、九一一尺)鎗ヶ嶽(一一、四二九尺)笠嶽(九、九〇〇尺)を跋渉し、進みて信越境上の五郎嶽(九、一〇〇尺)針木嶽(八、二二七尺)を経て、四折して越中に入り、立山の群嶺を跋渉して富山に出ることが出来る。この旅行は一ヶ月の時日を要し、導者、食量其他充分の用意がなくてはならぬ。日本アルプス登山に就ては今詳しく説明するの頁が無いから、日本アルプス登路概念圖を附して参考に供す。▼中房温泉、信濃鐵道有明驛から四里半、日本アルプス有明山、燕嶽方面登山者の發足地點である。▼仁科三湖、同鐵道終點大町驛から北三里乃至四里の間に木崎、中綱、青木の三湖あり、仁科三湖と云ふ、四邊の翠微影をひたして幽遠極まりなく、西方には鹿島鎗ヶ岳一帯の鋭角を仰ぐ歐洲アルプス山下端西の風光に彷彿たりと云はれ、夏期避暑の人多く、湖畔に夏期大學を開く、木崎まで自動車賃五十錢

▼白馬山登山、同大町から糸魚川街道を北に六里、北城村四ッ屋から登山するが好い、四ッ屋まで自動車賃二圓五十錢、

【明科】(まかしな) ▼山清路、北三里、犀川の迂曲灣屈せる深淵の西岸に聳立する絶壁奇岩より成る延長二里あまりに亘つて山水の景致あり、舟を雇うて流を下れば更に可、道も平坦歸路四條驛に出るが順路である。【嬭捨】(をばす) 驛前の展望甚佳、屋代を中心にして左右に幾村の人家散在し、千曲の流から川中島のあたり長野まで、善光寺平一面の地眼下に見

圖路山登嶽御普木



渡さる、前面には一重山を築にして鏡臺山が美しく聳え、冠着山は雨に峙つて居る、古から觀月の勝地として知られ、驛下の長樂寺に月見堂あり〔藤ノ井〕ののこ 信越線接続點

【木曾福島】(きよふくし) 一七二哩二 飯田町から約十一時間半 木曾路第一の繁華地、木曾川の西岸に跨る、東西兩京の中央に當り、江戸時代には關所を設けて居た、木曾山林の經營地として帝室林野管理局木曾支廳、木曾山林學校などがある、旅館つたや、岩や ▼御嶽登山、西北九里、信飛境上に聳ゆ、所謂日本北アルプスの主峯で海拔一萬五百十一尺、夏期は白衣の登山者踵を接す。登山路は王瀧口、黒澤口の二道あり、普通は王瀧口から登る。福島から王瀧登山道王瀧村まで籠貫九圓、中小屋まで二十四、田ノ原迄三十圓、黒澤登山道武居まで籠五圓強力二圓五十錢、松尾瀧まで籠九圓強力四圓、中小屋まで強力六圓、強力頂上まで兩道共十二圓、山廻一日二圓八十錢、二日四圓、福島から御嶽道にかゝるとやがて行人橋を渡る、オエドに行く道は二つに岐れる、右が黒澤口左が王瀧口である。名古屋方面からの人は上松驛に下車、棧にて橋を渡り三尾の日陰を経て王瀧口の常盤橋に出る、橋を渡るとやがて澤渡峠頂上に御嶽遙拜所がある、崩越から又道は二つに岐れて王瀧村にて合ふ、右して支道を辿ると鞍波橋あり、奇峭なる斑石に跨りて奔水瀧靑藍色を渦まき、木曾山中第一の奇橋である。王瀧村は福島から五里、谷に峙ちて軒を列れ、登山者の爲に宿泊を營むものもある。此處から登路を十合に分つ、二合目に清瀧を望み、五合目に寄生火山たる三笠山を見る、四合目五合目は鬱蒼たる森林帯で、六合目は田の原と云ふ窪地となる、矮樹點綴一望荒涼漸く高山に入った感じがする、田の原から山勢頓に急峻、五葉松の横断する間を覗きつゝ行く、頂上には王瀧口御嶽神社の奥社があり、そこから「八丁たるみ」を行くと黒澤口の登山道と合ふ、黒澤口御嶽神社は石階數十級を登つた上に在るのである